



Cisco Nexus 9000 NX-OS の基礎の構成ガイド、リリース 10.2(x)

初版：2021年8月24日

最終更新：2022年4月26日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>



第 1 章

新機能と変更情報

- [新機能と変更情報 \(1 ページ\)](#)

新機能と変更情報

表 1: NX-OS リリース 10.2(x) の新機能および変更された機能

機能	説明	変更が行われたリリース	参照先
POAP/HTTPS 用のハードウェア SUDI	POAP スクリプトを安全にダウンロードするためのサポートが追加されました。	10.2(3)F	POAP の注意事項および制約事項 (47 ページ) POAP スクリプトの安全なダウンロード (28 ページ)
NX-OS のデバイスコネクタ	NX-OS のデバイスコネクタのサポートが追加されました。	10.2(3)F	Nexus Switch Intersight デバイスコネクタ (171 ページ)
POAP ユーザーエージェント	POAP および非 POAP HTTP get 操作の HTTP get ヘッダーのサポートが追加されました。	10.2 (1) F	POAP の注意事項および制約事項 (47 ページ)



第 2 章

概要

この章は、次の内容で構成されています。

- [ライセンス要件 \(3 ページ\)](#)
- [ソフトウェア イメージ \(3 ページ\)](#)
- [ソフトウェアの互換性, on page 3](#)
- [サービスアビリティ, on page 4](#)
- [管理性, on page 5](#)
- [プログラマビリティ \(6 ページ\)](#)
- [トラフィックのルーティング、フォワーディング、および管理, on page 8](#)
- [QoS, on page 10](#)
- [ネットワーク セキュリティ機能, on page 10](#)
- [Supported Standards, on page 11](#)

ライセンス要件

Cisco NX-OS ライセンス方式の推奨の詳細と、ライセンスの取得および適用の方法については、『[Cisco NX-OS Licensing Guide](#)』を参照してください。

ソフトウェア イメージ

Cisco NX-OS ソフトウェアは、1つの NXOS ソフトウェア イメージで構成されています。このイメージは、すべての Cisco Nexus 3400 シリーズ スイッチで実行されます。

ソフトウェアの互換性

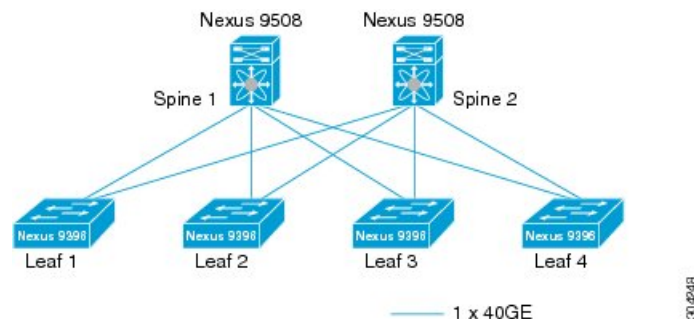
Cisco NX-OS ソフトウェアは、Cisco IOS ソフトウェアのどのバリエーションを実行するシスコ製品とも相互運用できます。Cisco NX-OS ソフトウェアは IEEE および RFC 準拠標準に準拠するどのネットワークング オペレーティング システムとも相互運用できます。

スパイン/リーフ型トポロジ

Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチは、2 階層のスパイン/リーフ型トポロジをサポートします。

Figure 1: スパイン/リーフ トポロジ

この図は、2つの Spine スイッチ（Cisco Nexus 9508）に接続している4つの Leaf スイッチ（Cisco Nexus 9396 または 93128）、および各 Leaf から各 Spine までの2つの 40G イーサネットアップリンクが存在するスパイン/リーフ型トポロジの例を示しています。



モジュラ式のソフトウェア設計

Cisco NX-OS ソフトウェアは、対称型マルチプロセッサ（SMP）、マルチコア CPU、分散データ モジュール プロセッサ上の分散マルチスレッド処理をサポートします。Cisco NX-OS ソフトウェアは、ハードウェア テーブル プログラミングのような大量の演算処理を要するタスクを、データ モジュールに分散された専用のプロセッサにオフロードします。モジュール化されたプロセスは、それぞれ別の保護メモリ領域内でオンデマンドに生成されます。機能がイネーブルになったときにだけ、プロセスが開始されてシステムリソースが割り当てられます。これらのモジュール化されたプロセスはリアルタイム プリエンプティブ スケジューラによって制御されるため、重要な機能が適切なタイミングで実行されます。

サービスアビリティ

この Cisco NX-OS ソフトウェアはネットワーク傾向およびイベントへの応答を許可するサービスアビリティ機能です。これらの機能は、ネットワークプランニングおよび応答時間の短縮に役立ちます。

スイッチドポートアナライザ

SPAN 機能を使用すると、外部アナライザが接続された SPAN の終点ポートに、セッションに負担をかけずに SPAN セッショントラフィックが送信されるようになり、ポート（SPAN ソースポートと呼びます）間のすべてのトラフィックを分析できるようになります。SPAN の詳細については、*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide* を参照してください。

Ethanalyzer

Ethanalyzer は、Wireshark (旧称 Ethereal) オープンソースコードに基づく Cisco NX-OS プロトコルアナライザツールです。Ethanalyzer は、パケットのキャプチャとデコード用の Wireshark のコマンドラインバージョンです。Ethanalyzer を使用してネットワークをトラブルシューティングし、コントロールプレーントラフィックを分析できます。Ethanalyzer の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS トラブルシューティングガイド』を参照してください。

Smart Call Home

Call Home は、ハードウェアコンポーネントとソフトウェアコンポーネントを継続的にモニタリングし、重要なシステムイベントを E メールで通知する機能です。さまざまなメッセージフォーマットが用意されており、ポケットベルサービス、標準の E メール、および XML ベースの自動解析アプリケーションに対応します。アラートをグループ化する機能があり、宛先プロファイルのカスタマイズも可能です。この機能の利用方法には、ネットワークサポート技術者を直接ポケットベルで呼び出す、ネットワークオペレーションセンター (NOC) に E メールメッセージを送信する、および Cisco AutoNotify サービスを採用して Cisco Technical Assistance Center (TAC) へ問題を直接送信する、などの方法があります。Smart Call Home の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』を参照してください。

オンライン診断

Cisco Generic Online Diagnostics (GOLD) では、ハードウェアおよび内部データパスが設計どおりに動作していることを確認します。Cisco GOLD には、ブート時診断、継続的監視、オンデマンドおよびスケジュールによるテストなどの機能があります。GOLD では障害を迅速に特定し、システムを継続的に監視できます。GOLD の構成の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』を参照してください。

組み込まれている Event Manager

Cisco Embedded Event Manager (EEM) は、ネットワークイベントが発生した場合の動作をカスタマイズできる、デバイスおよびシステムの管理機能です。EEM の構成の詳細については、『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS システム管理構成ガイド』を参照してください。

管理性

ここでは、Cisco Nexus 9000 シリーズスイッチの管理性に関する機能について説明します。

簡易ネットワーク管理プロトコル

Cisco NX-OS ソフトウェアは、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) バージョン 1、2、および 3 に準拠しています。多くの管理情報ベース (Management Information Base) がサポー

トされます。SNMPの詳細については、*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide*を参照してください。

構成の確認およびロールバック

Cisco NX-OSソフトウェアでは、構成をコミットする前に、構成の一貫性や必要なハードウェアリソースの可用性を確認することができます。デバイスを事前に構成すること、および確認した構成を後から適用することができます。構成には、必要に応じて、既知の良好な構成にロールバックできるチェックポイントを含めることができます。ロールバックの詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide*』を参照してください。

ロールベース アクセス コントロール

ロールベースアクセスコントロール (RBAC) では、ユーザにロールを割り当てることで、デバイス操作のアクセスを制限できます。アクセスが必要なユーザだけにアクセスを許可するように、カスタマイズすることが可能です。RBACの詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Security Configuration Guide*』を参照してください。

Cisco NX-OS デバイスのコンフィギュレーション方式

Cisco NX-OS デバイスを構成するには、次の方法を使用できます。

- セキュアシェル (SSH) セッション、Telnetセッション、またはコンソールポートからの CLI。SSH ではデバイスへの安全な接続が提供されます。CLI 構成ガイドは機能別に編成されています。詳細については、Cisco NX-OS 構成ガイドを参照してください。SSH と Telnet の詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Security Configuration Guide*』を参照してください。
- CLI を補完する NETCONF プロトコルに基づくプログラマチック方式である、XML 管理インターフェイス。詳細については、『*Cisco NX-OS XML インターフェイス ユーザー ガイド*』を参照してください。
- ローカル PC で稼働し、Cisco DCNM サーバーで Web サービスを使用する、Cisco Data Center Network Management (DCNM) クライアント。Cisco DCNM サーバでは XML 管理インターフェイスを使用してデバイスを設定します。Cisco DCNM クライアントの詳細については、『*Cisco DCNM Fundamentals Guide*』を参照してください。

プログラマビリティ

ここでは、Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチのプログラマビリティに関する機能について説明します。

Python API

Pythonは簡単に習得できる強力なプログラミング言語です。効率的で高水準なデータ構造を持ち、オブジェクト指向プログラミングに対してシンプルで効果的なアプローチを取っています。Pythonは、簡潔な構文、動的な型指定、インタープリタ型という特長を持っており、ほとんどのプラットフォームのさまざまな分野でスクリプティングと高速アプリケーション開発が可能な理想的な言語です。Python インタープリタと広範な標準ライブラリが Python Web サイト <http://www.python.org/> でソース形式またはバイナリ形式で自由に利用できます。Python スクリプト機能は、さまざまなタスクを実行するために CLI と Power On Auto Provisioning (POAP) または Embedded Event Manager (EEM) アクションへのプログラムによるアクセスを提供します。Python API と Python スクリプト機能の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Programmability Guide』を参照してください。

Tcl

Tool Command Language (Tcl) は、スクリプト言語です。Tcl を使用すると、デバイスの CLI Commands をより柔軟に使用できます。Tcl を使用して **show** コマンドの出力の特定の値を抽出したり、スイッチを設定したり、Cisco NX-OS コマンドをループで実行したり、スクリプトで EEM ポリシーを定義したりすることができます。

Cisco NX-API

Cisco NX-API は Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチへの Web ベースのプログラムによるアクセスを提供します。このサポートは NX-API のオープンソースの Web サーバーによって提供されています。Cisco NX-API は Web ベースの API を介して、コマンドライン インターフェイス (CLI) の完全な構成および管理機能を公開します。XML または JSON 形式で API コールの出力を公開するようにスイッチを設定できます。Cisco NX-API の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Programmability Guide』を参照してください。



(注) NX-API は、スイッチ上の Programmable Authentication Module (PAM) を使用して認証を行います。cookie を使用して PAM の認証数を減らし、PAM の負荷を減らします。

bash シェル

Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチは、Linux シェルの直接アクセスに対応しています。Linux シェルのサポートにより、スイッチの Linux システムにアクセスして、Linux コマンドを使用して基礎のシステムを管理できます。Bash シェルの対応の詳細については、『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS プログラマビリティ ガイド』を参照してください。

Broadcom シェル

Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチの前面パネルおよびファブリック モジュール ライン カードには複数の Broadcom ASIC が含まれます。CLI を使用し、これらの ASIC のコマンドライン シェル (bcm シェル) にアクセスできます。この方法を使用して bcm シェルにアクセスするメソッドは、**pipe include** や **redirect output to file** などの Cisco NX-OS 拡張コマンドを使用できることです。また、アクティビティは、bcm シェルから直接入力する、アカウントログに記録されないコマンドとは異なり、監査のためにシステム アカウンティング ログに記録されます。Broadcom シェルの対応の詳細については、『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS プログラマビリティ ガイド』を参照してください。



注意 Broadcom シェル コマンドは、シスコのサポート担当者の直接監督下または要求された場合のみ注意して使用してください。

トラフィックのルーティング、フォワーディング、および管理

ここでは、Cisco NX-OS ソフトウェアでサポートされるトラフィックのルーティング、転送、および管理機能について説明します。

イーサネット スイッチング

Cisco NX-OS ソフトウェアは、高密度、高パフォーマンスのイーサネットシステムをサポートし、次のイーサネット スイッチング機能を提供します。

- IEEE 802.1D-2004 高速スパンニングツリー プロトコル (RSTP) およびマルチ スパンニングツリー プロトコル (802.1w および 802.1s)
- IEEE 802.1Q VLAN およびトランク
- IEEE 802.3ad リンク アグリゲーション
- アグレッシブ モードと標準モードの Unidirectional Link Detection (UDLD ; 単一方向リンク検出)

詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』および『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Layer 2 Switching Configuration Guide』を参照してください。

IP ルーティング

Cisco NX-OS ソフトウェアは、IP Version 4 (IPv4) および IP Version 6 (IPv6) 、および次のルーティング プロトコルをサポートしています。

- Open Shortest Path First (OSPF) プロトコルバージョン 2 (IPv4) および 3 (IPv6)
- Intermediate System-to-Intermediate System (IS-IS) プロトコル (IPv4 および IPv6)
- ボーダー ゲートウェイ プロトコル (BGP) (IPv4 および IPv6)
- 拡張内部ゲートウェイ ルーティング プロトコル (EIGRP) (IPv4 のみ)
- Routing Information Protocol Version 2 (RIPv2) (IPv4 のみ)

Cisco NX-OS ソフトウェアでのこれらのプロトコルの実装は、最新の規格に完全に準拠しています。また、4バイト自律システム番号 (ASN) とインクリメンタル Shortest Path First (SPF) が含まれています。すべてのユニキャストプロトコルでは、ノンストップ フォワーディング グレースフルリスタート (NSF-GR) をサポートしています。すべてのプロトコルは、イーサネット インターフェイス、VLAN インターフェイス、サブインターフェイス、ポート チャネル、およびループバック インターフェイスなど、すべてのインターフェイス タイプをサポートしています。

詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Unicast Routing Configuration Guide』を参照してください。

IP サービス

Cisco NX-OS ソフトウェアでは、次の IP サービスを使用できます。

- Virtual Routing and Forwarding (VRF)
- Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) ヘルパー
- ホットスタンバイ ルータ プロトコル (HSRP)
- 拡張オブジェクト トラッキング
- ポリシーベース ルーティング (PBR)
- IPv4 の全プロトコルに対するユニキャスト グレースフル リスタート、および IPv6 の OSPFv3 に対するユニキャスト グレースフル リスタート

詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Unicast Routing Configuration Guide』を参照してください。

IP Multicast : IP マルチキャスト

Cisco NX-OS ソフトウェアは、次のマルチキャスト プロトコルおよび機能を備えています。

- プロトコル独立型マルチキャスト (PIM) バージョン 2 (PIMv2)
- PIM スパース モード (IPv4 の Any-Source マルチキャスト (ASM))
- エニーキャスト ランデブー ポイント (Anycast-RP)
- IPv4 のマルチキャスト NSF

- ブートストラップルータ (BSR) を使用した RP 検出 (Auto-RP およびスタティック)
- インターネット グループ管理プロトコル (IGMP) バージョン 1、2、3 ルータ ロール
- IGMPv2 ホスト モード
- IGMP スヌーピング
- マルチキャスト ソース検出プロトコル (MSDP) (IPv4 専用)



Note Cisco NX-OS ソフトウェアは、PIM デンス モードをサポートしていません。

詳細については、『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS マルチキャスト ルーティング構成ガイド』を参照してください。

QoS

Cisco NX-OS ソフトウェアでは、分類、マーキング、キューイング、ポリシング、およびスケジューリングに対する Quality of Service (QoS) 機能をサポートしています。Modular QoS CLI (MQC) では、すべての QoS 機能をサポートしています。MQC を使用すると、シスコのさまざまなプラットフォームで同一の構成を行うことができます。詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Quality of Service Configuration Guide』を参照してください。

ネットワーク セキュリティ機能

Cisco NX-OS ソフトウェアには、次のセキュリティ機能があります。

- コントロールプレーン ポリシング (CoPP)
- メッセージダイジェスト アルゴリズム 5 (MD5) のルーティング プロトコル認証
- 認証、認可、アカウンティング (AAA)
- RADIUS および TACACS+
- SSH プロトコル バージョン 2
- SNMPv3
- 名前付き ACL (ポートベース ACL (PACL)、VLAN ベース ACL (VAACL)、およびルータベース ACL (RAACL)) によってサポートされる、MAC アドレスおよび IPv4 アドレスに基づいたポリシー
- トラフィックストーム制御 (ユニキャスト、マルチキャスト、およびブロードキャスト)

詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Security Configuration Guide』を参照してください。

Supported Standards

次の表に、IEEE 準拠標準を示します。

Table 2: IEEE 準拠標準

標準	説明
802.1D	MAC ブリッジ
802.1p	イーサネット フレームのサービス クラス (CoS) タギング
802.1Q	VLAN タギング
802.1s	マルチ スパニング ツリー プロトコル
802.1w	高速スパニングツリー プロトコル
802.3ab	1000Base-T (10/100/1000 Ethernet over copper)
802.3ad	LACP によるリンク集約
802.3ae	10 ギガビット イーサネット

次の表に、RFC 準拠標準を示します。各 RFC の詳細については、www.ietf.org を参照してください。

Table 3: RFC 準拠標準

標準	説明
BGP	
RFC 1997	<i>BGP</i> コミュニティの属性
RFC 2385	<i>TCPMD5</i> シグネチャ オプションを使用した <i>BGP</i> セッションの保護
RFC 2439	<i>BGP</i> ルートフラップダンピング
RFC 2519	ドメイン ルート間集約のフレームワーク
RFC 2545	『 <i>Use of BGP-4 Multiprotocol Extensions for IPv6 Inter-Domain Routing</i> 』

標準	説明
RFC 2858	『 <i>Multiprotocol Extensions for BGP-4</i> 』
RFC 2918	『 <i>Route Refresh Capability for BGP-4</i> 』
RFC 3065	<i>BGP</i> の自律システム連合
RFC 3392	<i>BGP-4</i> による機能のアドバタイズメント
RFC 4271	<i>BGP</i> バージョン 4
RFC 4273	<i>BGP4 MIB - BGP-4</i> の管理対象オブジェクトの定義
RFC 4456	<i>BGP</i> ルート リフレクション: フルメッシュ内部 <i>BGP (IBGP)</i> の代替
RFC 4486	<i>BGP Cease</i> 通知メッセージのサブコード
RFC 4724	<i>BGP</i> のグレースフルリスタートメカニズム
RFC 4893	4 オクテット <i>AS</i> 番号スペースの <i>BGP</i> サポート
RFC 5004	1 つの外部から別の外部への <i>BGP</i> 最良パス移行の回避
RFC 5396	『 <i>Textual Representation of Autonomous System (AS) Numbers</i> 』 Note RFC 5396 は部分的にサポートされます。 asplain と asdot 表記はサポートされますが、asdot+ 表記はサポートされません。
RFC 5549	<i>IPv6</i> ネクストホップを使用した <i>IPv4</i> ネットワーク レイヤ到達可能性情報のアドバタイズ

標準	説明
RFC 5668	4-Octet AS 指定 BGP 拡張コミュニティ
IETF ドラフト	最適パス遷移回避 (draft-ietf-idr-avoid-transition-05.txt)
IETF ドラフト	ピア テーブル オブジェクト (draft-ietf-idr-bgp4-mib-15.txt)
IETF ドラフト	動的ケイパビリティ (draft-ietf-idr-dynamic-cap-03.txt)
IP マルチキャスト	
RFC 2236	『 <i>Internet Group Management Protocol, Version 2</i> 』
RFC 3376	インターネット グループ管理 プロトコル、バージョン 3
RFC 3446	<i>Anycast Rendezvous Point (RP) mechanism using Protocol Independent Multicast (PIM) and Multicast Source Discovery Protocol (MSDP)</i>
RFC 3569	送信元特定マルチキャスト (SSM) の概要
RFC 3618	マルチキャスト検出プロトコル (MSDP)
RFC 4601	プロトコル独立マルチキャスト- スパース モード (PIM-SM) : プロトコル仕様 (改訂)
RFC 4607	IP のためのソース仕様マルチ キャスト
RFC 4610	『 <i>Anycast-RP Using Protocol Independent Multicast (PIM)</i> 』
RFC 6187	セキュアシエル認証用の X.509v3証明書

標準	説明
IETF ドラフト	Mtrace server functionality, to process mtrace-requests, draft-ietf-idmr-traceroute-ipm-07.txt
IP サービス	
RFC 768	UDP
RFC 783	TFTP
RFC 791	IP
RFC 792	ICMP
RFC 793	[TCP]
RFC 826	『ARP』
RFC 854	Telnet
RFC 959	FTP
RFC 1027	『Proxy ARP』
RFC 1305	NTP v3
RFC 1519	CIDR
RFC 1542	BootP リレー
RFC 1591	DNS クライアント
RFC 1812	『IPv4 routers』
RFC 2131	DHCP ヘルパー
RFC 2338	VRRP
『IS-IS』	
RFC 1142 (OSI 10589)	『OSI 10589 Intermediate system to intermediate system intra-domain routing exchange protocol』
RFC 1195	『Use of OSI IS-IS for routing in TCP/IP and dual environment』
RFC 2763	IS-IS のための動的ホスト名交換メカニズム

標準	説明
RFC 2966	『 <i>Domain-wide Prefix Distribution with Two-Level IS-IS</i> 』
RFC 2973	『 <i>IS-IS Mesh Groups</i> 』
RFC 3277	IS-IS 過渡的ブラックホール回避
RFC 3373	『 <i>Three-Way Handshake for IS-IS Point-to-Point Adjacencies</i> 』
RFC 3567	『 <i>IS-IS Cryptographic Authentication</i> 』
RFC 3847	『 <i>Restart Signaling for IS-IS</i> 』
IETF ドラフト	インターネット ドラフト : リンクステートルーティングプロトコルにおける LAN 経由ポイントツーポイント オペレーション (draft-ietf-isis-igp-p2p-over-lan-06.txt)
OSPF	
RFC 2328	『 <i>OSPF Version 2</i> 』
RFC 2370	OSPF Opaque LSA オプション
RFC 2740	OSPF for IPv6 (OSPF バージョン 3)
RFC 3101	OSPF Not-So-Stubby-Area (NSSA) オプション
RFC 3137	『 <i>OSPF Stub Router Advertisement</i> 』
RFC 3509	『 <i>Alternative Implementations of OSPF Area Border Routers</i> 』
RFC 3623	グレースフル OSPF リスタート
RFC 4750	OSPF バージョン 2 MIB
Per-Hop Behavior (PHB)	

標準	説明
RFC 2597	アシュアード転送 <i>PHB</i> グループ
RFC 3246	完全優先転送 <i>PHB</i>
RIP	
RFC 1724	<i>RIPv2 MIB</i> 拡張
RFC 2082	<i>RIPv2 MD5</i> 認証
RFC 2453	<i>RIP</i> バージョン 2
SNMP	
RFC 2579	『 <i>Textual Conventions for SMIv2</i> 』
RFC 2819	『 <i>Remote Network Monitoring Management Information Base</i> 』
RFC 2863	『 <i>The Interfaces Group MIB</i> 』
RFC 3164	『 <i>The BSD syslog Protocol</i> 』
RFC 3176	<i>InMon Corporation</i> の <i>sFlow</i> : スイッチおよびルーテッドネットワークのトラフィックをモニタする方法
RFC 3411 および RFC 3418	『 <i>An Architecture for Describing Simple Network Management Protocol (SNMP) Management Frameworks</i> 』
RFC 3413	『 <i>Simple Network Management Protocol (SNMP) Applications</i> 』
RFC 3417	『 <i>Transport Mappings for the Simple Network Management Protocol (SNMP)</i> 』



第 3 章

Cisco NX-OS セットアップユーティリティの使用

この章は、次の内容で構成されています。

- [Cisco NX-OS セットアップ ユーティリティについて, on page 17](#)
- [セットアップユーティリティの前提条件, on page 19](#)
- [Cisco NX-OS デバイスのセットアップ, on page 19](#)
- [セットアップユーティリティに関する追加情報, on page 24](#)

Cisco NX-OS セットアップユーティリティについて

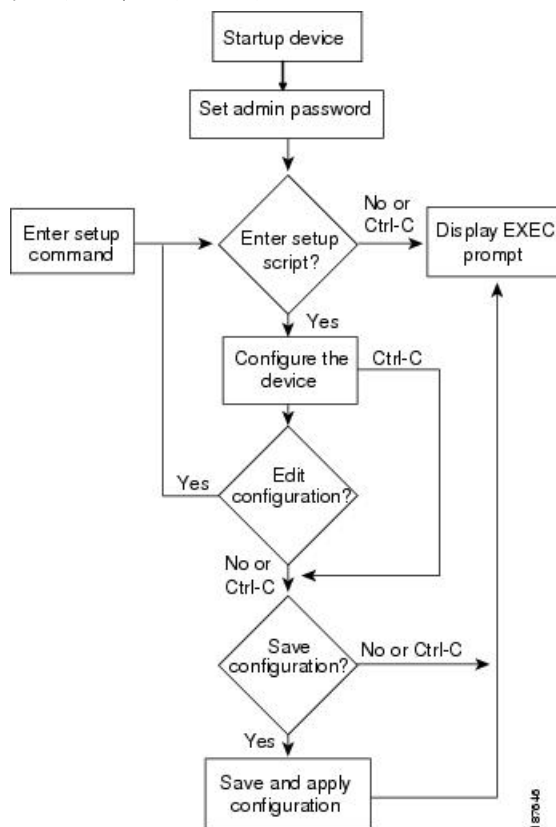
Cisco NX-OS セットアップユーティリティは、システムの基本（スタートアップとも呼びます）設定をガイドする対話型のコマンドラインインターフェイス（CLI）モードです。セットアップユーティリティでは、システム管理に使用する接続だけを設定できます。

セットアップユーティリティでは、システム構成ダイアログを使用して初期構成ファイルを作成できます。セットアップは、デバイスの構成ファイルが NVRAM がない場合に自動的に開始されます。ダイアログを使って初期構成の操作が順を追って説明されます。ファイルが作成された後、CLI を使用して追加の設定を行うことができます。

任意のプロンプトに対して **Ctrl** キーを押した状態で **C** キーを押して（**Ctrl-C**）、残りの構成オプションをスキップし、その時点までに構成された内容で先に進むことができます。ただし、管理者パスワードはスキップできません。質問に対する回答をスキップする場合は、**Enter** キーを押します。デフォルトの回答が見つからない場合（たとえば、デバイスホスト名）、デバイスでは以前の構成を使用して、次の質問にスキップします。

Figure 2: セットアップスクリプトのフロー

次の図に、セットアップスクリプトを入力および終了する方法を示します。



セットアップユーティリティは、構成がない場合にシステムを始めて構成するときに主に使用します。ただし、セットアップユーティリティは基本的なデバイス設定のためにいつでも使用できます。スクリプト内でステップをスキップすると、セットアップユーティリティによって構成値が維持されます。たとえば、すでに `mgmt0` インターフェイスを構成している場合、この手順をスキップしても、セットアップユーティリティではその構成を変更しません。ただし、手順のデフォルト値がある場合は、セットアップユーティリティによって構成値ではなくデフォルトを使用して構成が変更されます。構成を保存する前に、よく構成の変更内容を確認してください。



Note SNMP アクセスを有効にする場合は、必ず IPv4 ルート、デフォルト ネットワーク IPv4 アドレス、およびデフォルト ゲートウェイ IPv4 アドレスを構成してください。IPv4 ルーティングを有効にすると、デバイスは IPv4 ルートとデフォルト ネットワーク IPv4 アドレスを使用します。IPv4 ルーティングが無効の場合、デバイスはデフォルト ゲートウェイ IPv4 アドレスを使用します。



Note セットアップスクリプトでは IPv4 だけをサポートしています。

セットアップユーティリティの前提条件

セットアップユーティリティには次の前提条件があります。

- ネットワーク環境のパスワード戦略が決まっていること。
- スーパーバイザ モジュールのコンソール ポートがネットワークに接続されていること。デュアルスーパーバイザ モジュールの場合、両方のスーパーバイザ モジュールのコンソール ポートがネットワークに接続されていること。
- スーパーバイザ モジュールのイーサネット管理ポートがネットワークに接続されていること。デュアル スーパーバイザ モジュールの場合、両方のスーパーバイザ モジュールのイーサネット管理ポートがネットワークに接続されていること。

Cisco NX-OS デバイスのセットアップ

セットアップユーティリティを使用して Cisco NX-OS デバイスの基本管理を構成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 デバイスの電源を入れます。

ステップ 2 パスワードの強度確認を有効または無効にします。

強力なパスワードは、次の特性を持ちます。

- 長さが 8 文字以上である
- 複数の連続する文字（「abcd」など）を含んでいない
- 複数の同じ文字の繰り返し（「aaabbb」など）を含んでいない
- 辞書に載っている単語を含んでいない
- 正しい名前を含んでいない
- 大文字および小文字の両方が含まれている
- 数字が含まれている

Example:

```
---- System Admin Account Setup ----  
Do you want to enforce secure password standard (yes/no) [y]: y
```

ステップ 3 管理者の新しいパスワードを入力します。

Note パスワードが脆弱な場合は（短い、解読されやすいなど）、そのパスワードの構成が拒否されます。パスワードは大文字と小文字が区別されます。少なくとも 8 文字以上、大文字と小文字の両方と数字を使用した強力なパスワードを構成してください。

Example:

```
Enter the password for "admin": <password>

Confirm the password for "admin": <password>

---- Basic System Configuration Dialog ----

This setup utility will guide you through the basic configuration of
the system. Setup configures only enough connectivity for management
of the system.

Please register Cisco Nexus 9000 Family devices promptly with your
supplier. Failure to register may affect response times for initial
service calls. Nexus devices must be registered to receive
entitled support services.

Press Enter at anytime to skip a dialog. Use ctrl-c at anytime
to skip the remaining dialogs.
```

ステップ 4 **yes** と入力して、セットアップ モードを開始します。

Example:

```
Would you like to enter the basic configuration dialog (yes/no): yes
```

ステップ 5 **yes** と入力して（デフォルトは **no**）、追加のアカウントを作成します。

Example:

```
Create another login account (yes/no) [n]:yes
```

a) ユーザ ログイン ID を入力します。

Example:

```
Enter the User login Id : user_login
```

Caution ユーザ名の先頭は英数字とする必要があります。ユーザ名には特殊文字 (+ = . _ \ -) 。# 記号と ! 記号はサポートされていません。ユーザ名に許可されていない文字が含まれている場合、指定したユーザはログインできません。

b) ユーザ パスワードを入力します。

Example:

```
Enter the password for "user1": user_password
Confirm the password for "user1": user_password
```

c) デフォルトのユーザー ロールを入力します。

Example:

```
Enter the user role (network-operator|network-admin) [network-operator]: default_user_role
```

デフォルトのユーザー ロールの詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Security Configuration Guide*』を参照してください。

ステップ 6 **yes** と入力して、SNMP コミュニティ ストリングを設定します。

Example:

```
Configure read-only SNMP community string (yes/no) [n]: yes
SNMP community string : snmp_community_string
```

SNMP の詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide*』を参照してください。

ステップ 7 デバイス名を入力します (デフォルト名は switch です)。

Example:

```
Enter the switch name: switch_name
```

ステップ 8 **yes** と入力して、アウトオブバンド管理を構成します。mgmt0 IPv4 アドレスとサブネット マスクを入力できます。

Note セットアップユーティリティで構成できるのは、IPv4 アドレスだけです。IPv6 の構成の詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Unicast Routing Configuration Guide*』を参照してください。

Example:

```
Continue with Out-of-band (mgmt0) management configuration? [yes/no]: yes
Mgmt0 IPv4 address: mgmt0_ip_address
Mgmt0 IPv4 netmask: mgmt0_subnet_mask
```

ステップ 9 **yes** と入力して IPv4 デフォルト ゲートウェイ (推奨) を構成します。これで、IP アドレスを入力できます。

Example:

```
Configure the default-gateway: (yes/no) [y]: yes
IPv4 address of the default-gateway: default_gateway
```

ステップ 10 **yes** と入力して、スタティックルート、デフォルト ネットワーク、DNS、およびドメイン名などの高度な IP オプションを構成します。

Example:

```
Configure Advanced IP options (yes/no)? [n]: yes
```

ステップ 11 **yes** と入力して、スタティック ルート（推奨）を構成します。宛先プレフィックス、宛先プレフィックス マスク、およびネクスト ホップの IP アドレスを入力できます。

Example:

```
Configure static route: (yes/no) [y]: yes
Destination prefix: dest_prefix
Destination prefix mask: dest_mask
Next hop ip address: next_hop_address
```

ステップ 12 **yes** と入力して、デフォルト ネットワーク（推奨）を構成します。次に、IPv4 アドレスを入力できます。

Note デフォルト ネットワークの IPv4 アドレスは、スタティック ルート構成の宛先プレフィックスと同じです。

Example:

```
Configure the default network: (yes/no) [y]: yes
Default network IP address [dest_prefix]: dest_prefix
```

ステップ 13 **yes** と入力して、DNS の IPv4 アドレスを構成します。次に、アドレスを入力します。

Example:

```
Configure the DNS IP address? (yes/no) [y]: yes
DNS IP address: ipv4_address
```

ステップ 14 **yes** と入力して、デフォルトのドメイン名を構成します。次に、名前を入力します。

Example:

```
Configure the DNS IP address? (yes/no) [y]: yes
DNS IP address: ipv4_address
```

ステップ 15 **yes** と入力して、Telnet サービスを有効にします。

Example:

```
Enable the telnet service? (yes/no) [y]: yes
```

ステップ 16 **yes** と入力して、SSH サービスを有効にします。次に、キー タイプとキーのビット数を入力します。詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Security Configuration Guide*』を参照してください。

Example:

```
Enable the ssh service? (yes/no) [y]: yes
Type of ssh key you would like to generate (dsa/rsa) : key_type
Number of key bits <768-2048> : number_of_bits
```


ステップ 17 **yes** と入力して、NTP サーバーを構成します。これで、IP アドレスを入力できます。詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide*』を参照してください。

Example:

```
Configure NTP server? (yes/no) [n]: yes  
NTP server IP address: ntp_server_IP_address
```

ステップ 18 デフォルトのインターフェイス レイヤ (L2 または L3) を指定します。

Example:

```
Configure default interface layer (L3/L2) [L3]: interface_layer
```

ステップ 19 デフォルトのスイッチポートインターフェイスステート (シャットダウンまたはシャットダウンなし) を入力します。シャットダウン インターフェイスは、管理上ダウン状態になります。詳細については、*Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS インターフェイス設定ガイド*を参照してください。

Example:

```
Configure default switchport interface state (shut/noshut) [shut]: default_state
```

ステップ 20 **yes** と入力して (デフォルトは **no**)、基本的なファイバチャネル構成を行います。

Example:

```
Enter basic FC configurations (yes/no) [n]: yes
```

ステップ 21 **shut** と入力して (デフォルトは **noshut**)、デフォルトのファイバチャネルスイッチポートインターフェイスを **shut** (無効) 状態に構成します。

Example:

```
Configure default physical FC switchport interface state (shut/noshut) [noshut]: shut
```

ステップ 22 **on** と入力して (デフォルトは **on**)、スイッチポート トランク モードを構成します。

Example:

```
Configure default physical FC switchport trunk mode (on/off/auto) [on]: on
```

ステップ 23 **permit** と入力して (デフォルトは **deny**)、デフォルトのゾーン ポリシー構成を許可します。

Example:

```
Configure default zone policy (permit/deny) [deny]: permit
```

デフォルト ゾーンのすべてのメンバへのトラフィック フローを許可します。

Example:

Note write erase コマンドを入力した後でセットアップ スクリプトを実行する場合、スクリプト終了後、次のコマンドを使用してデフォルトのゾーン ポリシーを明示的に変更し、VSAN 1 を許可する必要があります。

```
switch(config)# zone default-zone permit vsan 1
```

ステップ 24 yes と入力して（デフォルトは no）、フルゾーンセット配信をイネーブルにします。

Example:

```
Enable full zoneset distribution (yes/no) [n]: yes
```

ステップ 25 コントロールプレーン ポリシング（CoPP）のベストプラクティスのプロファイルを入力します。詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Security Configuration Guide』を参照してください。

Example:

```
Configure best practices CoPP profile (strict/moderate/lenient/none) [strict]: moderate
```

ここでシステムに、全設定の概要を示し、これを編集するかどうかの確認を求められます。

ステップ 26 no と入力して次の手順に進みます。yes と入力すると、セットアップユーティリティは設定の先頭に戻り、各ステップを繰り返します。

Example:

```
Would you like to edit the configuration? (yes/no) [y]: yes
```

ステップ 27 yes と入力して、この構成を使用および保存します。ここで設定を保存しておかないと、次のデバイス起動時に設定が更新されません。構成を保存する場合は、yes と入力します。この手順は、nx-os イメージのブート変数も自動的に構成されるようにします。

Example:

```
Use this configuration and save it? (yes/no) [y]: yes
```

Caution ここで構成を保存しておかないと、次のデバイス起動時に設定が更新されません。yes と入力して新しい構成を保存し、nx-os イメージのブート変数も自動的に構成されるようにします。

セットアップユーティリティに関する追加情報

ここでは、セットアップユーティリティの使用に関するその他の情報について説明します。

セットアップユーティリティの関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
ライセンス	『Cisco NX-OS Licensing Guide』
SSH および Telnet	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Security Configuration Guide』
ユーザ ロール	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Security Configuration Guide』
IPv4 および IPv6	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Unicast Routing Configuration Guide』
SNMP および NTP	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』



第 4 章

PowerOn Auto Provisioning の使用方法

この章は、次の項で構成されています。

- [PowerOn Auto Provisioning について \(27 ページ\)](#)
- [POAPv3 \(45 ページ\)](#)
- [POAP の注意事項および制約事項 \(47 ページ\)](#)
- [POAP を使用するためのネットワーク環境の設定 \(50 ページ\)](#)
- [POAP を使用するスイッチの設定 \(51 ページ\)](#)
- [md5 ファイルの作成 \(51 ページ\)](#)
- [デバイス コンフィギュレーションの確認, on page 53](#)
- [POAP のトラブルシューティング \(53 ページ\)](#)
- [POAP パーソナリティの管理 \(54 ページ\)](#)

PowerOn Auto Provisioning について

PowerOn Auto Provisioning (POAP) は、ネットワークに初めて導入された Cisco Nexus スイッチにおいて、ソフトウェアイメージのアップグレードと構成ファイルのインストールのプロセスを自動化します。

POAP 機能を備えたデバイスが起動し、スタートアップ設定が見つからない場合、デバイスは POAP モードに入り、DHCP サーバーを検索し、インターフェイス IP アドレス、ゲートウェイ、および DNS サーバーの IP アドレスを使用して自身をブートストラップします。また、TFTP サーバーの IP アドレスを取得し、構成スクリプトをダウンロードします。このスクリプトは、スイッチが適切なソフトウェアイメージと構成ファイルをダウンロードしてインストールできるようにします。



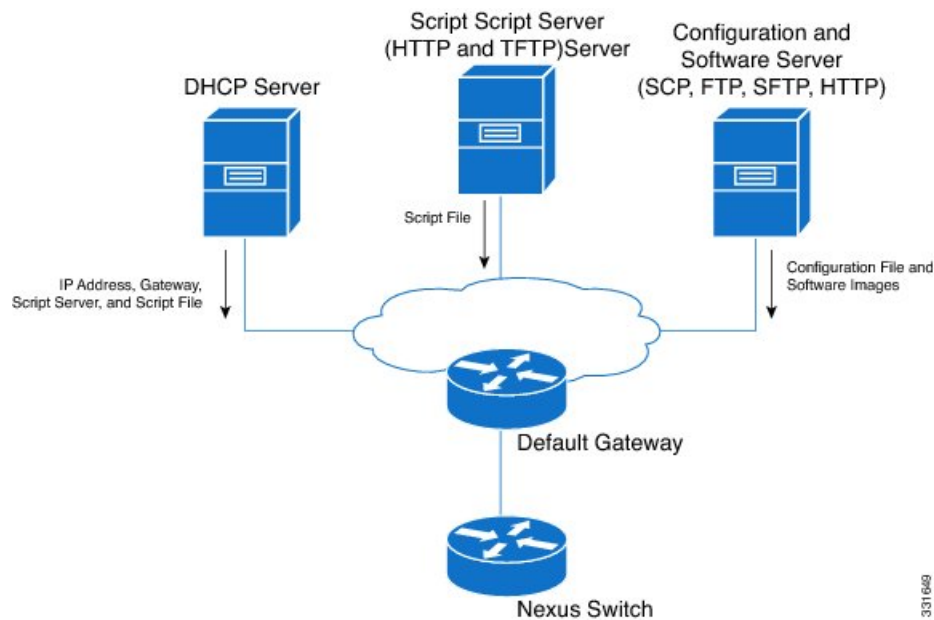
(注) DHCP 情報は、POAP プロセスでのみ使用されます。

POAP のためのネットワーク要件

POAP には、次のネットワーク インフラが必要です。

- インターフェイス IP アドレス、ゲートウェイアドレス、およびドメインネームシステム (DNS) サーバーをブートストラップする DHCP サーバー。
- ソフトウェアイメージのインストールと構成のプロセスを自動化する構成スクリプトが保管されている TFTP または HTTP サーバー。
- 必要なソフトウェア イメージと構成ファイルが保管されている 1 台以上のサーバー。
- USB を使用する場合、POAP に DHCP サーバーまたは TFTP サーバーは必要ありません。

図 3: POAP ネットワーク インフラ



331649

POAP スクリプトの安全なダウンロード

Cisco NX-OS リリース 10.2(3)F 以降、POAP スクリプトを安全にダウンロードするオプションがあります。POAP 機能を備えたデバイスが起動し、スタートアップ設定が見つからない場合、デバイスは POAP モードに入り、DHCP サーバーを検索し、インターフェイス IP アドレス、ゲートウェイ、および DNS サーバーの IP アドレスを使用して自身をブートストラップします。また、デバイスは HTTPS サーバーの IP アドレスを取得し、POAP スクリプトを安全にダウンロードします。このスクリプトにより、スイッチは適切なソフトウェアイメージと構成ファイルをダウンロードしてインストールできます。

POAP スクリプトを安全にダウンロードするには、特定の POAP オプションを選択する必要があります。Cisco NX-OS リリース 10.2(3)F までは、POAP は IPv4 の場合はオプション 66 と 67、IPv6 の場合はオプション 77 と 15 を使用して、ブート スクリプト情報を抽出していました。ただし、スクリプトの転送は `http` を使用するため、あまり安全ではありません。Cisco NX-OS リリース 10.2(3)F 以降、オプション 43 は IPv4 のセキュア POAP 関連のプロビジョニング スクリプト情報を指定し、オプション 17 は IPv6 で同じことを指定します。さらに、これらのオプションにより、POAP は安全な方法でファイル サーバーに到達できます。POAP オプション

66、67、77、および 15 は、Cisco NX-OS Release10.2(3)F で引き続きサポートされます。さらに、オプション43または17を使用している場合は、必要に応じて、以前のオプションをフォールバック オプションとして使用できます。



(注) オプション 43 とオプション 17 の最大文字長は両方とも 512 バイトです。

オプション 43 およびオプション 17 で使用できるサブオプションについては、次のセクションで説明します。

- オプション 43 - [IPv4](#)
- オプション 17 - [IPv6](#)

IPv4

オプション 43 には、IPv4 向けの次のサブオプションがあります。

- option space poap length width 2;
- option poap.version code 1 = unsigned integer 8;



(注) このサブオプションは必須です。

- option poap.ca_list code 50 = text;
- option poap.url code 2 = text;



(注) このサブオプションは必須です。

- option poap.debug code 51 = unsigned integer 8;
- option poap.ntp code 3 = ip-address;



(注) このサブオプションは、IPv4 (オプション43) でのみサポートされます。

- option poap.flag code 52 = unsigned integer 8;



(注) フラグは、クライアントでのサーバー証明書の検証をスキップするために使用されます。

IPv4 の設定例は次のとおりです。

```
host dhclient-n9kv {
  hardware ethernet 00:50:56:85:c5:30;
  fixed-address 3.3.3.1;
  default-lease-time 3600;
  option broadcast-address 192.168.1.255;
  #option log-servers 1.1.1.1;
  max-lease-time 3600;
  option subnet-mask 255.255.255.0;
  option routers 10.77.143.1;
  #option domain-name-servers 1.1.1.1;
      vendor-option-space poap;
  option poap.version 1;
  option poap.ca_list "https://<ip>/poap/ca_file1.pem, https://<ip>/poap/ca_file2.pem";
  option poap.url "https://<url>/poap.py";
  option poap.debug 1;
  option poap.ntp 10.1.1.39;
  option poap.flag 0;
}
```

IPv6

オプション 17 には、IPv6 向けの次のサブオプションがあります。

- option space poap_v6 length width 2;
- option poap_v6.version code 1 = unsigned integer 8;



(注) このサブオプションは必須です。

- option poap_v6.ca_list code 50 = text;
- option poap_v6.url code 3 = text;



(注) このサブオプションは必須です。

- option poap_v6.debug code 51 = unsigned integer 8;
- option vsio.poap_v6 code 9 = encapsulate poap_v6;

IPv6 の設定例は次のとおりです。

```
option dhcp6.next-hop-rt-prefix code 242 = { ip6-address, unsigned integer 16,
unsigned integer 16, unsigned integer 32, unsigned integer 8, unsigned integer 8,
ip6-address };
option dhcp6.bootfile-url code 59 = string;

default-lease-time 3600;
max-lease-time 3600;
log-facility local7;
subnet6 2003::/64 {
```



```

# This statement configures actual values to be sent
# RTPREFIX option code = 243, RTPREFIX length = 22
# Ignore value 22. It is something related to option-size RT_PREFIX option length.
# lifetime = 9000 seconds
# route ETH1_IPV6_GW/64
# metric 1
option dhcp6.next-hop-rt-prefix 2003::2222 243 22 9000 0 1 ::;
#ipv6 ::/0 2003::2222
#Another example - support not there in NXOS - CSCvs05271:
#option dhcp6.next-hop-rt-prefix 2003::2222 243 22 9000 112 1 2003::1:2:3:4:5:0;
#ipv6 2003::1:2:3:4:5:0/112 2003::2222

# Additional options
#option dhcp6.name-servers fec0:0:0:1::1;
#option dhcp6.domain-search "domain.example";

range6 2003::b:1111 2003::b:9999;
option dhcp6.bootfile-url "tftp://2003::1111/poap_github_v6.py";
vendor-option-space poap_v6;
option poap_v6.version 1;
option poap_v6.ca_list "https://<ip>/new_ca.pem,https://<ip>/another_ca.pem";
option poap_v6.url "https://<ip>/poap_github_v4.py";
option poap_v6.debug 1;
}

```

セキュア POAP のネットワーク要件

POAP には、次のネットワーク インフラが必要です。

- インターフェイス IP アドレス、ゲートウェイアドレス、およびドメインネームシステム (DNS) サーバーをブートストラップする DHCP サーバー。
- ソフトウェア イメージのインストールと構成のプロセスに使用される POAP スクリプトを含む HTTPS サーバー。



- (注)
- HTTPS サーバーが非 SUDI デバイスで実行されている場合は、ファイルサーバーの CA 証明書を入れた物理 USB ドライブが必要です。
 - POAP スクリプトのセキュアダウンロードの場合、TFTP サーバーは HTTPS サーバーで置き換えられます。したがって、この章の TFTP サーバーに関連する内容を読むときは、TFTP サーバーを HTTPS サーバーとして読むことを忘れないでください。

- 必要なソフトウェア イメージと構成ファイルが保管されている 1 台以上のサーバー。

導入シナリオ

Cisco デバイスには、Secure Unique Device Identifier (SUDI) と呼ばれる一意の識別子があります。ハードウェア SUDI は認証に使用できます。暗号化、暗号解読、署名、およびデータの

パッセージが操作されることを許可する検証などの、非対称キー操作に使用できるからです。シスコ以外のすべてのデバイスは、非 SUDI デバイスとして分類されます。非 SUDI デバイスの場合、ファイルサーバーを認証するためにルート CA バンドルが必要です。ただし、ファイルサーバーは、SUDI または非 SUDI デバイスのどちらでもホストできます。

これらすべての機能に基づいて、次の展開シナリオのいずれかを使用して、POAP スクリプトを安全な方法でダウンロードできます。

- [ファイルサーバーとしての SUDI 対応デバイス](#)
- [ファイルサーバーとしての SUDI 対応デバイス](#)

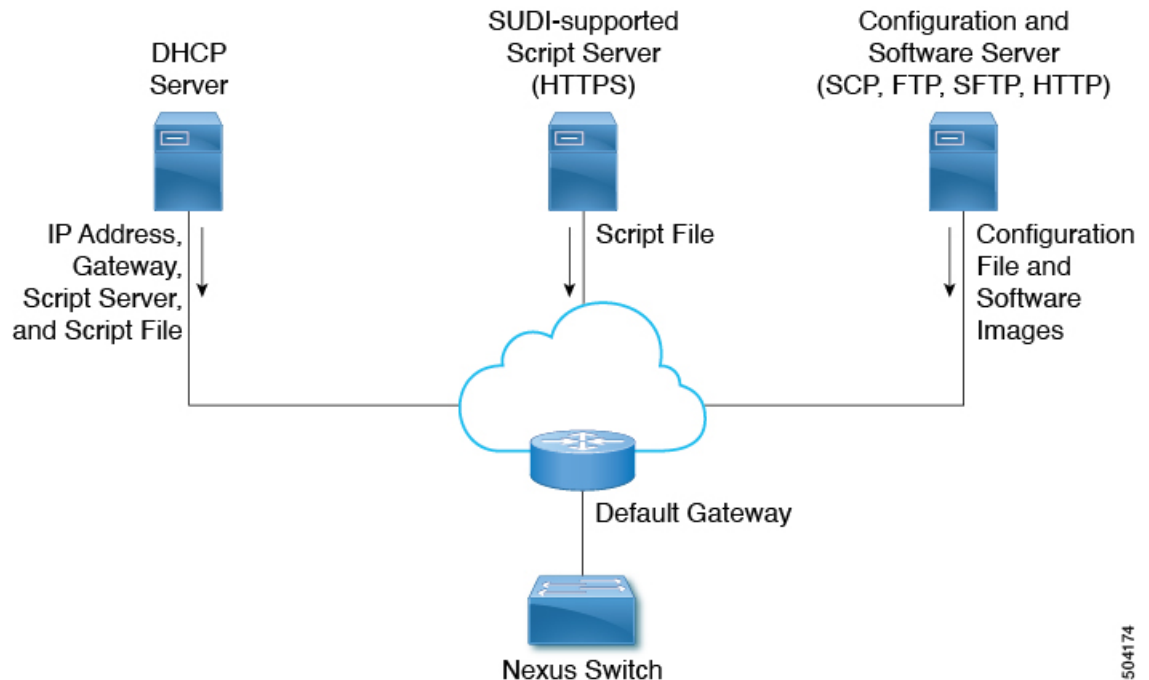
ファイルサーバーとしての SUDI 対応デバイス

SUDI がサポートするデバイスは Cisco デバイスです。以前の実装とは異なり、DHCP サーバーは http/tftp ではなく https の場所を提供するようになりました。このシナリオでは、必要なソフトウェア イメージと構成ファイルを含む 1 つ以上のサーバーを除き、DHCP サーバーと SUDI がサポートするスクリプトサーバー (HTTPS サーバー) のみが必要です。



(注) SUDI は TLSv1.2 以下のみをサポートします。また、SUDI ソリューションは https を使用した安全なダウンロードのみを考慮し、sftp は考慮しません。

図 4: ファイルサーバー インフラストラクチャとしての SUDI 対応デバイス



SUDI 対応デバイスのワークフローは次のとおりです。

- 起動デバイスは SUDI 対応であり、SUDI 証明書を検証するために必要なトラストストアがあります。
- 起動デバイスは DHCP 検出を送信します
- DHCP サーバーは、https サーバーの詳細で起動デバイスに応答します
- デバイスは、標準の SSL API を使用して安全なチャネルを確立します
- 認証は両側で SUDI を検証することで行われます
- `poap.py` のダウンロード

ファイルサーバーとしての SUDI 対応デバイス

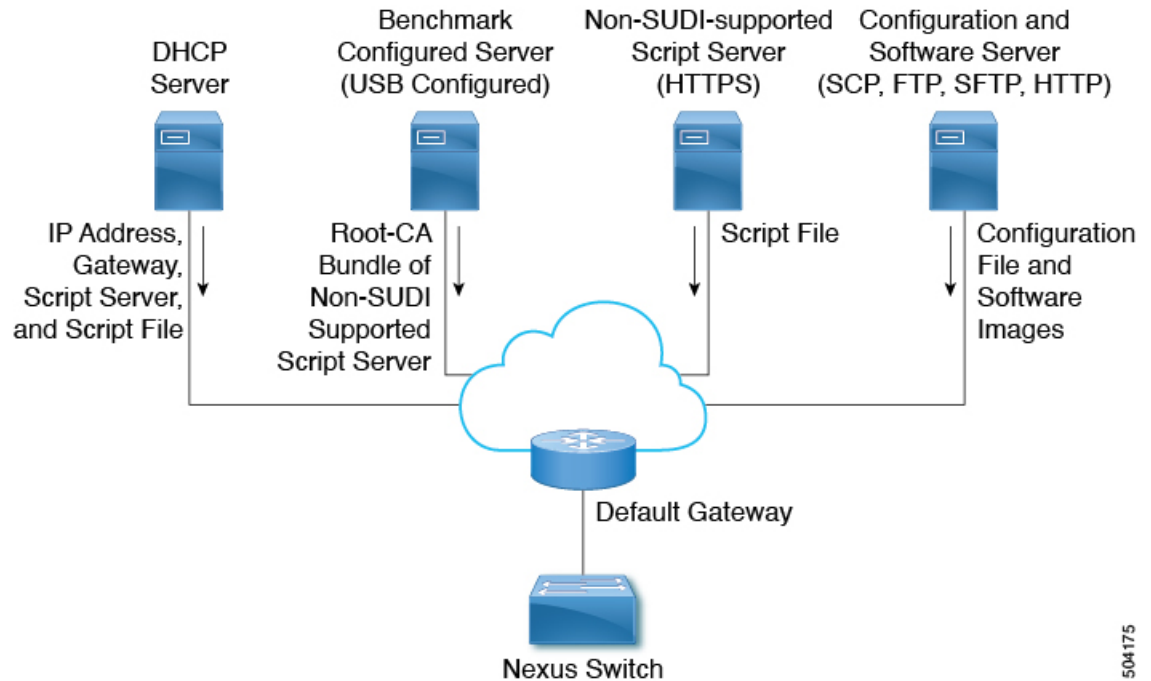
このシナリオでは、ルート CA バンドルをブートデバイスにインストールする必要があります。認証にはルート CA バンドルが必要です。ここでは、必要なソフトウェアイメージと構成ファイルを含む 1 つ以上のサーバー以外に、DHCP サーバー、中間デバイス、および非 SUDI サポートスクリプトサーバー（HTTPS サーバー）が必要です。

DHCP オファーには、ルート CA バンドルが利用可能な中間サーバーの詳細が含まれています。中間デバイスは SUDI をサポートする必要があります。ブートデバイスは中間デバイスを使用してルート CA バンドルをダウンロードしてインストールし、ファイルサーバーと通信します。中間デバイスを最初にプロビジョニングする必要があります。



-
- (注) 中間デバイスでは、ルート CA バンドルを手動で提供する必要があります。詳細については、「[ベンチ構成されたデバイスホスティングルート CA バンドル](#)」を参照してください。
-

図 5: ファイル サーバー インフラストラクチャとしての非 SUDI 対応デバイス



504175

非対応 SUDI デバイスのワークフローは次のとおりです。

- 起動デバイスは SUDI 対応であり、SUDI 証明書を検証するために必要なトラストストアがあります。
- ルート CA バンドルを使用してサーバーをホストする中間デバイスも SUDI 対応です
- 起動デバイスは DHCP 検出を送信します
- DHCP サーバーは、https サーバーの詳細とルート CA サーバーの詳細で起動デバイスに回答します
- ブートデバイスが中間デバイスに到達し、CA バンドルを取得して、それをトラストストアに追加します
- 起動デバイスがファイルサーバーに到達し、**poap.py** をダウンロードします。

ベンチ構成されたデバイス ホスティングルート CA バンドル

ベンチ構成のデバイスでは、ブートアップ中に USB ドライブを挿入してルート CA バンドルをインストールするために手動での介入が必要です。

ワークフローは次のようになります。

- 中間デバイスとして機能するデバイスには、起動時に USB ドライブを提供する必要があります。
- この USB ドライブには、**poap_usb.py** とルート CA バンドルが含まれます。

- USB 内の **poap_usb.py** ファイルは、ルート CA をデバイスにコピーし、ルート CA をトラストストアに追加し、POAP に失敗を返して DHCP 検出をトリガーします。



- (注)
- 必要なスクリプトは、GitHub のテンプレートとして入手できます。
 - Bench Configured Device のポートを変更するには、**file-server <port-number>** コマンドを使用します。ポート 80 (http) やポート 443 (https) などの標準ポートの使用は避けてください。

- DHCP 検出フェーズは、デバイスのプロビジョニングに役立ちます。
- プロビジョニング後にデバイスが起動すると、ルート CA バンドルをホストする追加のサーバーがあります。

古いイメージで出荷されたデバイスのセキュア POAP

セキュア POAP のサポートは、セキュア POAP 機能を備えたイメージとともに出荷されるデバイスでのみ利用できます。

デバイスにセキュア POAP 機能がない場合は、レガシー DHCP オプションを使用して、デバイスをセキュア POAP をサポートする新しいバージョンのイメージに移行します。次に、これらのデバイスはリロードされて、セキュア POAP 機能を使用できるようになります。

安全な POAP のトラブルシューティング

安全な POAP に関するデバッグ情報を収集するには、次の手順を実行します。

1. オプション 43 の IPv4 のデバッグ オプションを 1 に設定し、オプション 17 の IPv6 のデバッグ オプションを設定します。

デバッグ オプションは、追加のログを有効にします。

2. スイッチが POAP の 1 サイクルを実行できるようにします。
3. POAP を中止します。
4. システムが起動したら、**show tech-support poap** コマンドを実行します。

このコマンドは、POAP のステータスまたは構成を表示します。

POAP の無効化

POAP は、システムに構成がない場合に有効になります。ブートアップの一部として実行されます。ただし、初期設定時に POAP の有効化をバイパスできます。POAP を永続的に無効にする場合（システムに構成がない場合でも）、**system no poap** コマンドを使用できます。この

コマンドは、次の起動時にPOAPが開始されないようにします（構成がない場合でも）。POAPを有効にするには、「system poap」コマンドまたは「write erase poap」コマンドを使用します。「write erase poap」コマンドは、POAP フラグを消去し、POAP を有効にします。

- 例：POAP の無効化

```
switch# system no poap
switch# sh boot
Current Boot Variables:
  sup-1
NXOS variable = bootflash:/nxos.9.2.1.125.bin
Boot POAP Disabled

POAP permanently disabled using 'system no poap'

Boot Variables on next reload:

sup-1
NXOS variable = bootflash:/nxos.9.2.1.125.bin
Boot POAP Disabled

POAP permanently disabled using 'system no poap'

switch# sh system poap
System-wide POAP is disabled using exec command 'system no poap'
POAP will be bypassed on write-erase reload.
(Perpetual POAP cannot be enabled when system-wide POAP is disabled)
```

- 例：POAP の有効化

```
switch# system poap

switch# sh system poap

System-wide POAP is enabled
```

- 例：POAP の消去

```
switch# write erase poap
This command will erase the system wide POAP disable flag only if it is set.
Do you wish to proceed anyway? (y/n) [n] y
System wide POAP disable flag erased.

switch# sh system poap
System-wide POAP is enabled
```

POAP コンフィギュレーションスクリプト

Python プログラミング言語を使用して開発された構成スクリプトのサンプルが用意されています。提供されているスクリプトを使用し、ネットワーク環境の要件を満たすように変更することをお勧めします。

POAP スクリプトは <https://github.com/datacenter/nexus9000/blob/master/nx-os/poap/poap.py> にあります。

Python を使用してスクリプトを変更するには、ご使用のプラットフォームの『Cisco NX-OS Python API リファレンス ガイド』を参照してください。

POAP スクリプトおよび POAP スクリプト オプションの使用

POAP スクリプトを使用する前に、次の操作を実行します。

1. スクリプトの上部にあるオプションディクショナリを編集して、セットアップに関連するすべてのオプションがスクリプトに含まれるようにします。デフォルトを（デフォルトのオプション機能で）直接変更しないでください。

2. シェル コマンドを使用して、表示されているように POAP スクリプトの MD5 チェックサムを更新します。

```
f=poap_nexus_script.py ; cat $f | sed '/^#md5sum/d' > $f.md5 ; sed -i  
"s/^#md5sum=.*/#md5sum=\"$ (md5sum $f.md5 | sed 's/ .*//')\"/" $f
```

3. デバイスにスタートアップコンフィギュレーションがある場合は、書き込み消去を実行してデバイスをリロードします。

次の POAP スクリプト オプションを指定して、POAP スクリプトの動作を変更できます。サーバーからファイルをダウンロードするときは、ホスト名、ユーザー名、およびパスワードのオプションが必要です。パーソナリティを除くすべてのモードでは、`target_system_image` も必要です。必須パラメータはスクリプトによって強制され、必須パラメータが存在しない場合、スクリプトは中止されます。ホスト名、ユーザー名、およびパスワードを除くすべてのオプションには、デフォルトのオプションがあります。オプションディクショナリでオプションを指定しない場合、デフォルトが使用されます。

- **username**

サーバーからファイルをダウンロードするときに使用するユーザー名。

- **password**

サーバーからファイルをダウンロードするときに使用するパスワード。

- **hostname**

ファイルのダウンロード元のサーバーの名前またはアドレス。

- **モード (Certificate verification mode)**

デフォルトは `serial_number` です。

次のいずれかのオプションを使用します。

- **パーソナリティ**

tarball からスイッチを復元する方法。

- **SERIAL_NUMBER**

構成ファイル名を決定するスイッチのシリアル番号。構成ファイルのシリアル番号の形式は、`conf.serialnumber` です。例：`conf.FOC123456`

- **hostname**

構成ファイル名を決定するために DHCP オプションで受け取ったホスト名。構成ファイルのホスト名の形式は、`conf_hostname.cfg` です。例：`conf_3164-RS.cfg`

- **mac**

構成ファイル名を決定するインターフェイスの MAC アドレス。構成ファイルのホスト名の形式は、`conf_macaddress.cfg` です。例：`conf_7426CC5C9180.cfg`

- **raw**

構成ファイル名は、オプションで指定されたとおりに使用されます。ファイル名は変更されません。

- **location**

CDP ネイバーは、設定ファイル名を決定するために使用されます。構成ファイル内の場所の形式は、`conf_host_intf.cfg` です。ここで *host* は POAP インターフェイスを介してデバイスに接続されているホストであり、*intf* は POAP インターフェイスが接続されているリモートインターフェイスです。例：`conf_remote-switch_Eth1_8.cfg`

- **required_space**

POAP の特定の反復に必要なスペースで、KB 単位です。デフォルト値は 100,000 です。複数ステップのアップグレードの場合、ターゲットイメージのアップグレードパスにある最後のイメージのサイズを指定します。

- **transfer_protocol**

VSH でサポートされている `http`、`https`、`ftp`、`scp`、`sftp`、`tftp` などの転送プロトコルです。デフォルトは `scp` です。

- **config_path**

サーバー上の構成ファイルのパスです。例：`/tftpboot`。デフォルトは `/var/lib/tftpboot` です。

- **target_system_image**

リモートサーバーからダウンロードするイメージの名前です。これは、POAP が完了した後に取得するイメージです。このオプションは、パーソナリティを除くすべてのモードで必須のパラメータです。デフォルトは「」です。

- **target_image_path**

サーバー上のイメージへのパスです。例：`/tftpboot`。デフォルトは `/var/lib/tftpboot` です。

- **destination_path**

画像と MD5 サムをダウンロードするパスです。デフォルトは `/bootflash` です。

- **destination_system_image**

宛先イメージのファイル名です。指定しない場合、デフォルトは `target_system_image` の名前になります。

- **user_app_path**

ユーザー スクリプト、エージェント、およびユーザー データが配置されているサーバー上のパスです。デフォルトは `/var/lib/tftpboot` です。

- **disable_md5**

MD5 チェックを無効にする必要がある場合に `True` にします。デフォルトは `[いいえ (False)]` です。

- **midway_system_image**

途中のシステム アップグレードに使用するイメージの名前です。デフォルトでは、POAP スクリプトがアップグレードパスで必要な中間イメージの名前を見つけて使用します。2 段階アップグレードで別の中間イメージを選択する場合は、このオプションを設定します。デフォルトは「」です。

- **source_config_file**

raw モードを使用する場合の構成ファイルの名前です。デフォルトは `poap.cfg` です。

- **vrf**

ダウンロードなどに使用する VRF です。VRF は POAP プロセスによって自動的に設定されます。デフォルトは `POAP_VRF` 環境変数です。

- **destination_config**

ダウンロードした構成に使用する名前です。デフォルトは `poap_replay.cfg` です。

- **split_config_first**

構成を分割する必要がある場合に、最初の構成部分に使用する名前です。構成を有効にするためにリロードするときのみ適用されます。デフォルトは `poap_1.cfg` です。

- **split_config_second**

構成が分割されている場合に2番目の構成部分に使用する名前です。デフォルトは `poap_2.cfg` です。

- **timeout_config**

構成ファイルのコピーのタイムアウトです (秒単位)。デフォルトは 120 です。レガシーイメージ以外の場合、このオプションは使用されず、POAP プロセスがタイムアウトします。レガシーイメージの場合、FTP はこのタイムアウトをコピープロセスではなくログインプロセスで使用しますが、`scp` および他のプロトコルはこのタイムアウトをコピープロセスで使用します。

- **timeout_copy_system**

システムイメージのコピーのタイムアウトです (秒単位)。デフォルトは 2100 です。レガシーイメージ以外の場合、このオプションは使用されず、POAP プロセスがタイムアウトします。レガシーイメージの場合、FTP はこのタイムアウトをコピープロセスではな

ログインプロセスで使用しますが、scp および他のプロトコルはこのタイムアウトをコピー プロセスで使用します。

- **timeout_copy_personality**

パーソナリティ tarball のコピーのタイムアウト時間です（秒単位）。デフォルトは 900 です。レガシーイメージ以外の場合、このオプションは使用されず、POAP プロセスがタイムアウトします。レガシーイメージの場合、FTP はこのタイムアウトをコピー プロセスではなくログインプロセスで使用しますが、scp および他のプロトコルはこのタイムアウトをコピー プロセスで使用します。

- **timeout_copy_user**

ユーザー スクリプトとエージェントをコピーする際のタイムアウトです（秒単位）。デフォルトは 900 です。レガシーイメージ以外の場合、このオプションは使用されず、POAP プロセスがタイムアウトします。レガシーイメージの場合、FTP はこのタイムアウトをコピー プロセスではなくログインプロセスで使用しますが、scp および他のプロトコルはこのタイムアウトをコピー プロセスで使用します。

- **personality_path**

パーソナリティ tarball のダウンロード元のリモートパスです。tarball がダウンロードされ、パーソナリティプロセスが開始されると、パーソナリティは、tarball 設定内で指定された場所からその後のすべてのファイルをダウンロードします。デフォルトは /var/lib/tftpboot です。

- **source_tarball**

ダウンロードするパーソナリティ tarball の名前です。デフォルトは、personality.tar です。

- **destination_tarball**

ダウンロード後のパーソナリティ tarball の名前です。デフォルトは、personality.tar です。

POAP のために DNS なしの DHCP サーバーを設定する

Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I6(1) 以降、tftp-server-name は DNS オプションなしで使用できます。以前のリリースで DNS なしで POAP 機能を有効にするには、150 カスタム オプションを使用して tftp-server-address を指定する必要があります。

tftp-server-address オプションを使用するには、dhcpd.conf ファイルの先頭で次を指定します。

```
option tftp-server-address code 150 = ip-address;
```

例：

```
host MyDevice {
    option dhcp-client-identifier "\000SAL12345678";
    fixed-address 2.1.1.10;
    option routers 2.1.1.1;
    option host-name "MyDevice";
    option bootfile-name "poap_nexus_script.py";
    option tftp-server-address 2.1.1.1;
}
```

POAP の一部としてのユーザー データ、エージェント、およびスクリプトのダウンロードと使用

オプション ディクショナリの下に、**download_scripts_and_agents** 関数があります。ユーザー スクリプトとデータをダウンロードする場合は、最初の **poap_log** 行のコメントを外し、一連の **download_user_app** 関数呼び出しを使用して各アプリケーションをダウンロードします。古い Cisco NX-OS バージョンはディレクトリの再帰的コピーをサポートしていないため、そのようなディレクトリは tarball (TAR アーカイブ) にまとめてから、スイッチで一度解凍する必要があります。 **download_scripts_and_agents** 関数のパラメータは次のとおりです。

- **source_path** : ファイルまたは tarball がある場所へのパス。このパラメータは必須です。
例: /var/lib/tftpboot。
- **source_file** : ダウンロードするファイルの名前。このパラメータは必須です。例: agents.tar、script.py など。
- **dest_path** : スイッチ上のファイルをダウンロードする場所。以前に存在しなかったディレクトリは作成されます。これは省略可能なパラメータです。デフォルトは /bootflash です。
- **dest_file** : ダウンロードしたファイルに付ける名前。これは省略可能なパラメータです。source_file から変更されないのがデフォルトです。
- **unpack** : 解凍する tarball が存在するかどうかを示します。解凍は **tar -xf tarfile -C /bootflash** で行いません。これは省略可能なパラメータです。デフォルトは [いいえ (False)] です。
- **delete_after_unpack** : 解凍が成功した後にダウンロードした tarball を削除するかどうかを示します。unpack が False の場合、効果はありません。デフォルトは [いいえ (False)] です。

ダウンロード機能を使用すると、POAP の実行に必要なすべてのエージェントとファイルをダウンロードできます。エージェントを開始するには、POAP によってダウンロードされた実行構成に構成が存在する必要があります。その場合、エージェント、スケジューラ、および cron エントリを EEM とともに使用できます。

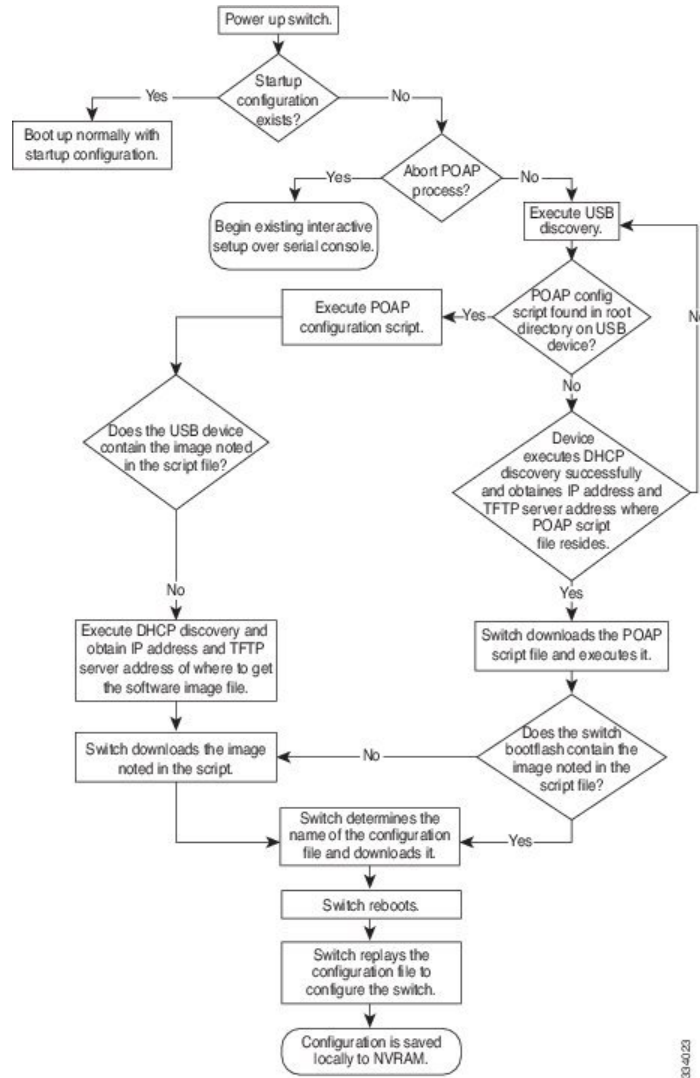
POAP 処理

POAP プロセスには次のフェーズがあります。

1. 電源投入
2. USB の検出
3. DHCP の検出
4. スクリプトの実行
5. インストール後のリロード

これらのフェーズ内では、他の処理や分岐点が発生します。次に、POAP 処理のフロー図を示します。

図 6: POAP 処理



電源投入フェーズ

デバイスの電源を初めて投入すると、デバイスは製造時にインストールされたソフトウェアイメージをロードし、起動に使用する構成ファイルを探します。構成ファイルが見つからなかった場合、POAP モードが開始されます。

起動中、POAP を中止して通常のセットアップに進むかどうかを確認するプロンプトが表示されます。POAP を終了することも、続行することもできます。



- (注) POAP を続行する場合、ユーザの操作は必要ありません。POAP を中止するかどうかを確認するプロンプトは、POAP 処理が完了するまで表示され続けます。

POAP モードを終了すると、通常のインタラクティブなセットアップスクリプトが開始されます。POAP モードを続行すると、すべての前面パネルのインターフェイスはデフォルト構成でセットアップされます。

USB 検出フェーズ

POAP が開始すると、プロセスはアクセス可能なすべての USB デバイスのルート ディレクトリから POAP スクリプト ファイル (Python スクリプト ファイル、`poap_script.py`)、構成ファイル、およびシステムとキックスタート イメージを検索します。

スクリプト ファイルが USB デバイスで見つかった場合、POAP はスクリプトの実行を開始します。スクリプト ファイルが USB デバイスに存在しない場合は、POAP は DHCP の検出を実行します (障害が発生した場合は、POAP が成功または手動で POAP プロセスを停止するまで、POAP プロセスは USB 検出と DHCP 検出を交互に実行します)。

構成スクリプトで指定されたソフトウェアイメージおよびスイッチ構成ファイルが存在する場合、POAP は、それらのファイルを使用して、ソフトウェアをインストールし、スイッチを構成します。ソフトウェア イメージおよびスイッチ構成ファイルが USB デバイスに存在しない場合、POAP はクリーンアップをして DHCP フェーズを最初から開始します。

DHCP 検出フェーズ

スイッチは、前面パネルのインターフェイスまたは MGMT インターフェイスで、DHCP サーバーからの DHCP オファーを要請する DHCP 検出メッセージを送信します。(次の図を参照してください)。Cisco Nexus スイッチ上の DHCP クライアントは、クライアント ID オプションにスイッチ シリアル番号を使用して、それ自体を DHCP サーバーに識別させます。DHCP サーバーはこの ID を使用して、IP アドレスやスクリプト ファイル名などの情報を DHCP クライアントに返すことができます。

POAP には、最低 3600 秒 (1 時間) の DHCP リース期間が必要です。POAP は、DHCP リース期間を確認します。DHCP リース期間が 3600 秒 (1 時間) に満たない場合、POAP は DHCP ネゴシエーションを実行しません。

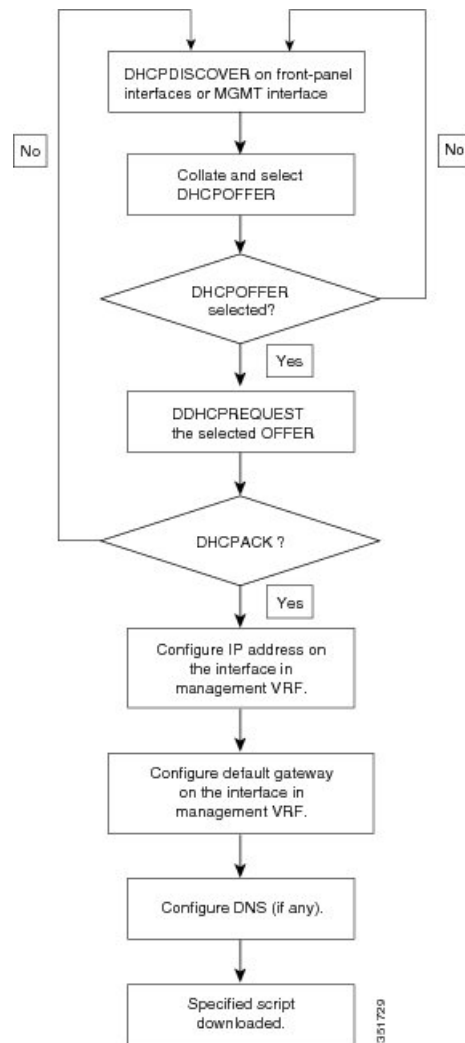
また、DHCP 検出メッセージでは、DHCP サーバーからの次のオプションを要請します。

- TFTP サーバ名または TFTP サーバアドレス : DHCP サーバは TFTP サーバ名または TFTP サーバアドレスを DHCP クライアントに中継します。DHCP クライアントはこの情報を使用して TFTP サーバーに接続し、スクリプト ファイルを取得します。
- ブートファイル名 : DHCP サーバは DHCP クライアントにブートファイル名を中継します。ブートファイル名には、TFTP サーバ上のブートファイルへの完全パスが含まれます。DHCP クライアントは、この情報を使用してスクリプト ファイルをダウンロードします。

要件を満たす複数の DHCP オファーが受信されると、最初に到着したものが受け入れられ、POAP プロセスは次の段階に進みます。デバイスは、選択された DHCP サーバとの DHCP ネゴシエーション（要求と確認応答）を実行し、DHCP サーバはスイッチに IP アドレスを割り当てます。POAP 処理の後続のステップでエラーが発生すると、IP アドレスは DHCP に戻されません。

要件を満たす DHCP オファーが存在しない場合、スイッチは DHCP ネゴシエーション（要求と確認応答）を実行せず、IP アドレスは割り当てられません。

図 7: DHCP 検出プロセス



POAP ダイナミック ブレークアウト

Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I4(1) 以降、POAP は、ブレークアウトされたポートの 1 つの背後にある DHCP サーバを検出しようとして、ポートの動的なブレークアウトを行いません。以前は、ブレークアウト ケーブルがサポートされていなかったため、POAP に使用される DHCP サーバは通常のケーブルに直接接続する必要がありました。

POAP は、どのブレイクアウト マップ（たとえば、10gx4、50gx2、25gx4、または 10gx2）が DHCP サーバーに接続されたリンクを起動するかを決定します。どのポートでもブレイクアウトがサポートされていない場合、POAP は動的ブレイクアウトプロセスをスキップします。ブレイクアウト ループが完了すると、POAP は通常どおり DHCP 検出フェーズを続行します。



- (注) ダイナミック ブレイクアウトの詳細については、デバイスのインターフェイス構成ガイドを参照してください。

スクリプトの実行フェーズ

デバイスが DHCP 確認応答の情報を使用してデバイス自体をブートストラップした後で、スクリプト ファイルが TFTP サーバーからダウンロードされます。

スイッチは、コンフィギュレーション スクリプトを実行します。これにより、ソフトウェア イメージのダウンロードとインストール、およびスイッチ固有のコンフィギュレーション ファイルのダウンロードが行われます。

ただし、この時点では、構成ファイルはスイッチに適用されません。スイッチ上で現在実行中のソフトウェア イメージが構成ファイル内の一部のコマンドをサポートしていない可能性があるためです。新しいソフトウェア イメージがインストールされた場合、スイッチのリブート後にそのソフトウェア イメージの実行が開始されます。その時点でスイッチにコンフィギュレーションが適用されます。



- (注) スwitchの接続が切断されると、スクリプトは停止し、スイッチはオリジナルのソフトウェア イメージとブートアップ変数をリロードします。

インストール後のリロード フェーズ

スイッチが再起動し、アップグレードされたソフトウェア イメージ上でコンフィギュレーションが適用（リプレイ）されます。その後、スイッチは、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

POAPv3

PowerOn 自動プロビジョニング バージョン 3 (POAPv3) は、Cisco NX-OS リリース 9.3(5) で導入されました。この機能を使用すると、POAP を介してライセンス、RPM、および証明書をインストールできます。

POAP を介してライセンス、RPM、または証明書をインストールするには、次の手順を実行します。

1. ボックスのシリアル番号を名前にして、POAP サーバーにフォルダを作成します。

2. インストールするファイルを含む .yaml または .yml ファイルを作成します。ファイル名が <serial-number>.yaml または .yml の形式になっていることを確認してください。
3. .yaml または .yml ファイルの MD5 チェックサムを作成します。
4. .yaml ファイルの形式が次の形式のようになっていることを確認してください。

```
Version : 1

Target-image : nxos.9.3.4.bin

Description : Yaml for box XYZ12345 poap provisioning. N9k Leaf mode box

License : [license1.lic, XYZ12345/license2.lic, folder1/license3.lic]

RPM :

  - rpm1.rpm

  - patches/reload/rpm2-reload.rpm

  - rpm3.rpm

Certificate : [ssh1.pub, XYZ12345/ssh2key.pub]

Trustpoint :

  CA1 :

    cert_1.p12 : password1 (priv_key_passphrase)

    XYZ12345/CA1/cert_2.pfx : password2

  CA2 :

    CA2/XYZ12345/cert_3.p12 : password3
```

5. yaml のキーワードは、上記の例に示されている形式と一致する必要があることに注意してください。
6. すべてのファイルを適切なパスに配置します。
7. シリアル番号を名前として持つフォルダが存在する場所をパスとして持つ `install_path` 変数を含めて、POAP スクリプトを更新します。

次のリストに、POAPv3 に関連する注意事項と制限事項を示します。

- YAML は、あらゆるプログラミング言語に対応した、人が読んで理解できるデータシリアル化標準規格です。YAML は **YAML Ain't Markup Language** の略で、このファイル形式テクノロジーはドキュメントで使用されます。これらのドキュメントはプレーンテキスト形式で保存され、.yaml 拡張子が付けられます。YAML はファイル形式で、.yml はファイル拡張子です。
- YAML は JSON のスーパーセットであり、YAML パーサーは JSON を認識します。YAML ファイル形式は読みやすく、コメントが役立つため、構成管理に使用されます。

- yml で言及されている Target_image は、POAP スクリプト内で言及されている target_system_image パスにのみ保持する必要があります。yml ファイルの Target_image では、相対パスはサポートされていません。
- .yaml と .yml の両方の拡張子がサポートされています。これらの拡張子のいずれかを使用することを選択するオプションがあります。オプションを選択しなかった場合、<serial>.yaml 拡張子が最初に試行され、失敗した場合は、<serial>.yml が考慮されます。
- 設定ファイルと同様に、yaml/yml の MD5 ファイルが必要です。ただし、disable_md5 が「True」の場合、yaml/yml の MD5 ファイルは必要ありません。
- デバイスの yaml ファイルが見つからない場合、「install_path」が POAP スクリプトファイルに設定されていても、POAP ワークフローは従来のパスで続行されます。つまり、RPM、ライセンス、証明書のインストールは行われません。
- RPM インストールを使用した PoAP が Day-0 以外のシナリオで実行される場合、インストールリセットを書き込み消去よりも強く推奨します。
- ISSU は、PoAP 経由で新しいイメージに移動するための新しいデフォルトです。レガシーブートの nxos < が必要な場合は "use_nxos_boot": True を使用する必要があることに注意してください。
- ファイルタイプのチェックは、トラストポイントについては .pfx、.p12、ライセンスについては .lic、rpm については .rpm に対して行なわれます。チェック結果で、ファイル形式が尊重されていないことが判明すると、現在の POAP は中止されます。
- .rpm の場合、yaml ファイルに元のファイル名を指定する必要があります。
例: customCliGoApp-1.0-1.7.5.x86_64.rpm から custom.rpm に名前を変更した場合、PoAP は名前の不一致により中断します。
rpm の元の名前を取得するには：

```
bash-4.3$ rpm -qp --qf '%{NAME}-%{VERSION}-%{RELEASE}.%{ARCH}.rpm' custom.rpm
customCliGoApp-1.0-1.7.5.x86_64.rpm
bash-4.3$
```
- POAP 経由で ISSU が開始されると、PoAP の中止は阻止されます。何らかの理由で ISSU が失敗すると、中止機能が再び有効になります。

POAP の注意事項および制約事項

POAP 構成時の注意事項および制約事項は次のとおりです。

- bootflash:poap_retry_debugs.log は、POAP-PNP によって入力される内部目的専用のファイルです。このファイルは、POAP 障害が発生した場合には関係ありません。
- この機能が動作するには、スイッチ ソフトウェア イメージで POAP をサポートしている必要があります。

- POAP では、スイッチが設定されて動作可能になった後のスイッチのプロビジョニングをサポートしません。スタートアップコンフィギュレーションのないスイッチの自動プロビジョニングだけがサポートされます。
- POAP では、**https_ignore_certificate** オプションをオンにすることが、https プロトコルで **ignore-certificate** キーワードを使用する前提となります。これにより、POAP スクリプトで HTTPS 転送を正常に実行できます。このオプションを指定しないと、POAP では https プロトコルは機能しません。
- Day 0 プロビジョニングに HTTP/HTTPS サーバーを使用する場合は、HTTP ヘッダー内の MAC 情報およびその他の関連詳細に基づいて、プロビジョニング手順が提供されます。POAP は、HTTP GET ヘッダーのこれらの詳細を使用して、正しいプロビジョニング スクリプトが識別されて使用されるようにします。これは、他のベンダー（および Cisco の他の OS）では利用可能でした。これらの追加情報は、Cisco Nexus 9000 の Cisco NX-OS リリース 10.2(1) から、HTTP get ヘッダーで利用できます。この機能は、POAP および非 POAP HTTP get 操作でデフォルトで使用できます。
- `copy http/https GET` コマンドを使用すると、次のフィールドが HTTP ヘッダーの一部として共有されます。

```
Host: IP address
User-Agent: cisco-nxos
X-Vendor-SystemMAC: System MAC
X-Vendor-ModelName: Switch-Model
X-Vendor-Serial: Serial_Num
X-Vendor-HardwareVersion: Hardwareversion
X-Vendor-SoftwareVersion: sw_version
X-Vendor-Architecture: Architecture
```

- 仮想ポート チャンネル (vPC) ペアの一部である Cisco Nexus デバイスをブートストラップするために POAP を使用する場合、Cisco Nexus デバイスは POAP の起動時にそのすべてのリンクをアクティブにします。vPC のリンクの端に二重接続されているデバイスは、Cisco Nexus デバイスに接続されているポート チャンネル メンバー リンクにそのトラフィックの一部またはすべての送信を開始する場合があります、結果としてトラフィックが失われることがあります。

この問題を回避するには、vPC リンクにリンク集約制御プロトコル (LACP) を設定します。POAP を使用したブートストラップ中の Cisco Nexus デバイスに対し、リンクが誤ってトラフィックの転送を開始しないようにするためです。

- POAP を使用して、LACP ポート チャンネル経由で Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチのダウンストリームに接続されている Cisco Nexus デバイスのブートストラップを行なった場合、メンバー ポートをポート チャンネルの一部としてバンドルできないと、Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチはデフォルトでそのメンバー ポートを一時停止にします。この問題を回避するには、インターフェイス構成モードから **no lacp suspend-individual** コマンドを使用して、そのメンバー ポートを一時停止しないように Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチを構成します。
- 重要な POAP の更新は syslog に記録され、シリアルコンソールから使用可能になります。

- 重大な POAP エラーは、ブートフラッシュに記録されます。ファイル名のフォーマットは `date-time_poap_PID_[init,1,2].log` です。ここで、`date-time` のフォーマットは `YYYYMMDD_hhmmss` で、`PID` はプロセス ID になります。
- POAP プロンプトで **skip** オプションを使用すると、パスワードと基本的な POAP 構成をバイパスできます。**skip** オプションを使用すると、`admin` ユーザーのパスワードは構成されません。`admin` ユーザーに有効なパスワードが設定されるまで、**copy running-config startup-config** コマンドはブロックされます。
- **boot poap enable** コマンド (永続的な POAP) がスイッチで有効になっている場合、リロード時に、スタートアップ構成が存在していても、POAP ブートがトリガーされます。このシナリオで POAP を使用しない場合は、**no boot poap enable** コマンドを使用して `boot poap enable` 構成を削除します。

- スクリプトログは、ブートフラッシュディレクトリに保存されます。ファイル名のフォーマットは `date-time_poap_PID_script.log` です。ここで、`date-time` のフォーマットは `YYYYMMDD_hhmmss` で、`PID` はプロセス ID になります。

スクリプトのログファイルの形式を構成できます。スクリプトファイルのログ形式は、スクリプトで指定されます。スクリプトのログファイルのテンプレートにはデフォルトの形式があります。ただし、スクリプト実行ログファイルでは別の形式を選択できます。

- POAP 機能にライセンスは必要ありません。デフォルトでイネーブルになっています。ただし、POAP 機能が正しく動作するためには、ネットワークの展開前に適切なライセンスがネットワーク内のデバイスにインストールされている必要があります。
- POAP の USB サポートにより、構成スクリプトファイルを含む USB デバイスを POAP モードでチェックできます。この機能は、Nexus 9300-EX、-FX、-FX2、-FX3、および Nexus 9200-X、-FX2 スイッチでサポートされています。
- デバイスが低いトラフィック レートを受信すると、POAP DHCP トランザクションは失敗することがあります。この問題は、POAP がフロントパネルを使用している場合に発生します。この問題を回避するには、POAP が管理ポートを使用するようにします。
- NX-OS 7.0(3)I7(4) 以降、RFC 3004 (DHCP のユーザー クラス オプション) がサポートされています。これにより、POAP は DHCPv4 のユーザー クラス オプション 77 と DHCPv6 のユーザー クラス オプション 15 をサポートできます。DHCPv4 と DHCPv6 の両方で、ユーザー クラス オプションに表示されるテキストは、「Cisco-POAP」です。
 - RFC 3004 (DHCP のユーザー クラス オプション) のサポートにより、Nexus 9000 スイッチで IPv6 上の POAP がサポートされます。
 - NX-OS 9.2(2) 以降、IPv6 上の POAP は、-R ラインカードを備えた Nexus 9504 および Nexus 9508 スイッチでサポートされるようになりました。

IPv6 上の POAP 機能により、IPv4 で障害が発生したとき、POAP プロセスが IPv6 を使用できるようになります。この機能は、接続障害が発生したときに IPv4 プロトコルと IPv6 プロトコルを切り替えるように設計されています。

- セキュア POAP の場合は、DHCP スヌーピングが有効になっていることを確認してください。
- POAP をサポートするには、ファイアウォールルールを設定して、意図しないまたは悪意のある DHCP サーバーをブロックします。
- システムのセキュリティを維持し、POAP をよりセキュアにするには、次のように構成します。
 - DHCP スヌーピングをイネーブルにします。
 - ファイアウォールルールを設定して、意図しない、または悪意のある DHCP サーバーをブロックします。
- POAP は、MGMT ポートとインバンドポートの両方でサポートされます。
- Cisco NX-OS リリース 10.2(3)F 以降、POAP/HTTPS 機能のハードウェア SUDI には、POAP スクリプトをセキュアにダウンロードするオプションが用意されています。
- POAP のデバッグ情報を収集するには、POAP のポストアポートで **show tech-support poap** コマンドを使用します。

POAP を使用するためのネットワーク環境の設定

- ステップ 1** シスコが提供する基本設定スクリプトを変更するか、独自のスクリプトを作成します。詳細については、『*Python Scripting and API Configuration Guide*』を参照してください。
- ステップ 2** 構成スクリプトに変更を加えるたびに、bash シェルを使用して、**# f=poap_nexus_script.py ; cat \$f | sed '/^#md5sum/d' > \$f.md5 ; sed -i 's/^#md5sum=.*/#md5sum=\\\$(md5sum \$f.md5 | sed 's/.*//)\\/' \$f** を実行することにより、必ず MD5 チェックサムを再計算することを確認してください。詳細については、『*Python API Reference Guide (Python API リファレンス ガイド)*』を参照してください。
- ステップ 3** (オプション) POAP の構成スクリプトおよびその他の必要なソフトウェア イメージおよびスイッチの構成 ファイルを、スイッチからアクセスできる USB デバイスに配置します。
- ステップ 4** DHCP サーバを配置し、このサーバにインターフェイス、ゲートウェイ、および TFTP サーバの IP アドレスと、コンフィギュレーションスクリプトファイルのパスと名前が指定されたブートファイルを設定します。(この情報は、最初の起動時にスイッチに提供されます)。すべてのソフトウェア イメージおよびスイッチ構成ファイルが USB デバイスにある場合は、DHCP サーバを配置する必要はありません。
- ステップ 5** 構成スクリプトをホストするための TFTP または HTTP サーバを展開します。サーバへの HTTP 要求をトリガーするには、TFTP サーバ名の前に HTTP:// を付けます。HTTPS はサポートされていません。
- ステップ 6** URL 部分を TFTP スクリプト名に追加して、ファイル名への正しいパスを表示します。
- ステップ 7** ソフトウェア イメージおよびコンフィギュレーションファイルをホストするための 1 つまたは複数のサーバを配置します。

POAP を使用するスイッチの設定

始める前に

POAP を使用するためにネットワーク環境がセットアップされていることを確認します。

ステップ 1 ネットワークにスイッチを設置します。

ステップ 2 スwitchの電源を投入します。

構成ファイルが見つからない場合は、スイッチは POAP モードで起動し、POAP を中止して通常のセットアップで続行するかどうかを尋ねるプロンプトを表示します。

POAP モードで起動を続行するためのエントリは必要ありません。

ステップ 3 (オプション) POAP モードを終了して、通常のインタラクティブセットアップスクリプトを開始する場合は、**y** (yes) を入力します。

スイッチが起動して、POAP 処理が開始されます。

次のタスク

設定を確認します。

md5 ファイルの作成

構成スクリプトに変更を加えるたびに、`bash` シェルを使用して、`# f=poap_fabric.py ; cat $f | sed '/^#md5sum/d' > $f.md5 ; sed -i 's/^#md5sum=.*#md5sum=\\$(md5sum $f.md5 | sed 's/ .*//)"/' $f` を実行することにより、必ず MD5 チェックサムを再計算します。

このプロシージャは、`poap_fabric.py` の `md5sum` を新しい値に置き換えます (そのファイルに変更があった場合)。



(注) 手順 1～4 および 7～8 は、`BASH` シェルを使用している場合にのみ必要です。他の Linux サーバーにアクセスできる場合、これらの手順は必要ありません。

始める前に

`bash` シェルにアクセスします。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	feature bash-shell 例： switch(config)# feature bash-shell	BASH シェル機能を有効にします。
ステップ 3	exit 例： switch(config)# exit	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	run bash 例： switch# run bash	Linux BASH を開きます。
ステップ 5	md5sum /bootflash/nxos.release_number.bin > /bootflash/nxos.release_number.bin.md5 例： bash-4.2\$ md5sum /bootflash/nxos.7.0.3.I6.1.bin > /bootflash/nxos.7.0.3.I6.1.bin.md5	.bin ファイルの md5sum を作成します。
ステップ 6	md5sum /bootflash/poap.cfg > /bootflash/poap.cfg.md5 例： bash-4.2\$ md5sum /bootflash/poap.cfg > /bootflash/poap.cfg.md5	.cfg ファイルの md5sum を作成します。
ステップ 7	exit 例： switch(config)# exit	BASH シェルを終了します。
ステップ 8	dir i .md5 例： switch# dir i .md5 65 Jun 09 12:38:48 2017 nxos.7.0.3.I6.1.bin.md5 54 Jun 09 12:39:36 2017 poap.cfg.md5 67299 Jun 09 12:48:58 2017 poap.py.md5	.md5 ファイルを表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	copy bootflash:poap.cfg.md5 scp://ip_address/ 例 : <pre>copy bootflash:poap.cfg.md5 scp://10.1.100.3/ Enter vrf (If no input, current vrf 'default' is considered): management Enter username: root root@10.1.100.3's password: poap.cfg.md5 100% 54 0.1KB/s 00:00 Copy complete.</pre>	ファイルを構成およびソフトウェア サーバーにアップロードします。

デバイス コンフィギュレーションの確認

構成を確認するためには、次のいずれかのコマンドを使用します。

コマンド	目的
show running-config	実行設定を表示します。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。
show time-stamp running-config last-changed	実行構成が最後に変更されたときのタイムスタンプを表示します。

POAP のトラブルシューティング

以下は、POAP を使用する際の既知の問題と提案のリストです。

- 問題：POAP スクリプトの実行がすぐに失敗し、「スクリプトの実行に失敗しました」というステートメントを除いて、syslog または出力が表示されません。

提案：サーバーで **python script-name** コマンドを使用し、構文エラーがないことを確認します。options ディクショナリは Python ディクショナリであるため、各エントリはコマンドで区切って、キーまたはオプションと値をコロンで区切る必要があります。

- 問題：正しく使用されていないオプションに応じて、さまざまな場所で TypeError 例外が発生します。

提案：一部のオプションでは整数を使用します(たとえば、タイムアウトやその他の数値)。引用符で囲まれた数値については、options ディクショナリを確認してください。正しい使用方法については、オプション リストを参照してください。

- 問題：POAP over USB が存在するファイルを見つけられません。

提案：一部のデバイスには2つのUSBスロットがあります。USBスロット2を使用している場合は、オプションで指定する必要があります。

- 問題：POAPに関する問題。

提案：POAPを中止し、システムが起動したら、**show tech-support poap** コマンドを実行します。これにより、POAPのステータスと構成が表示されます。

POAP パーソナリティの管理

POAP パーソナリティ

Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I4(1) で導入された POAP パーソナリティ機能により、ユーザーデータ、Cisco NX-OS とサードパーティのパッチ、および構成ファイルをバックアップし、復元できます。以前のリリースでは、POAP は構成のみを復元できました。

POAP のパーソナリティは、スイッチ上で追跡されたファイルによって定義されます。パーソナリティ ファイルの構成およびパッケージリストは ASCII ファイルです。

バイナリ バージョンはパーソナリティ ファイルに記録されますが、実際のバイナリ ファイルは含まれません。バイナリ ファイルは通常大きいため、指定されたリポジトリからアクセスします。

パーソナリティ ファイルは .tar ファイルで、通常は一時フォルダに抽出されます。次に例を示します。

```
switch# dir bootflash: 042516182843personality # timestamp name
46985 Dec 06 23:12:56 2015 running-config Same as "show running-configuration" command.
20512 Dec 06 23:12:56 2015 host-package-list Package/Patches list
58056 Dec 06 23:12:56 2015 data.tar User Data
25 Dec 06 23:12:56 2015 IMAGEFILE Tracked image metadata
```

POAP パーソナリティのバックアップ

スイッチ上でローカルに、またはサーバー上でリモートに POAP パーソナリティのバックアップを作成できます。スイッチから取得したパーソナリティ バックアップは、同じモデルのスイッチでのみ復元する必要があります。



- (注) バックアップに Cisco スケジューラ機能を使用している場合は、次の例に示すように、POAP パーソナリティもバックアップするように設定できます。スケジューラの詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』を参照してください。

```
switch(config)# scheduler schedule name weeklybkup
switch(config-schedule)# time weekly mon:07:00
switch(config-schedule)# job name personalitybkup
switch(config-schedule)# exit
switch(config)# scheduler job name personalitybkup
switch(config-job)# personality backup bootflash:/personality-file ; copy
bootflash:/personality-file tftp://10.1.1.1/ vrf management
```

手順の概要

1. personality backup [bootflash:uri | scp:uri]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	必須: personality backup [bootflash:uri scp:uri] 例 : <pre>switch# personality backup bootflash:personality1.tar</pre> 例 : <pre>switch# personality backup scp://root@2.1.1.1/var/lib/tftpboot/backup.tar</pre>	POAP パーソナリティのバックアップを作成します。

POAP パーソナリティの構成

POAP パーソナリティをシステムの実行状態またはコミット（起動）状態のどちらから取得するかを指定できます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **personality**
3. **track [running-state | startup-state | data local-directories-or-files]**
4. **binary-location source-uri-folder**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>必須: configure terminal</p> <p>例 :</p> <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<p>必須: personality</p> <p>例 :</p> <pre>switch# personality switch(config-personality)#</pre>	パーソナリティ構成モードに入ります。
ステップ 3	<p>必須: track [running-state startup-state data local-directories-or-files]</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-personality)# track data bootflash:myfile1</pre> <p>例 :</p> <pre>switch(config-personality)# track data bootflash:user_scripts/*.py</pre> <p>例 :</p> <pre>switch(config-personality)# track data bootflash:basedir/*/backup_data</pre>	<p>POAP パーソナリティの派生方法を指定します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • running-state : 次の情報を取得します。実行構成 (show running-config コマンドで表示)、ホストシステムのアクティブな Cisco NX-OS パッチとサードパーティパッケージ、およびイメージ名 (show version コマンドで表示)。これがデフォルトのオプションです。 • startup-state : 次の情報をキャプチャします。スタートアップコンフィギュレーション (show startup-config コマンドで表示)、ホストシステムでコミットされた Cisco NX-OS パッチおよびサードパーティパッケージ、およびイメージ名 (show version コマンドで表示)。 • data local-directories-or-files : バックアップするディレクトリまたはファイルを指定します。このコマンドを複数回入力して、複数のディレクトリおよびファイルをバックアップできます。UNIX 形式のワイルドカード文字がサポートされています。この例では、1つのフォルダと2つのディレクトリが指定されています。 <p>(注) このコマンドを使用してブートフラッシュ内のバイナリ ファイルをバックアップしたり、ブートフラッシュ全体をポイントしたりしないでください。</p> <p>(注) ゲスト シェル パッケージは追跡されません。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) 署名付き RPM (キーが必要) はサポートされていません。POAP パーソナリティ機能は、署名された RPM では機能しません。
ステップ 4	必須: binary-location source-uri-folder 例 : <pre>switch(config-personality)# binary-location scp://remote-dirl/nxos_patches/</pre>	POAP パーソナリティの復元時にバイナリファイルを取得するローカルディレクトリまたはリモートディレクトリを指定します。このコマンドを複数回(優先順位に従って)入力して、複数の場所を指定できます。

POAP パーソナリティの復元

POAP スクリプトの実行フェーズ中に、現在起動されているスイッチイメージが Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I4(1)以降である場合、スクリプト内のパーソナリティモジュールは POAP パーソナリティを復元します。必要に応じて、スイッチを正しいソフトウェアイメージにアップグレードします。



(注) パーソナリティの復元は、パーソナリティのバックアップに使用されたのと同じソフトウェアイメージを使用して実行されます。新しいイメージへのアップグレードは、POAP パーソナリティ機能ではサポートされていません。新しいイメージにアップグレードするには、通常の POAP スクリプトを使用します。



(注) パーソナリティスクリプトが何らかの理由（ブートフラッシュに十分なスペースがない、スクリプトの実行に失敗するなど）で失敗した場合、POAP プロセスは DHCP 検出フェーズに戻ります。

復元プロセスは、次のアクションを実行します。

1. ブートフラッシュ内のパーソナリティファイルを解凍します。
2. パーソナリティファイルを検証します。
3. パーソナリティファイルから構成ファイルとパッケージリストファイルを読み取り、ダウンロードするバイナリのリストを作成します。
4. 現在のイメージまたはパッチがパーソナリティファイルで指定されたものと異なる場合、バイナリをブートフラッシュ（存在しない場合）にダウンロードし、正しいイメージで再起動してから、パッケージまたはパッチを適用します。
5. 「/」を基準にしてユーザーデータファイルを解凍します。

6. POAP パーソナリティの構成ファイルをスタートアップ構成にコピーします。
7. スイッチをリブートします。

POAP パーソナリティ サンプル スクリプト

次のサンプル POAP スクリプト (poap.py) には、パーソナリティ機能が含まれています。

```
#md5sum="b00a7fffb305d13a1e02cd0d342afca3"
# The above is the (embedded) md5sum of this file taken without this line, # can be #
created this way:
# f=poap.py ; cat $f | sed '/^#md5sum/d' > $f.md5 ; sed -i "s/^#md5sum=.*/#md5sum=$(md5sum
  $f.md5 | sed 's/ .*//')/" $f # This way this script's integrity can be checked in case
you do not trust # tftp's ip checksum. This integrity check is done by
/isan/bin/poap.bin).
# The integrity of the files downloaded later (images, config) is checked # by downloading
the corresponding file with the .md5 extension and is # done by this script itself.

from poap.personality import POAPPersonality import os

# Location to download system image files, checksums, etc.
download_path = "/var/lib/tftpboot"
# The path to the personality tarball used for restoration personality_tarball =
"/var/lib/tftpboot/foo.tar"
# The protocol to use to download images/config protocol = "scp"
# The username to download images, the personality tarball, and the # patches and RPMs
during restoration username = "root"
# The password for the above username
password = "passwd754"
# The hostname or IP address of the file server server = "2.1.1.1"

# The VRF to use for downloading and restoration vrf = "default"
if os.environ.has_key('POAP_VRF'):
    vrf = os.environ['POAP_VRF']

# Initialize housekeeping stuff (logs, temp dirs, etc.) p = POAPPersonality(download_path,
  personality_tarball, protocol, username, password, server, vrf)

p.get_personality()
p.apply_personality()

sys.exit(0)
```



第 5 章

ネットワーク プラグ アンド プレイ の使用

この章は、次の内容で構成されています。

- [ネットワーク プラグ アンド プレイ について, on page 59](#)
- [ネットワーク プラグ アンド プレイ のトラブルシューティング例 \(70 ページ\)](#)

ネットワーク プラグ アンド プレイ について

ネットワーク プラグ アンド プレイ (PnP) は、Cisco Nexus 9500 シリーズ スイッチ (具体的には、N9K-C9504、N9K-C9508、および N9K-C9516) で実行されるソフトウェア アプリケーションです。PnP は、新しいブランチやキャンパスの展開を容易にしたり、既存のネットワークに更新プログラムをプロビジョニングしたりするために、シンプルで安全な統一および統合された手法を提供します。この機能は、複数のデバイスで構成されるネットワークを、ほぼゼロタッチの展開エクスペリエンスでプロビジョニングするための、統一されたアプローチを提供します。

簡素化された展開により、コストと複雑さが軽減され、展開の速度とセキュリティが向上します。PnP 機能はシスコのデバイスの展開の簡素化を、次の展開関連の運用タスクを自動化することにより支援します。

- デバイスの初期ネットワーク接続を確立する。
- コントローラにデバイス構成を配信する。
- コントローラにソフトウェアおよびファームウェアのイメージを配信する。
- スイッチにローカルのクレデンシャルをプロビジョニングする。
- 展開関連のイベントについて他の管理システムに通知する。

PnP は、クライアント サーバー ベースのモデルです。クライアント (エージェント) は Cisco Nexus 9500 シリーズ スイッチで動作し、サーバー (コントローラ) は Cisco DNA コントローラで動作します。

PnP は、エージェントとコントローラ間の通信にセキュアな接続を使用します。この通信は暗号化されています。

PnP 機能に必要なセキュリティ証明書の構成と管理については、『[Cisco Digital Network Architecture Center セキュリティ ベスト プラクティス ガイド](#)』を参照してください。

PnP エージェントは、ネットワークに存在するソリューションを統合エージェントにまとめるとともに、現在のソリューションを強化する機能を追加します。PnP エージェントの主な目的は、すべての展開シナリオに一貫した Day 0 展開ソリューションを提供することです。

ネットワーク プラグアンド プレイ (PnP) エージェントによって提供される機能

Day 0 プロビジョニング

Day 0 ブートストラップには、構成、イメージ、およびその他のファイルが含まれます。デバイスに最初に電源を入れたとき、スタートアップ構成ファイルがない場合は、デバイスに組み込まれている PnP の検出プロセスが起動し、PnP コントローラまたはサーバーのアドレスの検出を試みます。PnP エージェントは DHCP やドメインネーム システム (DNS) などの方法で、目的とする PnP サーバーの IP アドレスを取得します。

PnP エージェントは、IP アドレスを正常に取得すると、サーバーとの長期的な双方向レイヤ 3 接続を開始し、サーバーからのメッセージを待ちます。PnP サーバーアプリケーションは、デバイスで実行される情報とサービスを要求するメッセージをエージェントに送信します。

Cisco Nexus 9500 シリーズ スイッチで実行されるエージェントは、DHCP 確認応答の受信時に IP アドレスを構成し、構成のプロビジョニングのためにコントローラとの安全なチャネルを確立します。その後、スイッチはイメージをアップグレードし、構成を適用します。

検出方法

PnP エージェントは、次のいずれかの方法を使用して、PnP コントローラまたはサーバーを検出します。

- DHCP ベースの検出
- DNS ベースの検出
- PnP 接続

検出後、PnP エージェントは検出した情報をファイルに書き込みます。このファイルは、PnP サーバー (DNA コントローラ/DNA-C) とのハンドシェイクに使用されます。

PnP ディスカバリ フェーズでは、次のタスクがエージェントによって実行されます。

- すべてのインターフェイスをアップにします。
- すべてのインターフェイスについて並行して DHCP 要求を送信します。
- DHCP 応答を受信すると、IP アドレスとマスク、デフォルト ルート、DNS サーバー、ドメイン名を構成し、リース解析ファイルに PnP サーバー IP を書き込みます。Cisco Nexus スイッチには DHCP クライアントがなく、静的設定が必要であることを注意してください。
- すべてのインターフェイスを停止します。



Note POAP は、Day 0 プロビジョニングの最初の選択肢です。有効な POAP オファーがない場合にのみ、PnP ディスカバリが試行されます。また、PnP は Cisco Nexus 9000 EoR モデル N9K-C9504、N9K-C9508、および N9K-C9516 でのみサポートされます。Cisco Nexus 9000 ToR は PnP をサポートしません。

DHCP ベースの検出

スイッチの電源が入っていて、スタートアップ構成が内場合、PnP は DHCP 検出から開始します。DHCP ディスカバリは、PnP サーバー接続との詳細を取得します。

PnP エージェントは、以下を構成します。

- IP アドレス
- ネットマスク
- デフォルト ゲートウェイ
- DNS サーバ
- [ドメイン名 (Domain name)]

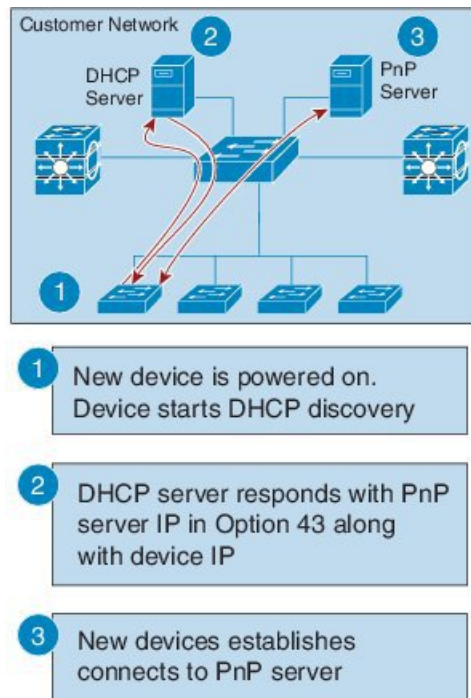
エージェントの構成が失敗した場合は、手動でスイッチを構成する必要があります。

DHCP ディスカバリは、次のフローで動作します。

- スwitchの電源を投入します。
- スwitchが起動しますが、構成が存在しないため、PnP プロセスが開始されます。
- DHCP 検出を開始します。
- DHCP サーバーが応答し、PnP サーバー構成を伝えます。
- PnP エージェントは PnP サーバーとハンドシェイクします。
- イメージをダウンロードし、インストールしてリロードします。
- コントローラから構成をダウンロードして適用します。

NV-RAM にスタートアップ構成がないデバイスは、Day 0 プロビジョニングをトリガーし、POAP プロセスを実行します ([m_using_poweron_auto_provisioning_92x.ditamap#id_70221](#)を参照)。有効な POAP オファーがない場合、PnP エージェントが開始されます。DHCP サーバーはベンダー固有のオプション 43 を使用して追加情報を挿入するように構成できます。DHCP サーバーは、文字列「cisco pnp」のあるデバイスからオプション 60 を受信した時点で、要求側のデバイスに PnP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を渡します。デバイスが DHCP 応答を受信すると、PnP エージェントは応答からオプション 43 を抽出して、PnP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を取得します。PnP エージェントは、PnP サーバーと通信するためにこの IP アドレスまたはホスト名を使用します。

Figure 8: PnP サーバーの DHCP 検出プロセス



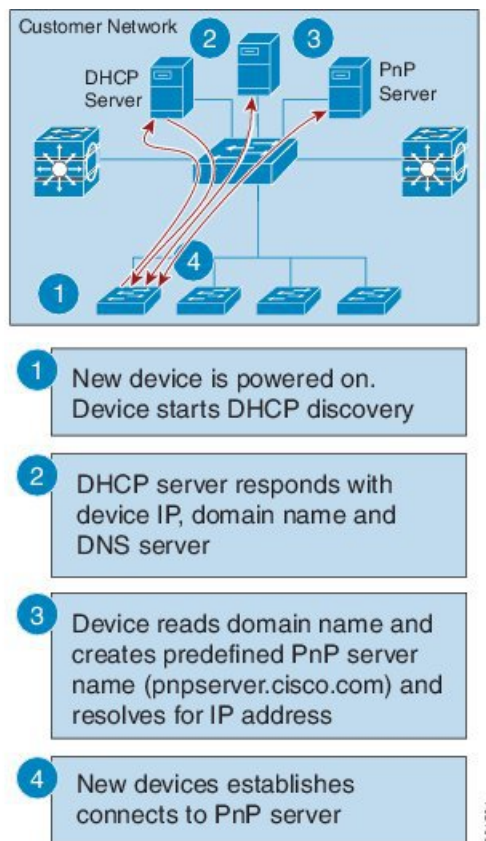
DNS ベースの検出

DHCP 検出が PnP サーバーの取得に失敗すると、エージェントは DNS ベースの検出にフォールバックします。DNS ベースの検出を開始するには、DHCP から次の情報が必要です。

- IP アドレスおよびネットマスク
- デフォルト ゲートウェイ
- DNS サーバーの IP
- [ドメイン名 (Domain name)]

エージェントは、DHCP 応答から顧客のネットワークのドメイン名を取得し、完全修飾ドメイン名 (FQDN) を形成します。DHCP 応答のプリセットの展開サーバー名とドメイン名情報を使用して、PnP エージェントが次の FQDN を構成します。次に、エージェントは、ローカルネーム サーバでの検索を実行し、前述の FQDN の IP アドレスの解決を試みます。

Figure 9: pnpserver.[domainname].com の DNS ルックアップ



Note デバイスはドメイン名を読み取り、定義済みの PnP サーバーの名前を pnpserver.[domainname].com などとして作成します。例えば pnpserver.cisco.com のようになります。

プラグアンドプレイ接続

DHCP と DNS の検出が失敗すると、PnP エージェントは、初期展開のためにシスコクラウドベースの展開サービスを検出して通信します。PnP エージェントは Python ライブラリを使用して HTTPS チャネルを直接開き、内部的に OpenSSL を呼び出して構成のためにクラウドと通信します。

Cisco 電源オン自動プロビジョニング

Cisco 電源オン自動プロビジョニング (PoAP) は、DHCP および TFTP サーバと通信して、イメージと構成をダウンロードします。PnP 機能の導入により、PnP と PoAP は Cisco Nexus 9500 シリーズスイッチで共存できます。PoAP と PnP の共同動作は、次のプロセスで行なわれます。

- PoAP は、システムにスタートアップ構成が存在しない場合、最初に開始されます。
- PoAP でプロビジョニングが行なわれない場合、PnP が次に開始されます。

- PoAP と PnP は交互にコントローラの検出を行ないます。
- コントローラの検出プロセスは、コントローラが見つかるまで、または管理者が自動プロビジョニングを中止するまで続きます。
- コントローラを見つけたプロセス（POAPまたはPnP）はプロビジョニングを継続します。コントローラを見つけられなかった他方のプロセスは通知を受け、-----終了します。

ネットワーク プラグアンドプレイ エージェントのサービスと機能

PnP エージェントは、次のタスクを実行します。

- Backoff
- 機能
- CLI の実行
- 設定のアップグレード
- デバイス情報
- 証明書のインストール
- イメージのインストール
- リダイレクション



Note PnP コントローラまたはサーバーは、オプションのチェックサムタグを提供します。PnP エージェントによるイメージのインストールと構成のアップグレードサービス要求で使用されます。チェックサムが要求に含まれている場合、イメージのインストールプロセスはそのチェックサムを、実行中の現在のイメージのチェックサムと比較します。

チェックサムが同じである場合、インストールまたはアップグレードされるイメージは、デバイスで実行されている現在のイメージと同じです。このシナリオでは、イメージのインストールプロセスは他の操作を実行しません。

チェックサムが同じでない場合、新しいイメージがローカル ファイルシステムにコピーされ、チェックサムが再度計算されて、要求で指定されたチェックサムと比較されます。同じ場合は、新しいイメージのインストールまたはデバイスの新しいイメージへのアップグレードが続行されます。チェックサムが異なる場合、プロセスはエラーで終了します。

Backoff

PnP プロトコル（HTTP トランスポートを使用）をサポートする Cisco NX-OS デバイスでは、PnP エージェントが PnP サーバーに継続的に作業要求を送信する必要があります。PnP サーバーに、PnP エージェントが実行するスケジュール済みまたは未処理の PnP サービスがない場合は、連続的な no operation 作業要求によってネットワーク帯域幅とデバイスリソースの両方が使い果たされます。この PnP バックオフサービスにより、PnP サーバは PnP エージェントに指定された時間だけ休止し、後でコールバックするように通知できます。

機能

機能サービス要求は、エージェントによってサポートされているサービスを照会するために、PnP サーバーによってデバイス上の PnP エージェントに送信されます。次に、サーバーはイン

ベントリ サービスリクエストを送信して、デバイスのインベントリ情報を照会します。次に、イメージインストール要求を送信して、イメージをダウンロードしてインストールします。エージェントからの応答を取得すると、サポートされている PnP サービスと機能のリストが登録され、サーバーに返されます。

CLI の実行

Cisco NX-OS は、特権 EXEC モードとグローバル構成モードの 2 つのコマンド実行モードをサポートしています。EXEC コマンドのほとんどは、**show** コマンド（現在の構成ステータスを表示）、**clear** コマンド（カウンタまたはインターフェイスを消去）などのように、一回限りのコマンドです。EXEC コマンドは、デバイスをリポートするときには保存されません。構成モードのコマンドを使用すれば、ユーザーが実行構成を変更できます。設定を保存すると、これらのコマンドはデバイスの再起動後も保存されます。

設定のアップグレード

シスコのデバイスで実行する可能性がある構成のアップグレードは 2 種類あります。1 つはスタートアップ構成への新しい構成ファイルのコピー、もう 1 つは実行構成への新しい構成ファイルのコピーです。

スタートアップ構成への新しい構成ファイルのコピー：新しい構成ファイルは **copy** コマンドを使用してファイルサーバーからデバイスにコピーされ、ファイルの有効性を確認するためにファイルチェックが実行されます。ファイルが有効な場合、そのファイルがスタートアップ構成にコピーされます。使用可能なディスク領域が十分にある場合、以前の構成ファイルはバックアップされます。デバイスが再度リロードされると、新しい構成が有効になります。

実行構成への新しい構成ファイルのコピー：新しい構成ファイルは、**copy** コマンドまたは **configure replace** コマンドを使用してファイルサーバーからデバイスにコピーされます。ロールバックの実行が非効率的だと、構成ファイルの置換とロールバックによってシステムが不安定な状態のままになることがあります。したがって、ファイルをコピーして構成をアップグレードすることをお勧めします。

[デバイス情報 (Device Information)]

PnP エージェントは、要求に応じてデバイスインベントリとその他の重要な情報を PnP サーバーに抽出する機能を提供します。次のデバイスプロファイル要求タイプがサポートされています。

- **all** : 固有のデバイス識別子 (UDI) 、イメージ、ハードウェア、およびファイルシステムのインベントリ データを含む完全なインベントリ情報を返します。
- **filesystem** : ファイルシステムの名前とタイプ、ローカル サイズ (バイト単位) 、空きサイズ (バイト単位) 、読み取りフラグ、書き込みフラグなど、ファイルシステムのインベントリ情報を返します。
- **hardware** : ホスト名、ベンダー文字列、プラットフォーム名、プロセッサタイプ、ハードウェアリビジョン、メインメモリ サイズ、I/O メモリ サイズ、ボード ID、ボードリワーク ID、プロセッサリビジョン、ミッドプレーンリビジョンおよび場所など、ハードウェアのインベントリ情報を返します。
- **image** : バージョン文字列、イメージ名、ブート変数、rommon への復帰理由、ブートローダ変数、構成レジスタ、次回ブート時の構成レジスタ、および構成変数など、イメージのインベントリ情報を返します。

- UDI : デバイス UDI を返します。

証明書のインストール

証明書のインストールは、PnP サーバーがデバイス上の PnP エージェントにトラストプールまたはトラストポイントの証明書のインストールまたはアンインストールを要求するセキュリティサービスです。このサービスは、再接続するプライマリサーバーとバックアップサーバーに関するエージェントも指定します。証明書を正常にインストールするには、次の前提条件が必要です。

- 証明書またはトラストプールバンドルのダウンロード先であるサーバーに到達できる必要があります。
- 証明書またはバンドルをダウンロードするためのアクセス許可の問題があってはなりません。
- PKI API は、エージェントが証明書またはバンドルをダウンロードしてインストールするために呼び出すことができるように、PnP エージェントから使用可能でアクセス可能である必要があります。
- ダウンロードした証明書またはバンドルを保存するのに十分なメモリがデバイスに必要です。

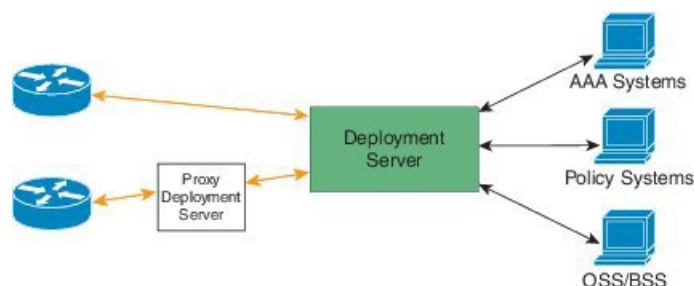
PnP エージェント

PnP エージェントは、シスコのネットワーク デバイスのうち、簡素化された展開アーキテクチャをサポートするものすべてに含まれている組み込みソフトウェア コンポーネントです。PnP エージェントが認識し、対話する対象は PnP サーバのみです。PnP エージェントはまず、通信可能な PnP サーバの検出を試みます。サーバーが検出されて接続が確立された後で、エージェントはサーバーと通信し、構成、イメージ、ファイル更新などの展開関連のアクティビティを実行します。また、アウトオブバンドの構成変更やインターフェイス上の新しいデバイス接続などの対象のすべての展開関連イベントをサーバーに通知します。

PnP サーバー

PnP サーバーは、展開するデバイスの展開情報（イメージ、設定、ファイル、およびライセンス）の管理や配布のロジックを符号化する中央サーバです。このサーバは、特定の展開プロトコルを使用することで、簡素化された展開プロセスをサポートするデバイス上のエージェントと通信します。

Figure 10: 簡素化された展開サーバ



PnP サーバは、スマートフォンと PC の展開アプリケーションなどのプロキシサーバ、Neighbor Assisted Provisioning Protocol (NAPP) として動作する他の PnP エージェント、および VPN ゲートウェイのようなその他のタイプのプロキシ展開サーバとも通信します。

PnP サーバは、エージェントを別の展開サーバにリダイレクトできます。リダイレクトの一般的な例は PnP サーバによるリダイレクトで、ブートストラップ設定を NAPP サーバを介して送信した後に直接通信するデバイスをリダイレクトします。PnP サーバは企業がホストできます。このソリューションでは、シスコが提供するクラウドベースの展開サービスが可能です。この場合、デバイスはシスコのクラウドベースの展開サービスを検出して通信し、初期導入を実行します。その後、お客様の展開サーバにそのデバイスをリダイレクトできます。

デバイスとの通信に加え、サーバは認証、承認、アカウントिंग (AAA) システム、プロビジョニングシステム、その他の管理アプリケーションなどのさまざまな外部システムとのインターフェイスの役割を果たします。

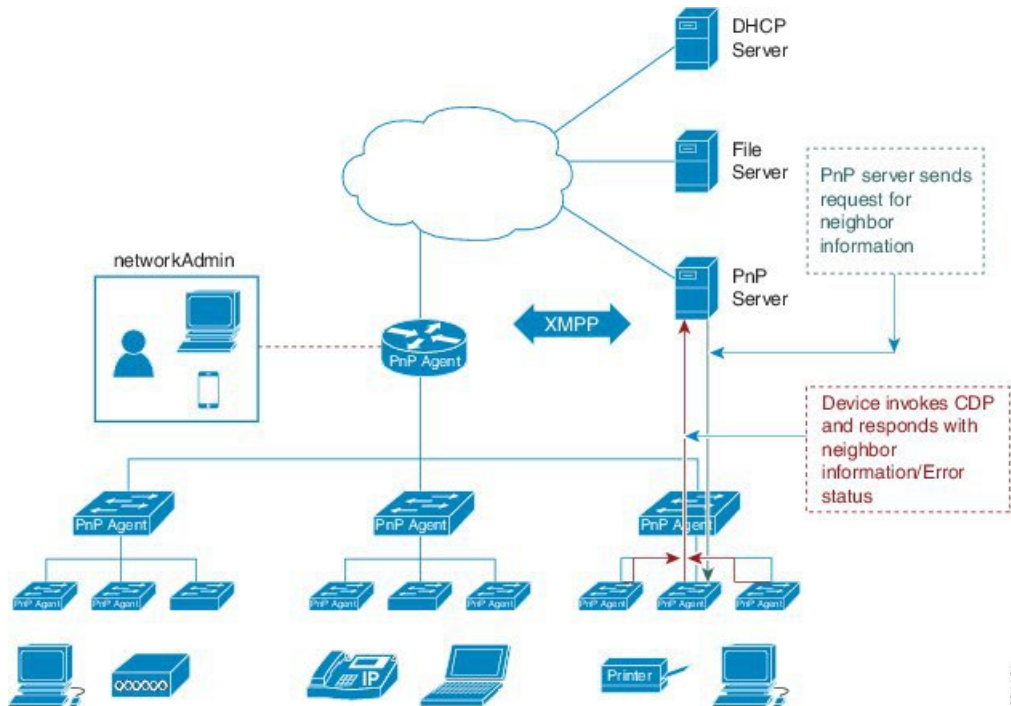
PnP エージェントの展開

次に、シスコのデバイスでの PnP エージェントの展開手順を示します。

1. PnP エージェントを備えているシスコのデバイスは、PnP サーバにタスクを要求します。つまり、PnP エージェントは作業の要求とともに、一意のデバイス識別子 (UDI) を送信します。
2. PnP サーバにデバイス用のタスク (イメージのインストール、構成、アップグレードなど) がある場合、作業リクエストが送信されます。
3. PnP エージェントは作業要求を受信した後で、タスクを実行し、タスクのステータス、成功かエラーか、および要求された対応する情報に関する応答を PnP サーバに返します。

PnP エージェント ネットワーク トポロジ

Figure 11: Cisco PnP エージェントの展開のネットワーク トポロジ



PnP エージェントの初期化

PnP エージェントはデフォルトで有効になっていますが、開始されるのはスタートアップ構成が利用できない場合です。

スタートアップ構成なし

新しいシスコのデバイスは、デバイスの NVRAM の中にスタートアップ コンフィギュレーションファイルのない状態でお客様に出荷されます。新しいデバイスがネットワークに接続され、電源が投入された時点でスタートアップ構成ファイルがデバイス上にない場合は、PnP エージェントが自動的に起動され、PnP サーバーの IP アドレス検出を行いません。

PnP エージェントの CLI 構成

PnP は、デフォルトで VLAN 1 を使用しているデバイスをサポートします。

ネットワーク プラグアンドプレイの注意事項と制限事項

ネットワーク プラグアンドプレイ (PnP) の注意事項と制限事項は次のとおりです。

- NX-OS 9.2(3) 以降、PnP は Cisco Nexus 9500 プラットフォーム スイッチの管理ポートでサポートされています。
- PnP は、インバンドインターフェイスと管理インターフェイスの両方で実行されます。インバンドは、FX シリーズ ラインカード (特に PnP の場合は N9K-X9736C-FX) でのみサポートされます。

- PnP の展開方法は、PnP コントローラまたはサーバーを見つけるために必要な検出プロセスによって異なります。
- PnP を起動する前に、DHCP サーバー検出プロセスか、またはドメイン ネーム サーバー (DNS) 検出プロセスのいずれかの検出メカニズムを展開します。
- PnP を展開する前に DHCP サーバーまたは DNS サーバーを構成します。
- PnP サーバーは PnP エージェントと通信する必要があります。
- PnP 接続では、DHCP または DNS 構成は必要ありません。
- PnP の IPv6 サポートは、Cisco Nexus 9500 シリーズ デバイスでは使用できません。

Cisco DNA Center サポート

次の注意事項と制限事項は、Cisco DNA Center への PnP 接続に固有のものであります。

- Cisco DNA Center は、Cisco Nexus 9504、Cisco Nexus 9508、および Cisco Nexus 9516 スイッチで次の機能をサポートします。
 - ディスカバリ
 - インベントリ
 - トポロジ
 - テンプレート プログラマ
 - ソフトウェア イメージの管理
 - 基本的なモニタリング
 - 次の PnP の注意事項と制限事項は、Cisco DNA Center バージョン 1.2.6 以前のみを対象としています。
 - プラグアンドプレイ中に提供されるスタートアップ構成では、Cisco DNA Center に接続されているインターフェイスの接続が損なわれないようにする必要があります。
 - system image.bin とスタートアップ構成を Cisco DNA Center にアップロードする必要があります。
 - ブートフラッシュには、Cisco DNA Center からイメージと設定をダウンロードするための十分なスペースが必要です。
- Cisco DNA Center のユーザ ドキュメントについては、[ここ](#)をクリックしてください。

ネットワーク プラグアンドプレイのトラブルシューティング例

例: PnP のトラブルシューティング

次の例は、PnP トラブルシューティング コマンドの出力を示しています。

```
Switch# show pnp status
PnP Agent is running
server-connection
  status: Success
  time: 08:41:26 Jan 11
interface-info
  status: Success
  time: 08:34:00 Jan 11
device-info
  status: Success
  time: 08:33:46 Jan 11
config-upgrade
  status: Success
  time: 08:31:36 Jan 11
capability
  status: Success
  time: 08:33:50 Jan 11
backoff
  status: Success
  time: 08:41:26 Jan 11
topology
  status: Success
  time: 08:33:54 Jan 11
```

```
Switch# show pnp version
PnP Agent Version Summary

PnP Agent: 1.6.0
Platform Name: nxos
PnP Platform: 1.5.0.rc2
```

```
Switch# show pnp profiles
Created by          UDI
DHCP Discovery     PID:N9K-C9504,VID:V01,SN:FOX1813GCZ8

  Primary transport: https
  Address: 10.105.194.248
  Port: 443
  CA file: /etc/pnp/certs/trustpoint/pnplabel

  Work-Request Tracking:
    Pending-WR: Correlator=
Cisco-PnP-POSIX-nxos-1.6.0-21-589a466a-0d88-427b-a17e-69afb7d0a226-1
    Last-WR:      Correlator=
Cisco-PnP-POSIX-nxos-1.6.0-20-ab225de4-b0ef-46c5-9c4f-e3bd9f7c6b87-1
  PnP Response Tracking:
    Last-PR:      Correlator=
Cisco-PnP-POSIX-nxos-1.6.0-20-ab225de4-b0ef-46c5-9c4f-e3bd9f7c6b87-1
```



```
Switch# show pnp lease
```

```
{
  "lease": {
    "uptime": "Fri Jan 11 05:32:17 2019",
    "intf": "Vlan1",
    "ip_addr": "10.77.143.239",
    "mask": "255.255.255.0",
    "gw": "10.77.143.1",
    "domain": "",
    "opt_43": "5A1D;B2;K4;I10.105.194.248;J80",
    "lease": "3600",
    "server": "10.77.143.231",
    "vrf": "1"
  }
}
```

```
Switch# show pnp internal trace
```

```
1) Event:E_DEBUG, length:49, at 907122 usecs after Fri Jan 11 08:30:44 2019
   [104] pnp_ascii_gen: ascii gen completed rcode[0]
2) Event:E_DEBUG, length:16, at 907094 usecs after Fri Jan 11 08:30:44 2019
   [104] pss type: 5
3) Event:E_DEBUG, length:31, at 907069 usecs after Fri Jan 11 08:30:44 2019
   [104] Entering pnp_ascii_gen_cfg
4) Event:E_DEBUG, length:22, at 907061 usecs after Fri Jan 11 08:30:44 2019
   [104] Calling Ascii gen
5) Event:E_DEBUG, length:16, at 907051 usecs after Fri Jan 11 08:30:44 2019
   [104] pss type: 2
6) Event:E_DEBUG, length:49, at 907018 usecs after Fri Jan 11 08:30:44 2019
   [104] pnp_ascii_gen: fu_num_acfg_pss_entries[0x2]
7) Event:E_DEBUG, length:49, at 973813 usecs after Fri Jan 11 08:29:51 2019
   [104] pnp_ascii_gen: ascii gen completed rcode[0]
8) Event:E_DEBUG, length:16, at 973787 usecs after Fri Jan 11 08:29:51 2019
   [104] pss type: 5
9) Event:E_DEBUG, length:31, at 973760 usecs after Fri Jan 11 08:29:51 2019
   [104] Entering pnp_ascii_gen_cfg
10) Event:E_DEBUG, length:22, at 973751 usecs after Fri Jan 11 08:29:51 2019
   [104] Calling Ascii gen
11) Event:E_DEBUG, length:16, at 973742 usecs after Fri Jan 11 08:29:51 2019
   [104] pss type: 2
12) Event:E_DEBUG, length:49, at 973707 usecs after Fri Jan 11 08:29:51 2019
   [104] pnp_ascii_gen: fu_num_acfg_pss_entries[0x2]
13) Event:E_DEBUG, length:35, at 535794 usecs after Fri Jan 11 08:04:15 2019
   [104] pnp_pi_spawn_finalize pid 690
14) Event:E_DEBUG, length:41, at 228291 usecs after Fri Jan 11 08:04:13 2019
   [104] + pnp_pi_spawn child_pid: 0xdd526da0
15) Event:E_DEBUG, length:76, at 132853 usecs after Fri Jan 11 08:03:26 2019
   [104] Rx: Direction: PnP PI -> PnP PD, Type: Device Provisioned, Cfg: Present
16) Event:E_DEBUG, length:35, at 440380 usecs after Fri Jan 11 08:03:18 2019
```

```
[104] !!! ACKED Unconfigure Ret:1!!!  
17) Event:E_DEBUG, length:61, at 440347 usecs after Fri Jan 11 08:03:18 2019  
[104] Tx: Direction: Max, Type: DHCP Unconfigure Done, Len: 16  
18) Event:E_DEBUG, length:35, at 440331 usecs after Fri Jan 11 08:03:18 2019  
[102] Unknown timer cancel requested  
19) Event:E_DEBUG, length:35, at 440311 usecs after Fri Jan 11 08:03:18 2019  
[104] pnp_pss_runtime_commit success  
20) Event:E_DEBUG, length:57, at 440103 usecs after Fri Jan 11 08:03:18 2019  
[104] pnp_pss_runtime_commit: Stored values in runtime PSS  
21) Event:E_DEBUG, length:23, at 440051 usecs after Fri Jan 11 08:03:18 2019  
[104] - pnp_vsh_halt:206  
22) Event:E_DEBUG, length:17, at 950291 usecs after Fri Jan 11 08:03:15 2019  
[104] Adding "end"  
23) Event:E_DEBUG, length:58, at 950269 usecs after Fri Jan 11 08:03:15 2019  
[104] Adding "configure terminal ; no clock protocol none "  
24) Event:E_DEBUG, length:33, at 945994 usecs after Fri Jan 11 08:03:15 2019  
[104] - pnp_vsh_config_l3_intf:788  
25) Event:E_DEBUG, length:29, at 945979 usecs after Fri Jan 11 08:03:15 2019  
[104] + pnp_vsh_config_l3_intf  
26) Event:E_DEBUG, length:39, at 945963 usecs after Fri Jan 11 08:03:15 2019  
[104] Adding "no feature interface-vlan"  
27) Event:E_DEBUG, length:32, at 945932 usecs after Fri Jan 11 08:03:15 2019  
[104] Adding "configure terminal"  
28) Event:E_DEBUG, length:40, at 945886 usecs after Fri Jan 11 08:03:15 2019  
[104] Got Semaphore, vsh halt continue...  
29) Event:E_DEBUG, length:46, at 945870 usecs after Fri Jan 11 08:03:15 2019  
[104] sem_timedwait Success, Start VSH clean up  
30) Event:E_DEBUG, length:19, at 945843 usecs after Fri Jan 11 08:03:15 2019  
[104] + pnp_vsh_halt  
31) Event:E_DEBUG, length:35, at 945831 usecs after Fri Jan 11 08:03:15 2019  
[104] pnp_pss_runtime_commit success  
32) Event:E_DEBUG, length:57, at 945643 usecs after Fri Jan 11 08:03:15 2019  
[104] pnp_pss_runtime_commit: Stored values in runtime PSS  
33) Event:E_DEBUG, length:33, at 945607 usecs after Fri Jan 11 08:03:15 2019  
[104] !!! Received Unconfigure !!!  
34) Event:E_DEBUG, length:74, at 945578 usecs after Fri Jan 11 08:03:15 2019  
[104] Rx: Direction: PnP PI -> PnP PD, Type: DHCP Unconfigure, Cfg: Present  
35) Event:E_DEBUG, length:49, at 789616 usecs after Fri Jan 11 08:01:52 2019  
[104] pnp_ascii_gen: ascii gen completed rcode[0]  
36) Event:E_DEBUG, length:16, at 789579 usecs after Fri Jan 11 08:01:52 2019  
[104] pss type: 5  
37) Event:E_DEBUG, length:31, at 789522 usecs after Fri Jan 11 08:01:52 2019  
[104] Entering pnp_ascii_gen_cfg
```

```
38) Event:E_DEBUG, length:22, at 789514 usecs after Fri Jan 11 08:01:52 2019
[104] Calling Ascii gen

39) Event:E_DEBUG, length:16, at 789506 usecs after Fri Jan 11 08:01:52 2019
[104] pss type: 2

40) Event:E_DEBUG, length:49, at 789489 usecs after Fri Jan 11 08:01:52 2019
[104] pnp_ascii_gen: fu_num_acfg_pss_entries[0x2]

41) Event:E_DEBUG, length:35, at 789365 usecs after Fri Jan 11 08:01:52 2019
[104] pnp_pss_runtime_commit success

42) Event:E_DEBUG, length:57, at 789135 usecs after Fri Jan 11 08:01:52 2019
[104] pnp_pss_runtime_commit: Stored values in runtime PSS

43) Event:E_DEBUG, length:26, at 789096 usecs after Fri Jan 11 08:01:52 2019
[104] Phase Init -> Monitor

44) Event:E_DEBUG, length:35, at 788967 usecs after Fri Jan 11 08:01:52 2019
[104] pnp_pi_spawn_finalize pid 1c9

45) Event:E_DEBUG, length:41, at 831561 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] + pnp_pi_spawn child_pid: 0xffff7e28

46) Event:E_DEBUG, length:45, at 831550 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] Have startup config, Starting PnP PI....

47) Event:E_DEBUG, length:40, at 831538 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] Posix log directory creation failed

48) Event:E_DEBUG, length:50, at 831479 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] pnp_fire_event: PNP_EVENT_HAVE_STARTUP_CONFIG

49) Event:E_DEBUG, length:35, at 831465 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] Inside : pnp_other_msg_handler

50) Event:E_DEBUG, length:80, at 831437 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] pnp_get_data_from_queue: dequeued event 0x1102e0cc 25/cat 11 from pending Q

51) Event:E_DEBUG, length:50, at 831368 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] Injecting Event PNP_EVENT_HAVE_STARTUP_CONFIG

52) Event:E_DEBUG, length:59, at 831303 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] Have Startup Config, move the process state to monitor

53) Event:E_DEBUG, length:57, at 799379 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] Accelerating PnP, Break Point: Break Point PoAP Init

54) Event:E_DEBUG, length:35, at 799334 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] pnp_pss_runtime_commit success

55) Event:E_DEBUG, length:57, at 799239 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] pnp_pss_runtime_commit: Stored values in runtime PSS

56) Event:E_DEBUG, length:23, at 799226 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] Phase None -> Init

57) Event:E_DEBUG, length:53, at 799200 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] Initalizing PnP-agent State machine curr_state 3

58) Event:E_DEBUG, length:35, at 799188 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] pnp_pss_runtime_commit success
```

```
59) Event:E_DEBUG, length:57, at 799070 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] pnp_pss_runtime_commit: Stored values in runtime PSS

60) Event:E_DEBUG, length:26, at 798965 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] !!! Box is Online !!!

61) Event:E_DEBUG, length:35, at 798954 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] pnp_pss_runtime_commit success

62) Event:E_DEBUG, length:57, at 798770 usecs after Fri Jan 11 08:01:49 2019
[104] pnp_pss_runtime_commit: Stored values in runtime PSS

63) Event:E_DEBUG, length:70, at 370297 usecs after Fri Jan 11 07:55:41 2019
[102] pnp_demux_mts(463): (Warning) unexpected mts msg (opcode - 7655)

64) Event:E_DEBUG, length:41, at 092701 usecs after Fri Jan 11 07:55:33 2019
[104] PnP Init Internal subsystem, Done!!!

65) Event:E_DEBUG, length:32, at 089920 usecs after Fri Jan 11 07:55:33 2019
[104] PnP Init Internal subsystem
```

```
Switch# show pnp posix_pi configs

/isan/etc/pnp/platform_config.cfg:

/isan/etc/pnp/file_paths.cfg:

/isan/etc/pnp/pnp_config.cfg:

/isan/etc/pnp/policy_discovery.conf:

/isan/etc/pnp/certs/platform.json:

/isan/etc/pnp/certs/pnp_status.json:

/isan/etc/pnp/certs/job_status.json:
```



CHAPTER 6

コマンドラインインターフェースの概要

この章は、次の内容で構成されています。

- CLI プロンプトの概要, on page 75
- コマンドモード, on page 76
- 特殊文字, on page 81
- キーストローク ショートカット, on page 81
- コマンドの短縮形, on page 84
- 部分的なコマンド名の補完, on page 84
- コマンド階層での場所の特定, on page 85
- コマンドの no 形式の使用方法, on page 85
- CLI 変数の設定, on page 86
- コマンドエイリアス, on page 88
- コマンドスクリプト, on page 91
- 状況依存ヘルプ, on page 93
- 正規表現について, on page 94
- show コマンド出力の検索とフィルタリング, on page 96
- --More-- プロンプトからの検索およびフィルタリング, on page 101
- コマンド履歴の使用法 (102 ページ)
- CLI 確認プロンプトのイネーブルまたはディセーブル (104 ページ)
- CLI 画面の色の設定 (105 ページ)
- モジュールへのコマンドの送信 (105 ページ)
- 電子メールによるコマンド出力の送信 (106 ページ)
- BIOS ロードプロンプト, on page 108
- CLI の使用例, on page 108

CLI プロンプトの概要

デバイスに正常にアクセスすると、コンソールポートのターミナルウィンドウまたはリモートワークステーションに、次の例のような CLI プロンプトが表示されます。

```

User Access Verification
login: admin
Password:<password>
Cisco Nexus Operating System (NX-OS) Software
TAC support: http://www.cisco.com/tac
Copyright (c) 2002-2013, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
The copyrights to certain works contained in this software are
owned by other third parties and used and distributed under
license. Certain components of this software are licensed under
the GNU General Public License (GPL) version 2.0 or the GNU
Lesser General Public License (LGPL) Version 2.1. A copy of each
such license is available at
http://www.opensource.org/licenses/gpl-2.0.php and
http://www.opensource.org/licenses/lgpl-2.1.php
switch#

```

デフォルトのデバイス ホスト名を変更できます。

CLI プロンプトから、次の方法を実行できます。

- 機能を設定するための CLI コマンドを使用する
- コマンド履歴にアクセスする
- コマンド解析機能を使用する



Note 通常の動作では、ユーザ名の大文字と小文字が区別されます。ただし、コンソール ポートを通じてデバイスに接続する場合、ユーザ名がどのように定義されているかに関係なく、すべて大文字でログインユーザ名を入力できます。正しいパスワードを入力すれば、デバイスにログインできます。

コマンドモード

ここでは、Cisco NX-OS CLI でのコマンドモードについて説明します。

EXEC コマンドモード

始めてログインするときに、Cisco NX-OS ソフトウェアは EXEC モードになります。EXEC モードで使用可能なコマンドには、デバイスの状態および構成情報を表示する **show** コマンド、**clear** コマンド、ユーザーがデバイス コンフィギュレーションに保存しない処理を実行するその他のコマンドがあります。

グローバル構成コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モードでは、広範なコマンドにアクセスできます。この用語は、デバイスに全体的な影響を与える特性または特徴を示しています。グローバル構成

モードでコマンドを入力すると、デバイスをグローバルに構成したり、より具体的な構成モードを開始してインターフェイスやプロトコルなどの特定の要素を構成したりできます。

SUMMARY STEPS

1. configure terminal

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。 Note CLI プロンプトが変わり、グローバル コンフィギュレーション モードに入ったことが示されます。

インターフェイス コンフィギュレーション コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モードは、グローバル コンフィギュレーション モードから開始する、特定のコンフィギュレーションモードの1例です。デバイスのインターフェイスを設定するには、インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始する必要があります。

インターフェイスごとに多くの機能をイネーブルにする必要があります。インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用すると、イーサネットインターフェイスや管理インターフェイス (mgmt 0) などの、デバイス上のインターフェイスの動作が変更されます。

インターフェイスの構成の詳細については、Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS インターフェイス構成ガイドを参照してください。

SUMMARY STEPS

1. configure terminal
2. interface *type number*

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	interface <i>type number</i> Example:	設定するインターフェイスを指定します。

	Command or Action	Purpose
	<pre>switch(config)# interface ethernet 2/2 switch(config-if)#</pre>	<p>CLI により、指定したインターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードになります。</p> <p>Note CLIプロンプトが変わり、インターフェイス コンフィギュレーション モードに入ったことが示されます。</p>

サブインターフェイス コンフィギュレーション コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モードから、サブインターフェイスと呼ばれる VLAN インターフェイスを設定するためのコンフィギュレーションサブモードにアクセスできます。サブインターフェイス コンフィギュレーションモードでは、1つの物理インターフェイスに複数の仮想インターフェイスを設定できます。サブインターフェイスは、別個の物理インターフェイスとしてプロトコルに認識されます。

また、サブインターフェイスは、プロトコルによる単一インターフェイスでの複数のカプセル化を可能にします。たとえば、IEEE 802.1Q カプセル化を設定して、サブインターフェイスを VLAN に関連付けることができます。

サブインターフェイスの構成の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide』を参照してください。

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **interface type number.subint**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
<p>ステップ 1</p>	<p>configure terminal</p> <p>Example:</p> <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
<p>ステップ 2</p>	<p>interface type number.subint</p> <p>Example:</p> <pre>switch(config)# interface ethernet 2/2.1 switch(config-subif)#</pre>	<p>設定する VLAN インターフェイスを指定します。</p> <p>CLI は、指定した VLAN インターフェイスに対するサブインターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。</p> <p>Note CLIプロンプトが変わり、インターフェイス構成モードに入ったことが示されます。</p>

コマンドモードの保存と復元

Cisco NX-OS ソフトウェアでは、現在のコマンドモードを保存しておき、機能を設定した後に、前のコマンドモードを復元することができます。この項で説明している **push** コマンドはコマンドモードを保存し、**pop** コマンドは、コマンドモードを復元します。

次に、コマンドモードを保存し、復元する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# event manager applet test
switch(config-applet)# push
switch(config-applet)# configure terminal
switch(config)# username testuser password newtest
switch(config)# pop
switch(config-applet)#
```

コンフィギュレーションコマンドモードの終了

手順の概要

1. **exit**
2. **end**
3. (任意) **Ctrl+Z**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	exit 例： switch(config-if)# exit switch(config)#	現在のコンフィギュレーション コマンドモードを終了して、以前のコンフィギュレーションコマンドモードに戻ります。
ステップ 2	end 例： switch(config-if)# end switch#	現在のコンフィギュレーション コマンドモードを終了して、EXEC モードに戻ります。
ステップ 3	(任意) Ctrl+Z 例： switch(config-if)# ^Z switch#	現在のコンフィギュレーション コマンドモードを終了して、EXEC モードに戻ります。 注意 有効なコマンドを入力してから、コマンドラインの最後で Ctrl+Z を使用すると、CLI によってそのコマンドが実行構成ファイルに追加されます。ほとんどの場合、 exit または end コマンドを使用して構成モードを終了する必要があります。

コマンドモードの概要

この表は、主なコマンドモードの概要を示しています。

Table 4: コマンドモードの概要

モード	アクセス方法	プロンプト	終了方法
EXEC	ログインプロンプトから、ユーザ名とパスワードを入力します。	switch#	終了してログインプロンプトに戻るには、 exit コマンドを使用します。
グローバル コンフィギュレーション	EXEC モードで、 configure terminal コマンドを使用します。	switch(config)#	終了して EXEC モードに戻るには、 end または exit コマンドを使用するか、 Ctrl-Z を押します。
インターフェイス コンフィギュレーション	グローバル 構成モードで、 interface コマンドを使用してインターフェイスを指定します。	switch(config-if)#	終了してグローバル構成モードに戻るには、 exit コマンドを使用します。 終了して EXEC モードに戻るには、 exit コマンドを使用するか、 Ctrl+Z を押します。
サブインターフェイス コンフィギュレーション	グローバル 構成モードで、 interface コマンドを使用してインターフェイスを指定します。	switch(config-subif)#	終了してグローバル構成モードに戻るには、 exit コマンドを使用します。 終了して EXEC モードに戻るには、 end コマンドを使用するか、 Ctrl-Z を押します。
VRF コンフィギュレーション	グローバル構成モードで、 vrf コマンドを使用して、ルーティングプロトコルを指定します。	switch(config-vrf)#	終了してグローバル構成モードに戻るには、 exit コマンドを使用します。 終了して EXEC モードに戻るには、 end コマンドを使用するか、 Ctrl-Z を押します。
デフォルト以外の VRF に対する EXEC	EXEC モードで、 routing-context vrf コマンドを使用して、VRF を指定します。	switch-red#	終了してデフォルトの VRF に戻るには、 routing-context vrf default コマンドを使用します。

特殊文字

次の表に、Cisco NX-OS のテキスト文字列で特別な意味を持つ文字を示します。正規表現あるいはその他の特有なコンテキストでのみ使用します。

Table 5: 特殊文字

文字	説明
%	パーセント
#	ポンド、ハッシュ、または番号
...	省略符号
	縦線
<>	より小さい、またはより大きい
[]	角カッコ
{}	波カッコ

キーストローク ショートカット

次の表に、EXEC モードおよびコンフィギュレーション モードの両方で使用されるコマンドキーの組み合わせを示します。

Table 6: キーストローク ショートカット

キーストローク	説明
Ctrl+A	カーソルを行の先頭に移動します。
Ctrl+B	カーソルを 1 文字左に移動します。複数行にわたってコマンドを入力するときは、 Left Arrow または Ctrl-B キーを繰り返し押し続けてシステムプロンプトまでスクロールバックして、コマンドエントリの先頭まで移動できます。あるいは Ctrl-A キーを押してコマンドエントリの先頭に移動します。
Ctrl+C	コマンドを取り消して、コマンドプロンプトに戻ります。
Ctrl+D	カーソル位置にある文字を削除します。
Ctrl+E	カーソルを行の末尾に移動します。

キーストローク	説明
Ctrl+F	カーソルを 1 文字右に移動します。
Ctrl+G	コマンド スtring を削除せずに、コマンド モードを終了して以前のコマンドモードに戻ります。
Ctrl+K	カーソル位置からコマンドラインの末尾までのすべての文字を削除します。
Ctrl+L	現在のコマンドラインを再表示します。
Ctrl+N	コマンド履歴の次のコマンドを表示します。
Ctrl+O	端末画面をクリアします。
Ctrl+P	コマンド履歴の前のコマンドを表示します。
Ctrl+R	現在のコマンドラインを再表示します。
Ctrl+T	カーソルの下の文字を、カーソルの右にある文字と置き換えます。その後カーソルは 1 文字右に移動します。
Ctrl+U	カーソル位置からコマンドラインの先頭までのすべての文字を削除します。
Ctrl+V	次のキーストロークに関する特別な意味を削除します。たとえば、正規表現で疑問符 (?) を入力する前に、 Ctrl-V を押します。
Ctrl+W	カーソルの左にある単語を削除します。
Ctrl+X、H	入力したコマンドの履歴を表示します。 このキーの組み合わせを使用するときは、 Ctrl キーと X キーを同時に押しリリースしてから、 H を押します。
Ctrl+Y	バッファ内の最新のエントリを呼び出します (キーを同時に押します)。
Ctrl+Z	コンフィギュレーションセッションを終了して、EXEC モードに戻ります。 有効なコマンドを入力してから、コマンドラインの最後で Ctrl+Z を使用すると、コマンドの結果の設定がまず実行コンフィギュレーションファイルに追加されます。
上矢印キー	コマンド履歴の前のコマンドを表示します。
下矢印キー	コマンド履歴の次のコマンドを表示します。
右矢印キー 左矢印キー	コマンド String 上でカーソルを前後に移動して、現在のコマンドを編集します。
?	使用可能なコマンドのリストを表示します。

キーストローク	説明
タブ	<p>ワードの最初の文字を入力して Tab キーを押すと、ワードが補完されます。文字に一致するすべてのオプションが表示されます。</p> <p>タブを使用して、次の項目を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コマンド名 • ファイル システム内のスキーム名 • ファイル システム内のサーバ名 • ファイル システム内のファイル名 <p>例 :</p> <pre>switch(config)# xm<Tab> switch(config)# xml<Tab> switch(config)# xml server</pre> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# c<Tab> callhome class-map clock cdp cli control-plane switch(config)# cl<Tab> class-map cli clock switch(config)# cla<Tab> switch(config)# class-map</pre> <p>例 :</p> <pre>switch# cd bootflash:<Tab> bootflash:/// bootflash://sup-1/ bootflash://sup-active/ bootflash://sup-local/ bootflash://module-27/ bootflash://module-28/</pre> <p>例 :</p> <pre>switch# cd bootflash://mo<Tab> bootflash://module-27/ bootflash://module-28/ switch# cd bootflash://module-2</pre> <p>Note cd コマンドを使用してリモート マシンにアクセスすることはできません。スロット 27 で、cd bootflash://module-28 コマンドを入力すると、「Changing directory to a non-local server is not allowed」というメッセージが表示されます。</p>

コマンドの短縮形

コマンドの最初の数文字を入力することで、コマンドおよびキーワードを省略できます。省略形には、コマンドまたはキーワードを一意に識別でき得る文字数を含める必要があります。コマンドの入力で問題が生じた場合は、システムプロンプトを確認し、疑問符(?)を入力して使用できるコマンドのリストを表示してください。コマンドモードが間違っているか、間違っただけの構文を使用している可能性があります。

次の表に、コマンド省略形の例を示します。

Table 7: コマンド省略形の例

コマンド	省略形
configure terminal	conf t
copy running-config startup-config	copy run start
interface ethernet 1/2	int e 1/2
show running-config	sh run

部分的なコマンド名の補完

完全なコマンド名を思い出せない場合や、入力の作業量を減らしたい場合は、コマンドの先頭の数文字を入力して、**Tab** キーを押します。コマンドラインパーサーは、入力されたストリングがコマンドモードで一意である場合に、コマンドを補完します。キーボードに **Tab** キーがない場合は、代わりに **Ctrl-I** キーを押します。

コマンドは、コマンドが一意になるのに十分な文字が入力されていれば、CLIによって認識されます。たとえば、EXEC モードで **conf** と入力すると、CLI は入力を **configure** と関連付けます。conf で始まるのは **configure** コマンドだけだからです。

次の例では、**Tab** キーを押したときに、CLI によって EXEC モードで **conf** の一意の文字列が認識されます。

```
switch# conf<Tab>
switch# configure
```

コマンド補完機能を使用すると、CLI により完全なコマンド名が表示されます。コマンドは、**Return** キーまたは **Enter** キーを押すまで、CLI によって実行されません。これにより、意図した完全なコマンドが省略形から表示されなかった場合に、コマンドを修正できます。入力した一連の文字に対して、対応するコマンドが複数ある場合は、一致するコマンドのリストが表示されます。

たとえば、**co<Tab>** と入力すると、EXEC モードで利用可能な、「**co**」で始まるすべてのコマンドがリストされます。

```
switch# co<Tab>
configure copy
switch# co
```

コマンドエントリを補完できるよう、入力した文字は再びプロンプトに表示されることに注意してください。

コマンド階層での場所の特定

一部の機能では、コンフィギュレーション サブモード階層が1つのレベル以上ネストされます。この場合は、Present Working Context (PWC) に関する情報を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. where detail

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	where detail Example: <pre>switch# configure terminal switch(config)# interface mgmt0 switch(config-if)# where detail mode: conf interface mgmt0 username: admin routing-context vrf: default</pre>	PWC を表示します。

コマンドの no 形式の使用方法

大部分の構成コマンドには **no** 形式があり、これを使用して、機能を無効化したり、デフォルト値に戻したり、設定を削除したりできます。

次に、機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature tacacs+
switch(config)# no feature tacacs+
```

次に、機能をデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# banner motd #Welcome to the switch#
switch(config)# show banner motd
Welcome to the switch

switch(config)# no banner motd
```

```
switch(config)# show banner motd
User Access Verification
```

次に、機能の設定を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# radius-server host 10.10.2.2
switch(config)# show radius-server
retransmission count:0
timeout value:1
deadtime value:1
total number of servers:1

following RADIUS servers are configured:
 10.10.1.1:
    available for authentication on port:1812
    available for accounting on port:1813
 10.10.2.2:
    available for authentication on port:1812
    available for accounting on port:1813

switch(config)# no radius-server host 10.10.2.2
switch(config)# show radius-server
retransmission count:0
timeout value:1
deadtime value:1
total number of servers:1

following RADIUS servers are configured:
 10.10.1.1:
    available for authentication on port:1812
    available for accounting on port:1813
```

次に、EXEC モードでコマンドの **no** 形式を使用する例を示します。

```
switch# cli var name testinterface ethernet1/2
switch# show cli variables
SWITCHNAME="switch"
TIMESTAMP="2013-05-12-13.43.13"
testinterface="ethernet1/2"

switch# cli no var name testinterface
switch# show cli variables
SWITCHNAME="switch"
TIMESTAMP="2013-05-12-13.43.13"
```

CLI 変数の設定

ここでは、Cisco NX-OS CLI での CLI 変数について説明します。

CLI 変数について

Cisco NX-OS ソフトウェアは、CLI コマンドでの変数の定義および使用をサポートします。

CLI 変数は、次の方法で参照できます。

- コマンドラインで直接入力する。
- **run-script** コマンドを使用して開始されたスクリプトに渡す。親シェルで定義した変数は子 **run-script** コマンドプロセスで使用できます。

CLI 変数には、次の特性があります。

- 入れ子状態の参照を使用して、別の変数から変数を参照することはできません。
- スイッチのリロード時に維持することも、現在のセッションのみに使用することもできます。

Cisco NX-OS は、TIMESTAMP という事前定義の変数をサポートします。この変数は、コマンドを実行するときの YYYY-MM-DD-HH.MM.SS フォーマットの現在時刻を参照します。



Note TIMESTAMP 変数名は大文字と小文字を区別します。文字はすべて大文字です。

CLI セッション限定の変数の設定

CLIセッションの間だけ有効な CLIセッション変数を定義できます。これらの変数は定期的に行うスクリプトに役立ちます。丸括弧で名前を囲み、変数の前にドル記号 (\$) を付けることによって、変数を参照できます。たとえば、\$(variable-name) です。

SUMMARY STEPS

1. **cli var name** *variable-name* *variable-text*
2. (Optional) **show cli variables**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	cli var name <i>variable-name</i> <i>variable-text</i> Example: switch# cli var name testinterface ethernet 2/1	CLI セッション変数を設定します。 <i>variable-name</i> 引数は、31 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 <i>variable-text</i> 引数は、200 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。スペースを含めることができます。 Note Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I4(1) 以降、変数にはハイフン (-) とアンダースコア (_) を含めることができます。
ステップ 2	(Optional) show cli variables Example: switch# show cli variables	CLI 変数の設定を表示します。

固定 CLI 変数の設定

CLI セッションの終了後やデバイスのリロード後に保持される CLI 変数を設定できます。

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **cli var name** *variable-name variable-text*
3. **exit**
4. (Optional) **show cli variables**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	cli var name <i>variable-name variable-text</i> Example: <pre>switch(config)# cli var name testinterface ethernet 2/1</pre>	CLI 固定変数を設定します。変数名は、英数字ストリングで指定します。大文字と小文字が区別されます。変数名の先頭を英字にする必要があります。31 文字以内で指定します。 Note Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I4(1) 以降、変数にはハイフン (-) とアンダースコア () を含めることができます。
ステップ 3	exit Example: <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show cli variables Example: <pre>switch# show cli variables</pre>	CLI 変数の設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

コマンド エイリアス

ここでは、コマンドエイリアスについて説明します。

コマンドエイリアスについて

コマンドエイリアスを定義して、使用頻度の高いコマンドを置き換えることができます。コマンドエイリアスは、コマンド構文の全体または一部を表すことができます。

コマンドエイリアスには、次の特性があります。

- コマンドエイリアスはすべてのユーザセッションに対してグローバルです。
- コマンドエイリアスは、スタートアップコンフィギュレーションに保存しておけば、再起動後も維持されます。
- コマンドエイリアス変換は常にすべてのコンフィギュレーションモードまたはサブモードのすべてのキーワードの中で最優先されます。
- コマンドエイリアスの設定は他のユーザセッションに対してただちに有効になります。
- Cisco NX-OS ソフトウェアには、デフォルトのエイリアス **alias** が用意されています。このエイリアスは、**show cli alias** コマンドと同等であり、ユーザー定義のエイリアスをすべて表示します。
- デフォルトのコマンドエイリアス **alias** は、削除することも変更することもできません。
- エイリアスは最大深度 1 までネストできます。1 つのコマンドエイリアスは、有効なコマンドを参照する必要がある別のコマンドエイリアスを参照できますが、その他のコマンドエイリアスは参照できません。
- コマンドエイリアスは必ず、コマンドラインの最初のコマンドキーワードを置き換えます。
- 任意のコマンドモードでコマンドのコマンドエイリアスを定義できます。
- コマンドエイリアス内で CLI 変数を参照すると、変数参照ではなくその変数の現在の値がエイリアス内で使用されます。
- コマンドエイリアスは **show** コマンドの検索およびフィルタリングに使用できます。

コマンドエイリアスの定義

よく使用するコマンドにはコマンドエイリアスを定義できます。

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **cli alias name** *alias-name alias-text*
3. **exit**
4. (Optional) **alias**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	cli alias name alias-name alias-text Example: switch(config)# cli alias name ethint interface ethernet	コマンドエイリアスを設定します。エイリアス名は英数字で表します。大文字と小文字は区別されません。先頭は英字にする必要があります。30 文字以内で指定します。
ステップ 3	exit Example: switch(config)# exit switch#	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) alias Example: switch# alias	コマンドエイリアス設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

ユーザセッション用のコマンドエイリアスの設定

Cisco NX-OS デバイス上の他のすべてのユーザーが使用できない、現在のユーザーセッション用のコマンドエイリアスを作成できます。また、コマンドエイリアスを保存し、現在のユーザアカウントであとで使用することもできます。

手順の概要

1. terminal alias [persist] alias-name command-string

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	terminal alias [persist] alias-name command-string 例: switch# terminal alias shintbr show interface brief	現在のユーザセッション用のコマンドエイリアスを設定します。ユーザーアカウントであとで使用するようエイリアスを保存するには、 persist キーワードを使用します。 (注) persist キーワードは短縮しないでください。

コマンドスクリプト

ここでは、複数のタスクを実行するためにコマンドのスクリプトを作成する方法について説明します。

コマンドスクリプトの実行

ファイルでコマンドのリストを作成し、CLIからこれらのコマンドを実行できます。コマンドスクリプトではCLI変数を使用できます。



Note CLIプロンプトではスクリプトファイルを作成できません。スクリプトファイルをリモートデバイスで作成して、Cisco NX-OS デバイスの `bootflash:` または `volatile:` ディレクトリにコピーすることができます。

SUMMARY STEPS

1. `run-script [bootflash: | volatile:] filename`

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	run-script [bootflash: volatile:] filename Example: switch# run-script testfile	デフォルトディレクトリのファイル内のコマンドを実行します。

端末への情報のエコー

端末に情報をエコーできます。これは、コマンドスクリプトで特に役立ちます。CLI変数を参照し、エコーされるテキストでフォーマットオプションを使用できます。

次の表に、テキストに挿入できるフォーマットオプションを示します。

Table 8: echo コマンドのフォーマットオプション

フォーマットオプション	説明
<code>\b</code>	バックスペースを挿入します。
<code>\c</code>	テキストストリングの最後にある改行文字が削除されます。
<code>\f</code>	フォームフィード文字が挿入されます。
<code>\n</code>	改行文字が挿入されます。

フォーマットオプション	説明
\r	テキスト行の最初に戻ります。
\t	水平タブ文字が挿入されます。
\v	垂直タブ文字が挿入されます。
\\	バックスラッシュ文字が表示されます。
\nnn	対応する ASCII 8 進文字が表示されます。

SUMMARY STEPS

1. `echo [backslash-interpret] [text]`

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	echo [backslash-interpret] [text] Example: <pre>switch# echo This is a test. This is a test.</pre>	この項で説明している backslash-interpret キーワードは、テキスト文字列にフォーマットオプションが含まれることを示します。 <i>text</i> 引数は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。空白を含めることができます。200 文字以内で指定します。デフォルトは空白行です。

コマンド処理の遅延

コマンドアクションを一定の時間、遅延できます。これは、コマンドスクリプト内で特に役に立ちます。

SUMMARY STEPS

1. `sleep seconds`

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	sleep seconds Example: <pre>switch# sleep 30</pre>	遅延をある秒数発生させます。値の範囲は 0 ~ 2147483647 です。

状況依存ヘルプ

Cisco NX-OS ソフトウェアは、CLI で状況依存ヘルプを提供します。コマンド内の任意の位置に疑問符 (?) を使用することで、有効な入力オプションを表示できます。

CLI では、入力エラーを特定するためにキャレット (^) 記号が使用されます。^記号は、コマンドストリング内の誤ったコマンド、キーワード、または引数が入力された位置に表示されません。

次の表に、状況依存ヘルプの出力例を示します。

Table 9: 状況依存ヘルプの例

出力例	説明
<pre>switch# clock ? set HH:MM:SS Current Time switch# clock</pre>	<p>EXEC モードでの clock コマンドのコマンド構文を表示します。</p> <p>スイッチの出力は、set clock を使用するにはキーワードが必要ですコマンドを使用します。</p>
<pre>switch# clock set ? WORD HH:MM:SS Current Time switch# clock set</pre>	<p>時刻を設定するためのコマンド構文を表示します。</p> <p>ヘルプ出力は、クロックの設定に現在時刻が必要であること、および時刻のフォーマット方法を示しています。</p>
<pre>switch# clock set 13:32:00<CR> % Incomplete command switch#</pre>	<p>現在時刻を追加します。</p> <p>CLI は、コマンドが不完全であることを示しています。</p>
<pre>switch# <Ctrl-P> switch# clock set 13:32:00</pre>	<p>入力した直前のコマンドを表示します。</p>
<pre>switch# clock set 13:32:00 ? <1-31> Day of the month switch# clock set 13:32:00</pre>	<p>clock set に対する追加の引数を表示しますコマンドを使用します。</p>
<pre>switch# clock set 13:32:00 18 ? April Month of the year August Month of the year December Month of the year February Month of the year January Month of the year July Month of the year June Month of the year March Month of the year May Month of the year November Month of the year October Month of the year September Month of the year switch# clock set 13:32:00 18</pre>	<p>clock set コマンドに対する追加の引数を表示します。</p>

出力例	説明
<pre>switch# clock set 13:32:00 18 April 13<CR> % Invalid input detected at '^' marker.</pre>	<p>クロック設定に日付を追加します。</p> <p>CLIは、13の位置にキャレット記号 (^) を使用してエラーを示しています。</p>
<pre>switch# clock set 13:32:00 18 April ? <2000-2030> Enter the year (no abbreviation) switch# clock set 13:32:00 18 April</pre>	<p>この年に対応する適切な引数を表示します。</p>
<pre>switch# clock set 13:32:00 18 April 2013<CR> switch#</pre>	<p>clock set コマンドの正しい構文を入力します。</p>

正規表現について

Cisco NX-OS ソフトウェアは、CLI 出力 (**show** コマンドなど) の検索またはフィルタリングで正規表現をサポートしています。コマンドにも表示されません。正規表現では大文字と小文字が区別され、また複雑な一致要件を設定することができます。

特殊文字

他のキーボード文字 (! や ~ など) を、単一文字パターンとして使用することもできますが、特定のキーボード文字は、正規表現内で使用した場合特別な意味を持ちます。

次の表に、特別な意味を持つキーボード文字を示します。

Table 10: 特別な意味を持つ特殊文字

文字	特別な意味
.	スペースを含む任意の単一文字と一致します。
*	0 個以上のパターンのシーケンスと一致します。
+	1 個以上のパターンのシーケンスと一致します。
?	0 または 1 回のパターンと一致します。
^	ストリングの先頭と一致します。
\$	ストリングの末尾と一致します。

文字	特別な意味
_ (アンダースコア)	カンマ (,)、左波カッコ ({)、右波カッコ (})、左カッコ (())、右カッコ (())、ストリングの先頭、ストリングの末尾、またはスペースと一致します。 Note アンダースコアは、BGP 関連のコマンドの場合にのみ正規表現として扱われます。

これらの特殊文字を単一文字パターンとして使用するときは、各文字の前にバックスラッシュ (\) を置いて特別な意味を除外してください。次の例には、ドル記号 (\$)、アンダースコア (_)、およびプラス記号 (+) にそれぞれ一致する単一文字パターンが含まれています。

`\$ _ \+`

複数文字のパターン

文字、数字、または特別な意味を持たないキーボード文字を連結して、複数文字のパターンを指定することもできます。たとえば、`a4%` は複数文字の正規表現です。

複数文字パターンでは、順序が大切です。`a4%` という正規表現は、`a` という文字のあとに `4` が続き、そのあとにパーセント記号 (%) が続く文字と一致します。ストリングの中に `a4%` という文字がその順序で含まれていないと、パターンマッチングは失敗します。複数文字正規表現 `a.` (文字 `a` の後にピリオド) は、ピリオド文字の特別な意味を使用して、文字 `a` の後に任意の単一文字が続くストリングと一致します。この例では、`ab`、`a!`、または `a2` というストリングはすべてこの正規表現と一致します。

特殊文字の特別な意味は、特殊文字の前にバックスラッシュを挿入することで無効にできます。たとえば、表現 `a\.` がコマンド構文で使用されている場合、文字列 `a.` だけが一致します。

位置指定

特殊文字を使用してストリング内での正規表現の位置を指定することで、正規表現パターンをストリングの先頭または末尾と一致させることができます。

次の表に、位置指定に使用可能な特殊文字を示します。

Table 11: 位置指定に用いられる特殊文字

文字	説明
<code>^</code>	ストリングの先頭と一致します。
<code>\$</code>	ストリングの末尾と一致します。

たとえば、正規表現 `^con` は `con` で始まるストリングに一致し、`sole$` は `sole` で終わるストリングに一致します。



Note ^記号は、角カッコで囲まれた範囲に論理関数「not」を指定する場合にも使用されます。たとえば、正規表現 [^abcd] は、a、b、c、または d 以外の任意の単一文字に一致する範囲を示します。

show コマンド出力の検索とフィルタリング

多くの場合、**show** コマンドからの出力は、長くて煩雑になります。Cisco NX-OS ソフトウェアでは、情報を簡単に見つけ出すために、出力の検索およびフィルタリングを行うことができます。検索およびフィルタリングのオプションは、**show** コマンドの末尾にパイプ記号 (|) を付け、その後に指定します。これらのオプションは、CLI 状況依存ヘルプ機能を使用して表示できます。

```
switch# show running-config | ?
cut          Print selected parts of lines.
diff         Show difference between current and previous invocation (creates temp files:
             remove them with 'diff-clean' command and don't use it on commands with big
             outputs, like 'show tech'!)
egrep        Egrep - print lines matching a pattern
grep         Grep - print lines matching a pattern
head         Display first lines
human        Output in human format
last         Display last lines
less         Filter for paging
no-more      Turn-off pagination for command output
perl         Use perl script to filter output
section      Show lines that include the pattern as well as the subsequent lines that are
             more indented than matching line
sed          Stream Editor
sort         Stream Sorter
sscp         Stream SCP (secure copy)
tr           Translate, squeeze, and/or delete characters
uniq         Discard all but one of successive identical lines
vsh          The shell that understands cli command
wc           Count words, lines, characters
xml          Output in xml format (according to .xsd definitions)
begin        Begin with the line that matches
count        Count number of lines
end          End with the line that matches
exclude      Exclude lines that match
include      Include lines that match
```

フィルタリングおよび検索のキーワード

Cisco NX-OS CLI には、**show** コマンドと併用してコマンド出力の検索やフィルタリングを実行できる、一連のキーワードが用意されています。

次の表に、CLI 出力のフィルタリングや検索を行うためのキーワードを示します。

Table 12: フィルタリングおよび検索のキーワード

キーワードの構文	説明
begin string 例： <code>show version begin Hardware</code>	検索ストリングと一致するテキストが含まれている行から表示を開始します。検索ストリングは大文字と小文字が区別されます。
count 例： <code>show running-config count</code>	コマンド出力の行数を表示します。
cut [-d character] {-b -c -f -s} 例： <code>show file testoutput cut -b 1-10</code>	一部の出力行のみを表示します。一定のバイト数 (-b)、文字数 (-vcut [-d character] {-b -c -f -s})、またはフィールド数 (-f) を表示できます。また、-d キーワードを使用して、デフォルトのタグ文字以外のフィールドデリミタを定義することもできます。-s キーワードは、デリミタが含まれない行の表示を抑制します。
end string 例： <code>show running-config end interface</code>	検索ストリングの最後の一致になるまですべての行を表示します。
exclude string 例： <code>show interface brief exclude down</code>	検索ストリングが含まれていない行をすべて表示します。検索ストリングは大文字と小文字が区別されます。
head [lines lines] 例： <code>show logging logfile head lines 50</code>	出力の先頭を指定の行数だけ表示します。デフォルトの行数は 10 です。
human 例： <code>show version human</code>	terminal output xml コマンドを使用して出力形式が XML に設定されている場合に、出力を通常形式で表示します。 コマンドを使用します。
include string 例： <code>show interface brief include up</code>	検索ストリングが含まれている行をすべて表示します。検索ストリングは大文字と小文字が区別されます。

キーワードの構文	説明
last [<i>lines</i>] 例 : <pre>show logging logfile last 50</pre>	出力の末尾を指定の行数だけ表示します。デフォルトの行数は 10 です。
no-more 例 : <pre>show interface brief no-more</pre>	途中で停止せずにすべての出力を表示します。画面の一番下に「--More--」プロンプトは表示されなくなります。
sscp <i>SSH-connection-name filename</i> 例 : <pre>show version sscp MyConnection show_version_output</pre>	Streaming Secure Copy (sscp) を使用して出力を名前付き SSH 接続にリダイレクトします。名前付きの SSH 接続は、 ssh name コマンドを使用して作成できます。コマンドを使用します。
wc [<i>bytes lines words</i>] 例 : <pre>show file testoutput wc bytes</pre>	文字数、行数、または単語数を表示します。デフォルトでは、行数、単語数、および文字数を表示します。
xml 例 : <pre>show version xml</pre>	出力を XML 形式で表示します。

diff ユーティリティ

show からの出力を比較できます。コマンドからの出力と、そのコマンドを以前に実行したときの出力を比較します。

diff-clean [**all-sessions**] [**all-users**]

次の表で、diff ユーティリティのキーワードについて説明します。

キーワード	説明
all-sessions	現在のユーザーのすべてのセッション（過去および現在のセッション）から比較の一時ファイルが削除されます。
all-users	すべてのユーザーのすべてのセッション（過去および現在のセッション）から比較の一時ファイルが削除されます。

Cisco NX-OS ソフトウェアは、現在および以前のすべてのユーザー セッションにおける **show** コマンドの最新の出力について、一時ファイルを作成します。これらの一時ファイルを削除するには、**diff-clean** コマンドを使用します。

diff-clean [all-sessions | all-users]

デフォルトでは、**diff-clean** コマンドによって現在のユーザーのアクティブセッションに対する一時ファイルが削除されます。**all-sessions** キーワードを指定すると、現在のユーザーの過去および現在の全セッションに対する一時ファイルが削除されます。**all-users** キーワードを指定すると、すべてのユーザーの過去および現在の全セッションに対する一時ファイルが削除されます。

grep および egrep ユーティリティ

Global Regular Expression Print (**grep**) および Extended **grep** (**egrep**) コマンドライン ユーティリティを使用して、**show** コマンド出力をフィルタリングすることができます。

grep と **egrep** の構文は次のとおりです。

```
{grep | egrep} [count] [ignore-case] [invert-match] [line-exp] [line-number] [next lines] [prev lines] [word-exp] expression}
```

次の表に、**grep** と **egrep** のパラメータを示します。

Table 13: **grep** および **egrep** のパラメータ

パラメータ	説明
count	一致した行の合計数のみを表示します。
ignore-case	一致した行の大文字と小文字の相違を無視するように指定します。
invert-match	表現が一致しない行を表示します。
line-exp	行に完全に一致する行だけを表示します。
line-number	一致した各行の前の行番号を表示するように指定します。
next lines	一致した行の後に表示する行数を指定します。デフォルトは 0 です。有効な範囲は 1 ~ 999 です。
prev lines	一致した行の前に表示する行数を指定します。デフォルトは 0 です。有効な範囲は 1 ~ 999 です。
word-exp	単語が完全に一致する行だけを表示します。
式	出力を検索するための正規表現を指定します。

less ユーティリティ

less ユーティリティを使用して、**show** コマンド出力の内容を 1 画面ずつ表示できます。「:」プロンプトにおいて **less** コマンドを入力できます。すべての **less** 表示するには使用できるコマンドを表示するには、:プロンプトで **h** を入力します。

Mini AWK ユーティリティ

AWK はテキスト出力を要約するための、単純ながら強力なユーティリティです。パイプ (|) の後にこのユーティリティを使用し、コマンドのテキスト出力をさらに処理できます。Cisco NX-OS は、埋め込みプログラムを引数として使用する mini AWK をサポートしています。

次に、mini AWK ユーティリティを使用して **show ip route summary vrf all** コマンドのテキスト出力を要約する例を示します。

```
switch# show ip route summary vrf all | grep "Total number of routes"
Total number of routes: 3
Total number of routes: 10

switch# show ip route summary vrf all | grep "Total number of routes" | awk '{ x = x + $5} END { print x }'
13
```

sed ユーティリティ

ストリームエディタ (sed) ユーティリティを使用して、**show** コマンドの出力をフィルタリングし、操作することができます。

sed command

command 引数には、sed ユーティリティのコマンドを含みます。

sort ユーティリティ

sort ユーティリティを使用して、**show** コマンド出力をフィルタリングできます。コマンドの出力でスラブの使用状況を確認することで問題を特定できます。

sort ユーティリティの構文は次のとおりです。

sort [-M] [-b] [-d] [-f] [-g] [-i] [-k field-number[,char-position]][ordering]] [-n] [-r] [-t delimiter] [-u]

次の表に、sort ユーティリティのパラメータの説明を示します。

表 14: sort ユーティリティのパラメータ

パラメータ	説明
-M	月でソートします。
-b	先頭の空白 (空白文字) を無視します。デフォルトのソートでは、先頭の空白が考慮されます。
-d	空白と英数字のみを比較してソートします。デフォルトのソートでは、すべての文字が考慮されます。
-f	小文字を大文字として処理します。

パラメータ	説明
-g	一般的な数値を比較してソートします。
-i	印刷可能な文字だけを使用してソートします。デフォルトのソートでは、印刷不可能な文字も考慮されます。
-k <i>field-number</i> [<i>.char-position</i>][<i>ordering</i>]	キー値に従ってソートします。デフォルトのキー値はありません。
-n	数値ストリングの値に従ってソートします。
-r	ソート結果の順序を逆にします。デフォルトのソート出力は昇順です。
-t <i>delimiter</i>	指定のデリミタを使用してソートします。デフォルトのデリミタは空白文字です。
-u	ソート結果から重複行を取り除きます。ソート出力では重複行が表示されます。

--More-- プロンプトからの検索およびフィルタリング

show コマンド出力の --More-- プロンプトで出力の検索やフィルタリングを実行できます。コマンドの出力でスラブの使用状況を確認することで問題を特定できます。

次の表に、--More- プロンプト コマンドの説明を示します。

Table 15: --More-- プロンプト コマンド

コマンド	説明
[<i>lines</i>]<space>	指定した行数か現在の画面サイズ分の出力行を表示します。
[<i>lines</i>] z	指定した行数か現在の画面サイズ分の出力行を表示します。 <i>lines</i> 引数を使用すると、その値が新しいデフォルト画面サイズになります。
[<i>lines</i>]<return>	指定した行数か現在のデフォルトの行数で出力行を表示します。初期のデフォルトは 1 行です。オプションの <i>lines</i> 引数を使用すると、その値がこのコマンドで表示する新しいデフォルトの行数になります。
[<i>lines</i>] d または [<i>lines</i>] Ctrl+shift+D	指定した行数か現在のデフォルトの行数で出力行をスクロールします。初期のデフォルトは 11 行です。オプションの <i>lines</i> 引数を使用すると、その値がこのコマンドで表示する新しいデフォルトの行数になります。

コマンド	説明
q または Q または Ctrl-C	--More-- プロンプトを終了します。
[lines]s	指定した行数か現在のデフォルトの行数だけ出力をスキップし、1画面分の出力行を表示します。デフォルトは1行です。
[lines]f	指定した画面数か現在のデフォルトの画面数だけ出力をスキップし、1画面分の出力行を表示します。デフォルトは1画面です。
=	現在の行番号を表示します。
[count]/expression	正規表現に一致する行までスキップし、1画面分の出力行を表示します。正規表現の複数回の繰り返しで行を検索する場合は、オプションの <i>count</i> 引数を使用します。このコマンドにより、他のコマンドで使用可能な現在の正規表現が設定されます。
[count]n	現在の正規表現に次に一致する行までスキップし、1画面分の出力行を表示します。複数の一致をスキップする場合は、オプションの <i>count</i> 引数を使用します。
{! :![shell-cmd]}	<i>shell-cmd</i> 引数に指定したコマンドをサブシェルで実行します。
.	前のコマンドを繰り返します。

コマンド履歴の使用方法

Cisco NX-OS ソフトウェアの CLI では、現在のユーザーセッションのコマンド履歴にアクセスできます。コマンドを呼び出し、そのまま再実行できます。また、実行前に修正することも可能です。コマンド履歴はクリアすることもできます。

コマンドの呼び出し

コマンド履歴内のコマンドを呼び出して、必要に応じて修正し、再入力できます。

次に、コマンドを呼び出して再入力する例を示します。

```
switch(config)# show cli history
0 11:04:07  configure terminal
1 11:04:28  show interface ethernet 2/24
2 11:04:39  interface ethernet 2/24
3 11:05:13  no shutdown
4 11:05:19  exit
5 11:05:25  show cli history
switch(config)# !1
switch(config)# show interface ethernet 2/24
```


Ctrl+P と **Ctrl+N** のキーストローク ショートカットを使用してコマンドを呼び出すこともできます。

CLI 履歴の再呼び出しの制御

CLI 履歴から再呼び出しするコマンドを制御するには、**Ctrl-P** および **Ctrl-N** キーストローク ショートカットを使用します。Cisco NX-OS ソフトウェアは、現在のコマンドモード以上のコマンドモードのすべてのコマンドを再呼び出しします。たとえば、グローバル コンフィギュレーション モードで作業をしている場合は、コマンド呼び出しキーストローク ショートカットを使用すると、EXEC モード コマンドとグローバル コンフィギュレーション モード コマンドの両方が呼び出されます。

CLI 編集モードの設定

Ctrl-P および **Ctrl-N** キーストローク ショートカットを使用して CLI 履歴からコマンドを呼び出し、コマンドを再発行する前に編集することができます。デフォルトの編集モードは、**emacs** です。編集モードを **vi** に変更できます。

手順の概要

1. **[no] terminal edit-mode vi [persist]**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	[no] terminal edit-mode vi [persist] 例： switch# terminal edit-mode vi	ユーザセッションの CLI 編集モードを vi に変更します。 persist キーワードを使用すると、現在のユーザー名の設定がセッション間で保持されます。 emacs の使用に戻すには、 no を使用します。

コマンド履歴の表示

show cli history コマンドを使用して、コマンド履歴を表示できます。

show cli history コマンドの構文は次のとおりです。

show cli history [lines] [config-mode | exec-mode | this-mode-only] [unformatted]

デフォルトで表示される行数は 12 であり、出力にはコマンド番号とタイムスタンプが含まれます。

これは、コマンド履歴のデフォルトの行数を表示する例を示します。

```
switch# show cli history
```

これは、コマンド履歴の 20 行を表示する例を示します。

```
switch# show cli history 20
```

これは、コマンド履歴内の構成コマンドだけを表示する例を示します。

```
switch(config)# show cli history config-mode
```

これは、コマンド履歴内の EXEC コマンドだけを表示する例を示します。

```
switch(config)# show cli history exec-mode
```

これは、現在のコマンドモードに関するコマンド履歴内のコマンドだけを表示する例を示します。

```
switch(config-if)# show cli history this-mode-only
```

これは、コマンド番号とタイムスタンプなしでコマンド履歴内のコマンドだけを表示する例を示します。

```
switch(config)# show cli history unformatted
```

CLI 確認プロンプトのイネーブルまたはディセーブル

多くの機能について、作業を続行する前に確認を求めるプロンプトが、Cisco NX-OS ソフトウェアによって CLI に表示されます。これらのプロンプトをイネーブルにしたり、ディセーブルにしたりできます。デフォルトではイネーブルになっています。

手順の概要

1. [no] terminal dont-ask [persist]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>[no] terminal dont-ask [persist]</p> <p>例 :</p> <pre>switch# terminal dont-ask</pre>	<p>CLI 確認プロンプトをディセーブルにします。この項で説明している persist キーワードを使用すると、現在のユーザー名の設定がセッション間で保持されます。デフォルトではイネーブルになっています。</p> <p>CLI 確認プロンプトをイネーブルにするには、コマンドの no 形式を使用します。</p>

CLI 画面の色の設定

表示する CLI の色は次のように変更できます。

- 直前のコマンドが成功した場合は、プロンプトが緑色で表示されます。
- 直前のコマンドが失敗した場合は、プロンプトが赤色で表示されます。
- ユーザ入力は青色で表示されます。
- コマンド出力はデフォルトの色で表示されます。

デフォルトの色は、端末エミュレータ ソフトウェアにより送信されます。

手順の概要

1. terminal color [evening] [persist]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	terminal color [evening] [persist] 例： <pre>switch# terminal color</pre>	ターミナルセッションに対して CLI 画面の色を設定します。 evening キーワードはサポートされていません。 persist キーワードを使用すると、現在のユーザー一名の設定がセッション間で保持されます。デフォルト設定は保持されません。

モジュールへのコマンドの送信

slot コマンドを使用して、スーパーバイザ モジュールセッションからモジュールにコマンドを直接送信できます。

slot の構文は次のとおりです。

slot slot-number [quoted] command-string

デフォルトでは、*command-string* 引数内のキーワードと引数はスペースで区切られます。モジュールに複数のコマンドを送信するには、スペース文字、セミコロン (;)、スペース文字でコマンドを区切ります。

quoted キーワードは、コマンドストリングの先頭と末尾に二重引用符 (") が使用されることを示します。スーパーバイザ モジュールセッションでだけサポートされている **diff** などのフィルタリングユーティリティにモジュール コマンド出力をリダイレクトする場合は、このキーワードを使用します。

次に、モジュール情報を表示したり、フィルタリングしたりする例を示します。

```
switch# slot 27 show version | grep lc
```

次に、スーパーバイザ モジュール セッションに関するモジュール情報をフィルタリングする例を示します。

```
switch# slot 27 quoted "show version" | diff
switch# slot 28 quoted "show version" | diff -c
*** /volatile/vsh_diff_1_root_8430_slot__quoted_show_version.old      Wed Apr 29
20:10:41 2013
--- -      Wed Apr 29 20:10:41 2013
*****
*** 1,5 ****
! RAM 1036860 kB
! lc27
  Software
    BIOS:      version 6.20
    system:    version 6.1(2)I1(1) [build 6.1(2)]
--- 1,5 ----
! RAM 516692 kB
! lc28
  Software
    BIOS:      version 6.20
    system:    version 6.1(2)I1(1) [build 6.1(2)]
*****
*** 12,16 ****
  Hardware
    bootflash: 0 blocks (block size 512b)

!   uptime is 0 days 1 hours 45 minute(s) 34 second(s)

--- 12,16 ----
  Hardware
    bootflash: 0 blocks (block size 512b)

!   uptime is 0 days 1 hours 45 minute(s) 42 second(s)
```

電子メールによるコマンド出力の送信

CLI を使用して **show** コマンドの出力を電子メール アドレスに送信することができます。これには、パイプ演算子 (`|`) を使用します。



(注) 電子メールの設定は再設定するまで、すべての **show** コマンドで持続されます。

Cisco NX-OS リリース 9.3(3) より前のリリースから Cisco NX-OS リリース 9.3(3) 以降のリリースにアップグレードすると、電子メール構成が失われます。これは、この機能の DME 機能を有効にするためです。これを解決するには、「メールなし」を実行して、メール構成全体を再適用する必要があります。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **email**
3. **smtp-host ip-address smtp-port port**

4. **vrf management**
5. **from** *email-address*
6. **reply-to** *email-address*
7. **exit**
8. **exit**
9. **show email**
10. *show-command* | **email subject** *subject email-address*

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	email 例： switch(config)# email switch(config-email)#	電子メール構成モードを開始します。
ステップ 3	smtp-host ip-address smtp-port port 例： switch(config-email)# smtp-host 198.51.100.1 smtp-port 25	SMTP ホスト IP アドレスおよび SMTP ポート番号を指定します。
ステップ 4	vrf management 例： switch(config-email)# vrf management	電子メール転送用の VRF を指定します。
ステップ 5	from email-address 例： switch(config-email)# from admin@Mycompany.com	送信者の電子メールアドレスを指定します。
ステップ 6	reply-to email-address 例： switch(config-email)# reply-to admin@Mycompany.com	受信者の電子メールアドレスを指定します。
ステップ 7	exit 例： switch(config-email)# exit switch(config)#	電子メール構成モードを終了します。
ステップ 8	exit 例：	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。

	コマンドまたはアクション	目的
	switch(config)# exit switch#	
ステップ 9	show email 例： switch# show email	電子メールの構成を表示します。
ステップ 10	<i>show-command</i> email subject subject email-address 例： switch# show interface brief email subject show-interface admin@Mycompany.com Email sent	パイプ演算子 () を使用し、指定した show コマンドの出力を件名付きで電子メール アドレスに送信します。

BIOS ローダー プロンプト

スーパーバイザ モジュールの起動時に、特殊な BIOS イメージが自動的にロードされ、システム起動用の有効な **nx-os** イメージを見つけようとします。有効な **nx-os** イメージが見つからない場合は、次の BIOS ローダー プロンプトが表示されます。

```
loader>
```

Cisco NX-OS ソフトウェアを loader> プロンプトからロードする方法については、『*Cisco Nexus 9000 Troubleshooting Guide*』を参照してください。

CLI の使用例

ここでは、CLI の使用例を示します。

システム定義のタイムスタンプ変数の使用方法

次の例では、**show** コマンド出力をファイルにリダイレクトするときに **\$(TIMESTAMP)** を使用します。

```
switch# show running-config > rcfg.$(TIMESTAMP)
Preparing to copy....done
switch# dir
      12667      May 01 12:27:59 2013  rcfg.2013-05-01-12.27.59

Usage for bootflash://sup-local
8192 bytes used
20963328 bytes free
20971520 bytes total
```

CLI セッション変数の使用方法

`$(variable-name)` 構文を使用して変数を参照できます。

次に、ユーザ定義の CLI セッション変数を参照する例を示します。

```
switch# show interface $(testinterface)
Ethernet2/1 is down (Administratively down)
  Hardware is 10/100/1000 Ethernet, address is 0000.0000.0000 (bia 0019.076c.4dac)
  MTU 1500 bytes, BW 1000000 Kbit, DLY 10 usec,
    reliability 255/255, txload 1/255, rxload 1/255
  Encapsulation ARPA
  auto-duplex, auto-speed
  Beacon is turned off
  Auto-Negotiation is turned on
  Input flow-control is off, output flow-control is off
  Auto-mdix is turned on
  Switchport monitor is off
  Last clearing of "show interface" counters never
  5 minute input rate 0 bytes/sec, 0 packets/sec
  5 minute output rate 0 bytes/sec, 0 packets/sec
  L3 in Switched:
    ucast: 0 pkts, 0 bytes - mcast: 0 pkts, 0 bytes
  L3 out Switched:
    ucast: 0 pkts, 0 bytes - mcast: 0 pkts, 0 bytes
  Rx
    0 input packets 0 unicast packets 0 multicast packets
    0 broadcast packets 0 jumbo packets 0 storm suppression packets
    0 bytes
  Tx
    0 output packets 0 multicast packets
    0 broadcast packets 0 jumbo packets
    0 bytes
    0 input error 0 short frame 0 watchdog
    0 no buffer 0 runt 0 CRC 0 ecc
    0 overrun 0 underrun 0 ignored 0 bad etype drop
    0 bad proto drop 0 if down drop 0 input with dribble
    0 input discard
    0 output error 0 collision 0 deferred
    0 late collision 0 lost carrier 0 no carrier
    0 babble
    0 Rx pause 0 Tx pause 0 reset
```

コマンドエイリアスの定義

次に、コマンドエイリアスを定義する例を示します。

```
cli alias name ethint interface ethernet
cli alias name shintbr show interface brief
cli alias name shintupbr shintbr | include up | include ethernet
```

次に、コマンドエイリアスを使用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ethint 2/3
switch(config-if)#
```

コマンドスクリプトの実行

次の例では、スクリプト ファイル内で指定されている CLI コマンドを表示します。

```
switch# show file testfile
configure terminal
interface ethernet 2/1
no shutdown
end
show interface ethernet 2/1
```

次の例では、**run-script** コマンドの実行時の出力を表示します。

```
switch# run-script testfile
`configure terminal`
`interface ethernet 2/1`
`no shutdown`
`end`
`show interface ethernet 2/1 `
Ethernet2/1 is down (Link not connected)
  Hardware is 10/100/1000 Ethernet, address is 0019.076c.4dac (bia 0019.076c.4dac)
  MTU 1500 bytes, BW 1000000 Kbit, DLY 10 usec,
    reliability 255/255, txload 1/255, rxload 1/255
  Encapsulation ARPA
  Port mode is trunk
  auto-duplex, auto-speed
  Beacon is turned off
  Auto-Negotiation is turned on
  Input flow-control is off, output flow-control is off
  Auto-mdix is turned on
  Switchport monitor is off
  Last clearing of "show interface" counters 1d26.2uh
  5 minute input rate 0 bytes/sec, 0 packets/sec
  5 minute output rate 0 bytes/sec, 0 packets/sec
  Rx
    0 input packets 0 unicast packets 0 multicast packets
    0 broadcast packets 0 jumbo packets 0 storm suppression packets
    0 bytes
  Tx
    0 output packets 0 multicast packets
    0 broadcast packets 0 jumbo packets
    0 bytes
    0 input error 0 short frame 0 watchdog
    0 no buffer 0 runt 0 CRC 0 ecc
    0 overrun 0 underrun 0 ignored 0 bad etype drop
    0 bad proto drop 0 if down drop 0 input with dribble
    0 input discard
    0 output error 0 collision 0 deferred
    0 late collision 0 lost carrier 0 no carrier
    0 babble
    0 Rx pause 0 Tx pause 0 reset
```

電子メールによるコマンド出力の送信

この例は、**show interface brief** の出力を送信する方法を示しています。パイプ演算子 (|) を使用した電子メールアドレスへのコマンド


```

switch<config># email
switch(config-email)# smtp-host 198.51.100.1 smtp-port 25
switch(config-email)# vrf management
switch(config-email)# from admin@Mycompany.com
switch(config-email)# reply-to admin@Mycompany.com
switch(config-email)# exit
switch(config)# exit
switch# show email
SMTP host: 198.51.100.1
SMTP port: 25
Reply to: admin@Mycompany.com
From: admin@Mycompany.com
VRF: management
switch# show interface brief | email subject show-interface admin@Mycompany.com

Email sent

```

admin@Mycompany.com に「show-interface」という件名で送信される電子メールにコマンドの出力が表示されます。

```

<snip>
-----
Ethernet  VLAN  Type  Mode   Status Reason                Speed   Port
Interface                                     (D)    Ch #
-----
Eth1/1    --  eth  trunk  up     none                   10G (D)  --
Eth1/2    --  eth  routed down  Link not connected  auto (D)  --
Eth1/3    --  eth  routed up   none                   10G (D)  --
Eth1/4    --  eth  routed down  Link not connected  auto (D)  --
Eth1/5    --  eth  routed down  Link not connected  auto (D)  --
Eth1/6    --  eth  routed down  Link not connected  auto (D)  --
Eth1/7    --  eth  routed down  Link not connected  auto (D)  --
Eth1/8    --  eth  routed down  Link not connected  auto (D)  --
Eth1/9    --  eth  routed down  Link not connected  auto (D)  --
Eth1/10   --  eth  routed down  Link not connected  auto (D)  --
<snip>

```




第 7 章

端末設定とセッションの設定

この章は、次の内容で構成されています。

- [端末設定とセッションの概要, on page 113](#)
- [ファイル システム パラメータのデフォルト設定, on page 114](#)
- [コンソール ポートの設定, on page 114](#)
- [仮想端末の設定, on page 116](#)
- [ターミナルセッションのクリア, on page 118](#)
- [端末およびセッション情報の表示, on page 119](#)

端末設定とセッションの概要

ここでは、端末設定とセッションの概要について説明します。

ターミナルセッションの設定

Cisco NX-OS ソフトウェア機能では、端末の次の特性を管理できます。

端末タイプ

リモート ホストと通信する際に Telnet で使用される名前

長さ

一時停止する前に表示されるコマンド出力の行数

幅

行を折り返す前に表示される文字数

非アクティブセッションのタイムアウト

デバイスによって停止される前にセッションが非アクティブの状態でいられる分数

コンソール ポート

コンソールポートは非同期のシリアルポートで、初期設定用に、RJ-45 コネクタを使用して標準 RS-232 ポート経由でデバイスに接続できます。このポートに接続されるデバイスには、非同期伝送の機能が必要です。コンソールポートには、次のパラメータを設定できます。

データ ビット

データに使用するビット数を 8 ビットのバイト単位で指定します。

非アクティブ セッションのタイムアウト

セッションが終了になるまでの非アクティブ時間を分単位で指定します。

パリティ

エラー検出用の奇数パリティまたは偶数パリティを指定します。

速度

接続の送信速度を指定します。

ストップ ビット

非同期回線に対するストップ ビットを指定します。

ターミナルエミュレータは、9600 ボー、8 データ ビット、1 ストップ ビット、パリティなしに設定してください。

仮想端末

仮想端末回線を使用してデバイスに接続できます。セキュアシェル (SSH) および Telnet は、仮想ターミナルセッションを作成します。仮想端末の非アクティブセッションタイムアウトおよびセッション数の上限を設定できます。

ファイル システム パラメータのデフォルト設定

次の表に、ファイル システム パラメータのデフォルト設定を示します。

Table 16: デフォルトのファイル システム設定

パラメータ	デフォルト
デフォルトファイルシステム	bootflash:

コンソール ポートの設定

コンソール ポートに対して次の特性を設定できます。

- データ ビット
- 非アクティブセッションのタイムアウト
- パリティ
- 速度
- ストップ ビット

Before you begin

コンソールポートにログインします。

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **line console**
3. **databits *bits***
4. **exec-timeout *minutes***
5. **parity {*even* | *none* | *odd*}**
6. **speed {*300* | *1200* | *2400* | *4800* | *9600* | *38400* | *57600* | *115200*}**
7. **stopbits {*1* | *2*}**
8. **exit**
9. (Optional) **show line console**
10. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	line console Example: switch# line console switch(config-console)#	コンソール コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	databits <i>bits</i> Example: switch(config-console)# databits 7	1バイトあたりのデータビット数を設定します。指定できる範囲は5～8です。デフォルトは8です。
ステップ 4	exec-timeout <i>minutes</i> Example: switch(config-console)# exec-timeout 30	非アクティブセッションのタイムアウトを設定します。有効値は0～525600分（8760時間）です。0分の値を設定すると、セッションタイムアウトはディセーブルになります。デフォルトは30分です。
ステップ 5	parity {<i>even</i> <i>none</i> <i>odd</i>} Example: switch(config-console)# parity even	パリティを設定します。デフォルトは none です。
ステップ 6	speed {<i>300</i> <i>1200</i> <i>2400</i> <i>4800</i> <i>9600</i> <i>38400</i> <i>57600</i> <i>115200</i>} Example: switch(config-console)# speed 115200	送信および受信速度を設定します。デフォルトは、9600です。

	Command or Action	Purpose
ステップ 7	stopbits {1 2} Example: switch(config-console)# stopbits 2	ストップ ビットを設定します。デフォルトは 1 です。
ステップ 8	exit Example: switch(config-console)# exit switch(config)#	コンソール コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 9	(Optional) show line console Example: switch(config)# show line console	コンソールの設定値を表示します。
ステップ 10	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

仮想端末の設定

ここでは、Cisco NX-OS デバイスで仮想端末を設定する方法について説明します。

非アクティブ セッション タイムアウトの設定

デバイス上の非アクティブな仮想端末セッションのタイムアウトを構成できます。

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **line vty**
3. **exec-timeout** *minutes*
4. **exit**
5. (Optional) **show running-config all | begin vty**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	line vty Example: switch# line vty switch(config-line)#	ライン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	exec-timeout minutes Example: switch(config-line)# exec-timeout 30	非アクティブセッションタイムアウトを設定します。有効値は 0 ~ 525600 分 (8760 時間) です。0 分の値を設定すると、タイムアウトはディセーブルになります。デフォルト値は 30 です。
ステップ 4	exit Example: switch(config-line)# exit switch(config)#	ライン コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	(Optional) show running-config all begin vty Example: switch(config)# show running-config all begin vty	仮想端末の設定を表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

セッション制限の設定

デバイス上の仮想端末セッションの数を制限できます。

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **line vty**
3. **session-limit sessions**
4. **exit**
5. (Optional) **show running-config all | being vty**
6. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	line vty Example: <pre>switch# line vty switch(config-line)#</pre>	ライン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	session-limit sessions Example: <pre>switch(config-line)# session-limit 10</pre>	デバイスの仮想セッションの最大数を設定します。範囲は 1 ~ 64 です。デフォルトは 32 です。
ステップ 4	exit Example: <pre>switch(config-line)# exit switch(config)#</pre>	ライン コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	(Optional) show running-config all being vty Example: <pre>switch(config)# show running-config all begin vty</pre>	仮想端末の設定を表示します。
ステップ 6	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

ターミナルセッションのクリア

デバイス上の端末セッションをクリアすることができます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **show users**
2. **clear line name**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) show users Example: <pre>switch# show users</pre>	デバイスのユーザセッションを表示します。
ステップ 2	clear line name Example: <pre>switch# clear line pts/0</pre>	特定の回線のターミナルセッションをクリアします。回線名では大文字と小文字が区別されます。

端末およびセッション情報の表示

端末およびセッション情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
show terminal	端末設定を表示します。
show line	COM1 およびコンソール ポートの設定を表示します。
show users	仮想ターミナルセッションを表示します。
show running-config [all]	実行コンフィギュレーションのユーザ アカウント設定を表示します。 all キーワードを指定すると、ユーザ アカウントのデフォルト値が表示されます。



第 8 章

基本的なデバイス管理

この章は、次の内容で構成されています。

- [基本的なデバイス管理について, on page 121](#)
- [基本的なデバイス パラメータのデフォルト設定, on page 122](#)
- [デバイスのホスト名の変更, on page 122](#)
- [MOTD バナーの設定, on page 123](#)
- [タイム ゾーンの設定, on page 124](#)
- [夏時間の設定, on page 125](#)
- [デバイス クロックの手動設定, on page 126](#)
- [クロック マネージャの設定 \(127 ページ\)](#)
- [ユーザーの管理, on page 128](#)
- [デバイス コンフィギュレーションの確認, on page 129](#)

基本的なデバイス管理について

ここでは、基本的なデバイス管理の概要について説明します。

デバイスのホスト名

コマンドプロンプトに表示されるデバイスのホスト名を、デフォルト (switch) から別のストリングに変更できます。デバイスに固有のホスト名を付けると、コマンドラインインターフェイス (CLI) プロンプトからそのデバイスを容易に特定できます。

Message-of-the-Day バナー

Message-of-The-Day (MOTD) バナーは、デバイス上でユーザログインプロンプトの前に表示されます。このメッセージには、デバイスのユーザに対して表示する任意の情報を含めることができます。

デバイスクロック

デバイスを NTP クロック ソースなどの有効な外部の時間調整機構と同期させない場合は、デバイスの起動時にクロック タイムを手動で設定できます。

クロック マネージャ

Cisco NX-OS デバイスには、異なるタイプのクロックが含まれていて、それらの同期が必要になることがあります。これらのクロックはさまざまなコンポーネント（スーパーバイザ、ラインカードプロセッサ、ラインカードなど）の一部であり、それぞれ異なるプロトコルを使用している可能性があります。

クロック マネージャには、これらの異なるクロックを同期する機能があります。

タイムゾーンと夏時間

デバイスのタイムゾーンと夏時間を設定できます。これらの値により、クロックの時刻が協定世界時（UTC）からオフセットされます。UTC は、国際原子時（TAI）をベースにしており、うるう秒を定期的に追加することで地球の自転の遅れを補償しています。UTC は、以前はグリニッジ標準時（GMT）と呼ばれていました。

ユーザセッション

デバイス上のアクティブなユーザセッションを表示できます。また、ユーザセッションにメッセージを送信することもできます。ユーザーセッションとアカウントの管理の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Security Configuration Guide』を参照してください。

基本的なデバイスパラメータのデフォルト設定

次の表に、基本的なデバイスパラメータのデフォルト設定を示します。

Table 17: デフォルトの基本的なデバイスパラメータ

パラメータ	デフォルト
MOTD バナー テキスト	User Access Verification
クロック タイムゾーン	UTC

デバイスのホスト名の変更

コマンドプロンプトに表示されるデバイスのホスト名を、デフォルト（switch）から別のストリングに変更できます。

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **{hostname | switchname} name**
3. **exit**
4. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	{hostname switchname} name Example: hostname コマンドの使用 : <pre>switch(config)# hostname Engineering1 Engineering1(config)#</pre> switchname コマンドの使用 : <pre>Engineering1(config)# switchname Engineering2 Engineering2(config)#</pre>	デバイスのホスト名を変更します。 <i>name</i> 引数は英数字で、大文字と小文字が区別されます。デフォルトは switch です。 Note switchname コマンドは、 hostname コマンドと同じ機能を実行します。Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I7(3)以降、スイッチ名の最大長 63 文字がサポートされています。
ステップ 3	exit Example: <pre>Engineering2(config)# exit Engineering2#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>Engineering2# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

MOTD バナーの設定

ユーザーがログインするときに端末でログインプロンプトの後に MOTD が表示されるよう設定できます。MOTD バナーには、次の特徴があります。

- 1 行あたり最大 80 文字
- 最大 40 行

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**

2. **banner motd** *delimiting-character message delimiting-character*
3. **exit**
4. (Optional) **show banner motd**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	banner motd <i>delimiting-character message delimiting-character</i> Example: <pre>switch(config)# banner motd #Welcome to the Switch# switch(config)#</pre>	MoTD バナーを設定します。メッセージテキストでは、区切り文字を使用しないでください。 Note "または%は、区切り文字に使用しないでください。
ステップ 3	exit Example: <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show banner motd Example: <pre>switch# show banner motd</pre>	設定された MOTD バナーを表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

タイムゾーンの設定

UTC からデバイスのクロック時刻をオフセットするためにタイムゾーンを設定できます。

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **clock timezone** *zone-name offset-hours offset-minutes*
3. **exit**
4. (Optional) **show clock**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	clock timezone zone-name offset-hours offset-minutes Example: switch(config)# clock timezone EST -5 0	タイムゾーンを設定します。zone-name 引数は、タイムゾーンの略語 (PST や EST など) である 3 文字の文字列です。offset-hours 引数は、UTC からのオフセット値であり、有効な範囲は -23 ~ 23 時間です。offset-minutes 引数の範囲は、0 ~ 59 分です。
ステップ 3	exit Example: switch(config)# exit switch#	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) show clock Example: switch# show clock	時間とタイムゾーンを表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

夏時間の設定

デバイスで夏時間を有効にする時期と、オフセット (分単位) を設定できます。

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **clock summer-time zone-name start-week start-day start-month start-time end-week end-day end-month end-time offset-minutes**
3. **exit**
4. (Optional) **show clock detail**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example:	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
	<pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	
ステップ 2	<p>clock summer-time <i>zone-name start-week start-day start-month start-time end-week end-day end-month end-time offset-minutes</i></p> <p>Example:</p> <pre>switch(config)# clock summer-time PDT 1 Sunday March 02:00 1 Sunday November 02:00 60</pre>	<p>夏時間を設定します。</p> <p><i>zone-name</i> 引数は、タイムゾーンの略語 (PST、EST など) である 3 文字のストリングです。</p> <p><i>start-day</i> 引数と <i>end-day</i> 引数の値は、Monday、Tuesday、Wednesday、Thursday、Friday、Saturday、および Sunday です。</p> <p><i>start-month</i> および <i>end-month</i> 引数の値は January、February、March、April、May、June、July、August、September、October、November、および December です。</p> <p><i>start-time</i> および <i>end-time</i> 引数の値は、<i>hh:mm</i> フォーマットです。</p> <p><i>offset-minutes</i> 引数の範囲は、0 ~ 1440 分です。</p>
ステップ 3	<p>exit</p> <p>Example:</p> <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。</p>
ステップ 4	<p>(Optional) show clock detail</p> <p>Example:</p> <pre>switch(config)# show clock detail</pre>	<p>設定された MOTD バナーを表示します。</p>
ステップ 5	<p>(Optional) copy running-config startup-config</p> <p>Example:</p> <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	<p>実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。</p>

デバイスクロックの手動設定

デバイスがリモートの時刻源にアクセスできない場合、クロックを手動で設定できます。

Before you begin

タイムゾーンを設定します。

SUMMARY STEPS

1. **clock set** *time day month year*
2. (Optional) **show clock**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	clock set <i>time day month year</i> Example: <pre>switch# clock set 15:00:00 30 May 2013 Fri May 30 15:14:00 PDT 2013</pre>	デバイス クロックを設定します。 <i>time</i> 引数のフォーマットは <i>hh:mm:ss</i> です。 <i>day</i> 引数の範囲は 1 ~ 31 です。 <i>month</i> 引数の値は January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November 、および December です。 <i>year</i> 引数の範囲は 2000 ~ 2030 です。
ステップ 2	(Optional) show clock Example: <pre>switch(config)# show clock</pre>	現在のクロック値を表示します。

クロック マネージャの設定

Cisco Nexus デバイスのコンポーネントのすべてのクロックを同期するように、Clock Manager を構成できます。

手順の概要

1. **clock protocol** *protocol*
2. (任意) **show run clock_manager**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	clock protocol <i>protocol</i> 例： <pre>switch# clock protocol ntp</pre>	クロック マネージャを設定します。 <i>protocol</i> 引数の値は ntp 、 ptp 、および none です。 次に、値について説明します。 <ul style="list-style-type: none"> • ntp : クロックとネットワーク タイム プロトコル (NTP) を同期します。 • ptp : IEEE 1588 で記述されているとおりに、クロックを高精度時間プロトコル (PTP) と同期します。 • none—clock set HH:MM:SS を使用します。スーパーバイザ クロックを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注) none を使用する場合は、クロックを構成する必要があります。</p> <p>(注) プロトコルが構成されたら、クロックはそのプロトコルを使用する必要があります。</p>
ステップ 2	<p>(任意) show run clock_manager</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show run clock_manager</pre>	クロック マネージャの設定を表示します。

ユーザーの管理

デバイスにログインしたユーザの情報を表示したり、それらのユーザにメッセージを送信したりできます。

ユーザ セッションに関する情報の表示

デバイス上のユーザセッションに関する情報を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **show users**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<p>show users</p> <p>Example:</p> <pre>switch# show users</pre>	ユーザセッションを表示します。

ユーザーへのメッセージ送信

デバイス CLI を使用して、現在アクティブなユーザにメッセージを送信できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **show users**
2. **send [session line] message-text**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) show users Example: switch# show users	アクティブなユーザセッションを表示します。
ステップ 2	send [session line] message-text Example: switch# send Reloading the device is 10 minutes!	すべてのアクティブなユーザまたは特定のユーザにメッセージを送信します。このメッセージは最大80文字の英数字で、大文字と小文字が区別されます。

デバイス コンフィギュレーションの確認

構成を確認するためには、次のいずれかのコマンドを使用します。

コマンド	目的
show running-config	実行設定を表示します。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。
show time-stamp running-config last-changed	実行構成が最後に変更されたときのタイムスタンプを表示します。



CHAPTER 9

デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルの使用方法

この章は、次の内容で構成されています。

- デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルについて, [on page 131](#)
- 注意事項と制約事項 (133 ページ)
- ファイルシステム パラメータのデフォルト設定, [on page 133](#)
- FTP、HTTP、または TFTP 送信元インターフェースの構成 (133 ページ)
- ディレクトリの操作, [on page 134](#)
- ファイルの使用, [on page 137](#)
- アーカイブ ファイルの操作 (143 ページ)
- ファイルシステムの使用例, [on page 146](#)

デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルについて

ここでは、Cisco NX-OS デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルについて説明します。

ファイルシステム

ローカル ファイル システムを指定するための構文は、`filesystem:[//modules/]` です。

次の表に、デバイス上で参照可能な各種ファイルシステムの説明を示します。

Table 18: ファイルシステムの構文の構成要素

ファイルシステム名	モジュール	説明
ブートフラッシュ	sup-active sup-local	イメージファイル、コンフィギュレーションファイル、およびその他のファイルを格納するためにアクティブスーパーバイザモジュール上にある内部 CompactFlash メモリ。初期デフォルトディレクトリは bootflash です。
	sup-standby sup-remote	イメージファイル、コンフィギュレーションファイル、およびその他のファイルを格納するためにスタンバイスーパーバイザモジュール上にある内部 CompactFlash メモリ。
volatile	—	スーパーバイザモジュールにある、一時的または保留中の変更のために使用される揮発性 RAM (VRAM)。
log	—	ロギングファイル統計情報を格納する、アクティブスーパーバイザ上のメモリ。
system	—	実行コンフィギュレーションファイルを格納するために使用される、スーパーバイザモジュール上のメモリ。
debug	—	デバッグログに使用される、スーパーバイザモジュール上のメモリ。

ディレクトリ

bootflash: および外部フラッシュメモリ (usb1:, および usb2:) にディレクトリを作成できます。これらのディレクトリ間を移動して、ファイルの保存に使用できます。

ファイル

bootflash:、volatile:、slot0:、usb1:、およびusb2: ファイルシステムにファイルを作成し、アクセスします。system: filesystem 上のファイルにのみアクセスできます。 **debug logfilecommand** には、log: ファイルシステムを使用できます。

FTP、Secure Copy (SCP)、セキュアシェルFTP (SFTP)、およびTFTPを使用して、リモートサーバーからnx-osイメージファイルなどのファイルをダウンロードできます。デバイスがSCPサーバーとして動作できるので、外部サーバーからデバイスへファイルをコピーすることもできます。

注意事項と制約事項

デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルの注意事項と制限事項は次のとおりです。

- **show tech-support details** コマンドは、Ctrl+Zを使用して終了できません。代わりに、Ctrl+Cを使用してコマンドを終了します。
- ブートフラッシュ内のファイルの変更は、「network-admin」ロールを持つユーザーが行ないます。

ファイルシステムパラメータのデフォルト設定

次の表に、ファイルシステムパラメータのデフォルト設定を示します。

Table 19: デフォルトのファイルシステム設定

パラメータ	デフォルト
デフォルトファイルシステム	bootflash:

FTP、HTTP、またはTFTP送信元インターフェイスの構成

File Transfer Protocol (FTP)、Hypertext Transfer Protocol (HTTP)、または Trivial File Transfer Protocol (TFTP) の送信元インターフェイスを構成できます。この構成により、コピーパケットを転送する際に、設定した送信元インターフェイスに関連付けられた IP アドレスを使用することができます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **[no] ip {ftp | http | tftp} source-interface {ethernet slot/port | loopback number}**

3. (任意) copy running-config startup-config

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	[no] ip {ftp http tftp} source-interface {ethernet slot/port loopback number} 例： switch(config)# ip tftp source-interface ethernet 2/1	すべてのFTP、HTTP、またはTFTPパケットの送信元インターフェイスを構成します。
ステップ 3	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

ディレクトリの操作

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでディレクトリを操作する手順を説明します。

カレント ディレクトリの特定

カレント ディレクトリのディレクトリ名を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. pwd

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	pwd Example: switch# pwd	カレント ディレクトリの名前を表示します。

カレント ディレクトリの変更

ファイルシステムの操作のためカレント ディレクトリを変更できます。初期デフォルト ディレクトリは bootflash: です。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. **cd** {*directory* | *filesystem:[//module/][directory]*}

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	cd { <i>directory</i> <i>filesystem:[//module/][directory]</i> }	新しいカレントディレクトリに変更します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの作成

bootflash: およびフラッシュ デバイス ファイル システムでディレクトリを作成できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **cd** {*directory* | *filesystem:[//module/][directory]*}
3. **mkdir** [*filesystem:[//module/]*]*directory*

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) cd { <i>directory</i> <i>filesystem:[//module/][directory]</i> }	新しいカレントディレクトリに変更します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	mkdir [<i>filesystem:[//module/]</i>] <i>directory</i> Example: switch# mkdir test	新しいディレクトリを作成します。 <i>filesystem</i> 引数では、大文字と小文字が区別されます。 <i>directory</i> 引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの内容の表示

ディレクトリの内容を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **dir** [*directory* | *filesystem:[//module/][directory]*]

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	dir [<i>directory</i> <i>filesystem:[//module/][directory]</i>] Example: switch# dir bootflash:test	ディレクトリの内容を表示します。デフォルト値は、現在の作業ディレクトリです。ファイルシステム名およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの削除

ディレクトリは、デバイス上のファイルシステムから削除できます。

Before you begin

ディレクトリを削除する前に、ディレクトリが空白であることを確認します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **dir** [*filesystem :[//module/][directory]*]
3. **rmdir** [*filesystem :[//module/]*]*directory*

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) dir [<i>filesystem :[//module/][directory]</i>] Example: switch# dir bootflash:test	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 ディレクトリが空白でない場合は、ディレクトリを削除する前に、ディレクトリ内のすべてのファイルを削除する必要があります。
ステップ 3	rmdir [<i>filesystem :[//module/]</i>] <i>directory</i> Example: switch# rmdir test	ディレクトリを削除します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のディレクトリへのアクセス

アクティブ スーパーバイザ モジュール上のセッションからスタンバイ スーパーバイザ モジュール (リモート) 上のすべてのファイル システムにアクセスできます。この機能は、アクティブ スーパーバイザ モジュールにファイルをコピーしたら、同じファイルをスタンバイ スーパーバイザ モジュール上にも存在させる必要がある場合に役立ちます。アクティブ スーパーバイザ モジュール上のセッションからスタンバイ スーパーバイザ モジュール上のファイル システムにアクセスするには、`filesystem://sup-remote/` または `filesystem://sup-standby/` を使用して、ファイルのパスにスタンバイ スーパーバイザ モジュールを指定します。

ファイルの使用

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでファイルを使用する手順を説明します。

ファイルの移動

ディレクトリ内のファイルを別のディレクトリに移動できます。



Caution 宛先ディレクトリに同名のファイルがすでに存在する場合は、そのファイルは移動対象のファイルによって上書きされます。

move コマンドを使用して、同じディレクトリ内でファイルを移動することにより、ファイルの名前を変更できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **dir** `filesystem://[module]/[directory]`
3. **move** `filesystem://[module]/[directory] / | directory/[source-filename] { filesystem://[module]/[directory] / | directory/[target-filename] | target-filename }`

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) dir <code>filesystem://[module]/[directory]</code> Example: switch# dir bootflash	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイル システムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	<p>move [<i>filesystem</i>:<i>//module</i>][<i>directory</i> /] <i>directory</i>]<i>source-filename</i> {{<i>filesystem</i>:<i>//module</i>][<i>directory</i> /] <i>directory</i>}}[<i>target-filename</i>] <i>target-filename</i>}</p> <p>Example: switch# move test old_tests/test1</p>	<p>ファイルを移動します。</p> <p>ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。</p> <p><i>target-filename</i> 引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。</p> <p><i>target-filename</i> 引数を指定しないと、ファイル名はデフォルトで <i>source-filename</i> 引数値に設定されます。</p>

ファイルのコピー

ファイルのコピーは、同じディレクトリまたは別のディレクトリのいずれかで作成できます。詳細については、Cisco Nexus 9000 Series NX-OS トラブルシューティング ガイドを参照してください。



Note **dir** コマンドを使用して、コピー先のファイルシステムに十分な領域があることを確認します。十分な領域が残っていない場合は、**delete** コマンドを使用して不要なファイルを削除します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **dir** [*filesystem*:*//module*][*directory*]
3. **copy** [*filesystem*:*//module*][*directory*/] | *directory*]*source-filename* | {{*filesystem*:*//module*][*directory*/] | *directory*}}[*target-filename*]

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<p>(Optional) pwd</p> <p>Example: switch# pwd</p>	現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	<p>(Optional) dir [<i>filesystem</i>:<i>//module</i>][<i>directory</i>]</p> <p>Example: switch# dir bootflash</p>	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	<p>copy [<i>filesystem</i>:<i>//module</i>][<i>directory</i>/] <i>directory</i>]<i>source-filename</i> {{<i>filesystem</i>:<i>//module</i>][<i>directory</i>/] <i>directory</i>}}[<i>target-filename</i>]</p> <p>Example:</p>	ファイルをコピーします。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 <i>source-filename</i> 引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数を指定しないと、

	Command or Action	Purpose
	switch# copy test old_tests/test1	ファイル名はデフォルトで <i>source-filename</i> 引数値に設定されます。

ファイルの削除

ディレクトリからファイルを削除できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **dir** [*filesystem:[//module/][directory]*]
2. **delete** {*filesystem:[//module/][directory/]* | *directory/*};*filename*

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) dir [<i>filesystem:[//module/][directory]</i>] Example: switch# dir bootflash:	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 2	delete { <i>filesystem:[//module/][directory/]</i> <i>directory/</i> }; <i>filename</i> Example: switch# delete bootflash:old_config.cfg	ファイルを削除します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 <i>source-filename</i> 引数では、大文字と小文字が区別されます。 Caution 1つのディレクトリを指定している場合、 delete コマンドではディレクトリ全体とその内容すべてが削除されます。

ファイル内容の表示

ファイルの内容を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **show file** [*filesystem:[//module/][directory/]*]*filename*

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	show file [<i>filesystem:[//module/][directory/]</i>] <i>filename</i> Example: switch# show file bootflash:test-results	ファイルの内容を表示します。

ファイルチェックサムの表示

ファイルの整合性をチェックするチェックサムを表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **show file** [*filesystem:[//module/]*][*directory/*]*filename* {**cksum** | **md5sum**}

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	show file [<i>filesystem:[//module/]</i>][<i>directory/</i>] <i>filename</i> { cksum md5sum } Example: switch# show file bootflash:trunks2.cfg cksum	ファイルのチェックサムまたは MD5 チェックサムを表示します。

ファイルの圧縮と解凍

Lempel-Ziv 1977 (LZ77) コーディングを使用してデバイス上のファイルの圧縮と圧縮解除が行えます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **dir** [*filesystem:[//module/]*]*directory*]
2. **gzip** [*filesystem:[//module/]*][*directory/*] | *directory/*]*filename*
3. **gunzip** [*filesystem:[//module/]*][*directory/*] | *directory/*]*filename* **.gz**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) dir [<i>filesystem:[//module/]</i>] <i>directory</i>] Example: switch# dir bootflash:	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 2	gzip [<i>filesystem:[//module/]</i>][<i>directory/</i>] <i>directory/</i>] <i>filename</i> Example: switch# gzip show_tech	ファイルを圧縮します。ファイルが圧縮されると、 .gz サフィクスが付けられます。
ステップ 3	gunzip [<i>filesystem:[//module/]</i>][<i>directory/</i>] <i>directory/</i>] <i>filename</i> .gz Example: switch# gunzip show_tech.gz	ファイルを圧縮解除します。圧縮解除するファイルのサフィクスは、 .gz である必要があります。ファイルが圧縮解除されると、サフィクスは .gz ではなくなります。

ファイルの最終行の表示

ファイルの最後の行を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **tail** [*filesystem:[//module/]*][*directory/*]*filename* [*lines*]

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	tail [<i>filesystem:[//module/]</i>][<i>directory/</i>] <i>filename</i> [<i>lines</i>] Example: switch# tail ospf-gr.conf	ファイルの最後の行を表示します。デフォルトの行数は 10 です。有効な範囲は 0 ~ 80 行です。

ファイルへの show コマンド出力のリダイレクト

show コマンドの出力は、bootflash:、volatile:、またはリモート サーバー上のファイルにリダイレクトできます。また、コマンド出力のフォーマットを指定することもできます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **terminal redirection-mode** {*ascii* | *zipped*}
2. *show-command* > [*filesystem:[//module/]*][*directory*] | [*directory /*]*filename*

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) terminal redirection-mode { <i>ascii</i> <i>zipped</i> } Example: switch# terminal redirection-mode zipped	ユーザー セッションに対して show コマンド出力のリダイレクションモードを設定します。デフォルトモードは ascii です。
ステップ 2	<i>show-command</i> > [<i>filesystem:[//module/]</i>][<i>directory</i>] [<i>directory /</i>] <i>filename</i> Example: switch# show tech-support > bootflash:techinfo	show コマンドからの出力をファイルにリダイレクトします。

ファイルの検索

特定のストリングで始まる名前を持つファイルを現在の作業ディレクトリとそのサブディレクトリで検索できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**

2. (Optional) `cd {filesystem:[//module/][directory] | directory}`
3. `find filename-prefix`

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) <code>pwd</code> Example: <code>switch# pwd</code>	現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) <code>cd {filesystem:[//module/][directory] directory}</code> Example: <code>switch# cd bootflash:test_scripts</code>	デフォルトディレクトリを変更します。
ステップ 3	<code>find filename-prefix</code> Example: <code>switch# find bgp_script</code>	指定したファイル名プレフィックスで始まるすべてのファイル名をデフォルトディレクトリとそのサブディレクトリで検索します。ファイル名プレフィックスでは、大文字と小文字が区別されます。

ブートフラッシュのフォーマット

format bootflash: CLI コマンドを使用して、オンボードフラッシュメモリ (bootflash:) をフォーマットします。すべての仮想サービスをアクティブ解除し、もう一度実行してください (Deactivate all virtual-services and try again) というエラーメッセージが原因でコマンドがエラーになった場合は、**guestshell destroy** CLI コマンドを使用してゲストシェルを破棄し、次のように **format bootflash:** コマンドを再実行します。

```
switch# sh virtual-service list
Virtual Service List:

Name                               Status           Package Name
-----
guestshell+                         Activated        guestshell.ova

switch#

switch# guestshell destroy
You are about to destroy the guest shell and all of its contents. Be sure to save your
work. Are you sure you want to continue? (y/n) [n] y

switch# 2018 Jan 17 18:42:24 switch %$ VDC-1 %$ %VMAN-2-ACTIVATION_STATE: Deactivating
virtual service 'guestshell+'

switch#format bootflash:
```


アーカイブ ファイルの操作

Cisco NX-OS ソフトウェアはアーカイブ ファイルをサポートしています。アーカイブ ファイルを作成したり、既存のアーカイブ ファイルにファイルを追加したり、アーカイブ ファイルからファイルを抽出したり、アーカイブファイル内のファイルのリストを表示したりすることができます。

アーカイブ ファイルの作成

アーカイブ ファイルを作成し、アーカイブ ファイルにファイルを追加できます。次の圧縮タイプを指定できます。

- bzip2
- gzip
- 未圧縮

デフォルト値は gzip です。

手順の概要

1. `tar create {bootflash: | volatile:}archive-filename [absolute] [bz2-compress] [gz-compress] [remove] [uncompressed] [verbose] filename-list`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><code>tar create {bootflash: volatile:}archive-filename [absolute] [bz2-compress] [gz-compress] [remove] [uncompressed] [verbose] filename-list</code></p> <p>例 :</p> <pre>switch# tar create bootflash:config-archive gz-compress bootflash:config-file</pre>	<p>アーカイブ ファイルを作成し、アーカイブ ファイルにファイルを追加します。ファイル名は英数字で指定します（大文字と小文字は区別されません）。最大文字数は 240 です。</p> <p>absolute キーワードは、先頭のバックスラッシュ文字 (\) を、アーカイブ ファイルに追加されたファイルの名前から削除しないことを指定します。デフォルトでは、先頭のバックスラッシュ文字は削除されます。</p> <p>bz2-compress、gz-compress、および uncompressed のキーワードは、アーカイブにファイルを追加するとき（または後で追加するとき）に使用する圧縮ユーティリティと、ファイルを抽出するとき使用する解凍ユーティリティを決定します。アーカイブファイルに拡張子を指定しない場合、デフォルト値は次のようになります。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • bz2-compress の場合、拡張子は <code>.tar.bz2</code> です。 • gz-compress の場合、拡張子は <code>.tar.gz</code> です。 • uncompressed の場合、拡張子は <code>.tar</code> です。 <p>remove キーワードは、アーカイブにファイルを追加した後に、Cisco NX-OS ソフトウェアがファイルシステムからこれらのファイルを削除することを指定します。デフォルトでは、ファイルは削除されません。</p> <p>verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、ファイルをアーカイブに追加するときにリスト表示することを指定します。デフォルトで、ファイルは追加されると一覧表示されます。</p>

アーカイブファイルへのファイルの追加

デバイス上の既存のアーカイブファイルにファイルを追加できます。

始める前に

デバイス上でアーカイブファイルを作成しておきます。

手順の概要

1. `tar append {bootflash: | volatile:}archive-filename [absolute] [remove] [verbose] filename-list`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>tar append {bootflash: volatile:}archive-filename [absolute] [remove] [verbose] filename-list</code>	<p>既存のアーカイブファイルにファイルを追加します。アーカイブファイル名では、大文字と小文字は区別されません。</p> <p>absolute キーワードは、先頭のバックスラッシュ文字 (<code>\</code>) を、アーカイブファイルに追加されたファイルの名前から削除しないことを指定します。デフォルトでは、先頭のバックスラッシュ文字は削除されます。</p> <p>remove キーワードは、アーカイブにファイルを追加した後に、Cisco NX-OS ソフトウェアがファイルシステムからこれらのファイルを削除することを指定</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>しません。デフォルトでは、ファイルは削除されません。</p> <p>verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、ファイルがアーカイブに追加されるときにファイルをリストすることを指定します。デフォルトで、ファイルは追加されると一覧表示されます。</p>

例

次に、既存のアーカイブファイルにファイルを追加する例を示します。

```
switch# tar append bootflash:config-archive.tar.gz bootflash:new-config
```

アーカイブファイルからのファイルの抽出

デバイス上の既存のアーカイブファイルにファイルを抽出できます。

始める前に

デバイス上でアーカイブファイルを作成しておきます。

手順の概要

1. **tar extract** {bootflash: | volatile:}archive-filename [keep-old] [screen] [to {bootflash: | volatile:}[/directory-name]] [verbose]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
<p>ステップ 1</p>	<p>tar extract {bootflash: volatile:}archive-filename [keep-old] [screen] [to {bootflash: volatile:}[/directory-name]] [verbose]</p> <p>例 :</p> <pre>switch# tar extract bootflash:config-archive.tar.gz</pre>	<p>既存のアーカイブファイルからファイルを抽出します。アーカイブファイル名では、大文字と小文字は区別されません。</p> <p>keep-old キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルと同じ名前を持つファイルを上書きしないことを示します。</p> <p>screen キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルと同じ名前を持つファイルを上書きしないことを示します。</p> <p>to キーワードは、ターゲットファイルシステムを指定します。ディレクトリ名を含めることができます。ディレクトリ名は、240 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字は区別されます。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルの名前を表示することを指定します。

アーカイブ ファイルのファイル名の表示

tar list コマンドを使用して、アーカイブ ファイル内のファイルの名前を表示できます。

tar list {bootflash: | volatile:}archive-filename

アーカイブ ファイル名では、大文字と小文字は区別されません。

```
switch# tar list bootflash:config-archive.tar.gz
config-file
new-config
```

ファイル システムの使用例

この項では、Cisco NX-OS デバイスでのファイル システムの使用例について説明します。

スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のディレクトリへのアクセス

次に、スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のファイルのリストを表示する例を示します。

```
switch# dir bootflash://sup-remote
 4096   Oct 03 23:55:55 2013  .patch/
...
 16384   Jan 01 13:23:30 2011  lost+found/
297054208 Oct 21 18:55:36 2013  n9000-dk9.6.1.2.T1.1.bin
...

Usage for bootflash://sup-remote
1903616000 bytes used
19234234368 bytes free
21137850368 bytes total
```

次に、スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のファイルを削除する例を示します。

```
switch# delete bootflash://sup-remote/aOldConfig.txt
```

ファイルの移動

次に、外部フラッシュ デバイス上のファイルを移動する例を示します。

```
switch# move usb1:samplefile usb1:mystorage/samplefile
```

次に、デフォルト ファイル システム内のファイルを移動する例を示します。

```
switch# move samplefile mystorage/samplefile
```

ファイルのコピー

次に、usb1:ファイルシステムのルートディレクトリから、samplefile というファイルを mystorage ディレクトリにコピーする例を示します。

```
switch# copy usb1:samplefile usb1:mystorage/samplefile
```

次に、カレント ディレクトリ レベルからファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy samplefile mystorage/samplefile
```

次に、アクティブ スーパーバイザ モジュールのブートフラッシュからスタンバイ スーパーバイザ モジュールのブートフラッシュにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy bootflash:nx-os-image bootflash://sup-2/nx-os-image
```

次に、NVRAM の既存のコンフィギュレーションの内容を上書きする例を示します。

```
switch# copy nvram:snapshot-config nvram:startup-config
```

```
Warning: this command is going to overwrite your current startup-config:  
Do you wish to continue? {y/n} [y] y
```

copy コマンドを使用して、bootflash: ファイル システムと FTP、TFTP、SFTP、または SCP サーバーとの間でファイルのアップロードおよびダウンロードを行うこともできます。

ディレクトリの削除

ディレクトリは、デバイス上のファイル システムから削除できます。

Before you begin

ディレクトリを削除する前に、ディレクトリが空白であることを確認します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **dir** [filesystem :[/module/][directory]]
3. **rmdir** [filesystem :[/module/]]directory

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) dir [<i>filesystem</i> :[<i>//module</i>]/[<i>directory</i>]] Example: switch# dir bootflash:test	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 ディレクトリが空白でない場合は、ディレクトリを削除する前に、ディレクトリ内のすべてのファイルを削除する必要があります。
ステップ 3	rmdir [<i>filesystem</i> :[<i>//module</i>]] <i>directory</i> Example: switch# rmdir test	ディレクトリを削除します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

ファイル内容の表示

外部フラッシュ デバイスのファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file usb1:test
configure terminal
interface ethernet 1/1
no shutdown
end
show interface ethernet 1/1
```

現在のディレクトリに存在するファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file myfile
```

ファイルチェックサムの表示

次に、ファイルのチェックサムを表示する例を示します。

```
switch# show file bootflash:trunks2.cfg cksum
583547619
```

次に、ファイルの MD5 チェックサムを表示する例を示します。

```
switch# show file bootflash:trunks2.cfg md5sum
3b94707198aabefcf46459de10c9281c
```

ファイルの圧縮と解凍

次に、ファイルを圧縮する例を示します。

```
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile
...
switch# gzip volatile:Samplefile
switch# dir
 266069      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile.gz
...
```

次に、圧縮ファイルを解凍する例を示します

```
switch# dir
 266069      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile.gz
...
switch# gunzip samplefile
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile
...
```

show コマンド出力のリダイレクト

次に、出力を bootflash: ファイルシステム上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > bootflash:switch1-intf.cfg
```

次に、出力を外部フラッシュメモリ上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > usb1:switch-intf.cfg
```

次に、出力を TFTP サーバ上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > tftp://10.10.1.1/home/configs/switch-intf.cfg
Preparing to copy...done
```

次に、**show tech-support** コマンドの出力をファイルにダイレクトする例を示します。

```
switch# show tech-support > Samplefile
Building Configuration ...
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile
Usage for volatile://
 1527808 bytes used
 19443712 bytes free
 20971520 bytes total
```

ファイルの検索

次に、現在のデフォルトディレクトリ内でファイルを検索する例を示します。

```
switch# find smm_shm.cfg  
/usr/bin/find: ./lost+found: Permission denied  
./smm_shm.cfg  
./newer-fs/isan/etc/routing-sw/smm_shm.cfg  
./newer-fs/isan/etc/smm_shm.cfg
```




第 10 章

設定ファイルの取り扱い

この章は、次の内容で構成されています。

- [構成ファイルについて, on page 151](#)
- [構成ファイルに関する注意事項と制限事項 \(152 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションファイルの管理, on page 152](#)
- [構成のアーカイブと構成ログ \(164 ページ\)](#)
- [デバイス コンフィギュレーションの確認, on page 169](#)
- [コンフィギュレーションファイルを使用した作業例, on page 169](#)

構成ファイルについて

構成ファイルには、Cisco NX-OS デバイス上の機能を構成するために使用される Cisco NX-OS ソフトウェアのコマンドが保存されます。コマンドは、システムを起動したとき（startup-config ファイルから）、または構成モードで CLI にコマンドを入力したときに、Cisco NX-OS ソフトウェアによって解析（変換および実行）されます。

スタートアップ構成ファイルを変更するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用してスタートアップ構成に実行構成ファイルを保存するか、ファイルサーバーからスタートアップ構成へ構成ファイルをコピーします。

コンフィギュレーション ファイルのタイプ

Cisco NX-OS ソフトウェアの構成ファイルには、実行構成とスタートアップ構成の 2 種類があります。デバイスは、その起動時にスタートアップコンフィギュレーション（startup-config）を使用して、ソフトウェア機能を設定します。実行コンフィギュレーション（running-config）には、スタートアップコンフィギュレーションファイルに対して行った現在の変更が保存されます。2つのコンフィギュレーションファイルは別々の設定にできます。デバイス構成は、永続的ではなく一時的に変更することもできます。この場合、グローバルコンフィギュレーションモードでコマンドを使用することにより、実行コンフィギュレーションを変更しますが、スタートアップコンフィギュレーションにはその変更を保存しないようにします。

実行構成を変更するには、**configure terminal** コマンドを使用して、グローバル構成モードを開始します。Cisco NX-OS 構成モードの使用時には、通常コマンドはすぐに実行され、入力直後または構成モードを終了した時点で実行構成ファイルに保存されます。

スタートアップコンフィギュレーションファイルを変更するには、実行コンフィギュレーションファイルをスタートアップコンフィギュレーションに保存するか、コンフィギュレーションファイルをファイルサーバからスタートアップコンフィギュレーションにダウンロードします。

Related Topics

[実行コンフィギュレーションのスタートアップコンフィギュレーションへの保存](#) (152 ページ)

[リモートサーバからのスタートアップコンフィギュレーションのダウンロード](#) (155 ページ)

構成ファイルに関する注意事項と制限事項

構成ファイルに関する注意事項と制限事項は次のとおりです。

- NX-OS 7.0(3)I7(4) 以降、5 ~ 60 秒の遅延後に再起動を有効にする **reload timer** コマンドがサポートされています。

コンフィギュレーションファイルの管理

ここでは、コンフィギュレーションファイルの管理方法について説明します。

実行コンフィギュレーションのスタートアップコンフィギュレーションへの保存

実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションに保存することで、次にデバイスをリロードするときのために変更を保存できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **show running-config**
2. **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) show running-config Example: switch# show running-config	実行設定を表示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	copy running-config startup-config Example: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

リモートサーバへのコンフィギュレーションファイルのコピー

内部メモリに保存されたコンフィギュレーションファイルのリモートサーバにコピーして、バックアップとして使用したり、他の Cisco NX-OS デバイスを設定するために使用したりすることができます。

SUMMARY STEPS

1. **copy running-config *scheme*://*server*[/*url* /]*filename***
2. **copy *schemestartup-configserver*://[*url* /]*filename* /**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	copy running-config <i>scheme</i>://<i>server</i>[/<i>url</i> /]<i>filename</i> Example: <pre>switch# copy running-config tftp://10.10.1.1/sw1-run-config.bak</pre>	リモートサーバへ実行コンフィギュレーションファイルをコピーします。 <i>scheme</i> 引数に対して、 tftp: を入力するか、 ftp: 、 scp: 、または sftp: を入力します。 <i>server</i> 引数は、リモートサーバのアドレスまたは名前であり、 <i>url</i> 引数はリモートサーバにあるソースファイルへのパスです。 <i>server</i> 、 <i>url</i> 、および <i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。
ステップ 2	copy <i>schemestartup-configserver</i>://[<i>url</i> /]<i>filename</i> / Example: <pre>switch# copy startup-config tftp://10.10.1.1/sw1-start-config.bak</pre>	スタートアップコンフィギュレーションファイルのリモートサーバにコピーします。 <i>scheme</i> 引数に対して、 tftp: を入力するか、 ftp: 、 scp: 、または sftp: を入力します。 <i>server</i> 引数は、リモートサーバのアドレスまたは名前であり、 <i>url</i> 引数はリモートサーバにあるソースファイルへのパスです。 <i>server</i> 、 <i>url</i> 、および <i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。

Example

次に、リモートサーバへ構成ファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy running-config
tftp://10.10.1.1/sw1-run-config.bak
switch# copy startup-config
tftp://10.10.1.1/sw1-start-config.bak
```

リモートサーバからの実行コンフィギュレーションのダウンロード

別の Cisco NX-OS デバイスで作成し、リモートサーバにアップロードしたコンフィギュレーションファイルを使用して、Cisco NX-OS デバイスを設定できます。このファイルを、リモートサーバから TFTP、FTP、Secure Copy (SCP) を使用してデバイスに、または Secure Shell FTP (SFTP) を使用して実行コンフィギュレーションにダウンロードします。

Before you begin

ダウンロードするコンフィギュレーションファイルが、リモートサーバの正しいディレクトリにあることを確認します。

ファイルに対する許可が正しく設定されていることを確認します。ファイルのアクセス権は、誰でも読み取り可能に設定されている必要があります。

お使いのデバイスからリモートサーバへのルートを確認します。サブネット間でトラフィックをルーティングするルータまたはデフォルトゲートウェイがない場合、お使いのデバイスとリモートサーバは同じサブネットワーク内にある必要があります。

ping を使用してリモートサーバへの接続を確認します。または ping6 コマンドを使用します。

SUMMARY STEPS

1. `copy scheme://server[url/]filename running-config`
2. (Optional) `show running-config`
3. (Optional) `copy running-config startup-config`
4. (Optional) `show startup-config`

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	copy scheme://server[url/]filename running-config Example: <pre>switch# copy tftp://10.10.1.1/my-config running-config</pre>	リモートサーバから実行コンフィギュレーションファイルをダウンロードします。 <i>scheme</i> 引数に対して、 tftp: を入力するか、 ftp: 、 scp: 、または sftp: を入力します。 <i>server</i> 引数は、リモートサーバのアドレスまたは名前であり、 <i>url</i> 引数はリモートサーバにあるソースファイルへのパスです。 <i>server</i> 、 <i>url</i> 、および <i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	(Optional) show running-config Example: switch# show running-config	実行設定を表示します。
ステップ 3	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。
ステップ 4	(Optional) show startup-config Example: switch# show startup-config	スタートアップコンフィギュレーションを表示します。

Related Topics

[ファイルのコピー](#) (147 ページ)

リモートサーバからのスタートアップコンフィギュレーションのダウンロード

別の Cisco NX-OS デバイスで作成し、リモートサーバにアップロードしたコンフィギュレーションファイルを使用して、Cisco NX-OS デバイスを設定できます。このファイルを、リモートサーバから TFTP、FTP、Secure Copy (SCP) を使用してデバイスに、または Secure Shell FTP (SFTP) を使用してスタートアップコンフィギュレーションにダウンロードします。



Caution この手順を実行すると、Cisco NX-OS デバイス上のすべてのトラフィックが中断されます。

Before you begin

コンソールポート上のセッションにログインします。

ダウンロードするコンフィギュレーションファイルが、リモートサーバの正しいディレクトリにあることを確認します。

ファイルに対する許可が正しく設定されていることを確認します。ファイルのアクセス権は、誰でも読み取り可能に設定されている必要があります。

お使いのデバイスからリモートサーバーへのルートを確認します。サブネット間でトラフィックをルーティングするルータまたはデフォルトゲートウェイがない場合、お使いのデバイスとリモートサーバーは同じサブネットワーク内にある必要があります。

pingを使用してリモートサーバへの接続を確認します。または **ping6** コマンドを使用します。

SUMMARY STEPS

1. **write erase**
2. **reload**
3. **copy scheme://server/[url /]filename running-config**
4. **copy running-config startup-config**
5. (Optional) **show startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	write erase Example: <pre>switch# write erase</pre>	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルを削除します。
ステップ 2	reload Example: <pre>switch# reload This command will reboot the system. (y/n)? [n] y ... Enter the password for "admin": <password> Confirm the password for "admin": <password> ... Would you like to enter the basic configuration dialog (yes/no): n switch#</pre>	Cisco NX-OS デバイスをリロードします。 Note デバイスを設定するために、セットアップユーティリティを使用しないでください。
ステップ 3	copy scheme://server/[url /]filename running-config Example: <pre>switch# copy tftp://10.10.1.1/my-config running-config</pre>	リモートサーバから実行コンフィギュレーションファイルをダウンロードします。 <i>scheme</i> 引数に対して、 tftp: を入力するか、 ftp: 、 scp: 、または sftp: を入力します。 <i>server</i> 引数は、リモートサーバのアドレスまたは名前であり、 <i>url</i> 引数はリモートサーバにあるソースファイルへのパスです。 <i>server</i> 、 <i>url</i> 、および <i>filename</i> の各引数は、大文字小文字を区別して入力します。
ステップ 4	copy running-config startup-config Example: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションファイルをスタートアップコンフィギュレーションファイルとして保存します。
ステップ 5	(Optional) show startup-config Example: <pre>switch# show startup-config</pre>	実行設定を表示します。

Related Topics[ファイルのコピー](#) (147 ページ)

外部フラッシュメモリ デバイスへのコンフィギュレーションファイルのコピー

後で使用するために、コンフィギュレーションファイルをバックアップとして外部フラッシュメモリ デバイスにコピーできます。

Before you begin

外部フラッシュメモリ デバイスを、アクティブなスーパーバイザ モジュールに挿入します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) `dir {usb1: | usb2:}[directory/]`
2. `copy running-config {usb1: | usb2:}[directory/]filename`
3. `copy startup-config {usb1: | usb2:}[directory/]filename`

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) <code>dir {usb1: usb2:}[directory/]</code> Example: <code>switch# dir usb1:</code>	外部フラッシュメモリ デバイス上のファイルを表示します。
ステップ 2	<code>copy running-config {usb1: usb2:}[directory/]filename</code> Example: <code>switch# copy running-config usb1:dsn-running-config.cfg</code>	外部フラッシュメモリ デバイスに実行コンフィギュレーションをコピーします。 <i>filename</i> の引数では大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	<code>copy startup-config {usb1: usb2:}[directory/]filename</code> Example: <code>switch# copy startup-config usb1:dsn-startup-config.cfg</code>	外部フラッシュメモリ デバイスにスタートアップコンフィギュレーションをコピーします。 <i>filename</i> の引数では大文字と小文字が区別されます。

Related Topics[ファイルのコピー](#) (147 ページ)

外部フラッシュメモリ デバイスからの実行構成のコピー

別の Cisco NX-OS デバイスで作成し、外部フラッシュメモリ デバイスに保存された構成ファイルをコピーすることで、デバイスを構成できます。

Before you begin

外部フラッシュメモリ デバイスを、アクティブなスーパーバイザ モジュールに挿入します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **dir** {usb1: | usb2:}[directory/]
2. **copy** {usb1: | usb2:}[directory/]filename **running-config**
3. (Optional) **show running-config**
4. (Optional) **copy running-config startup-config**
5. (Optional) **show startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) dir {usb1: usb2:}[directory/] Example: switch# dir usb1:	外部フラッシュメモリ デバイス上のファイルを表示します。
ステップ 2	copy {usb1: usb2:}[directory/]filename running-config Example: switch# copy usb1:dsn-config.cfg running-config	外部フラッシュメモリ デバイスから実行コンフィギュレーションをコピーします。filename の引数では大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	(Optional) show running-config Example: switch# show running-config	実行設定を表示します。
ステップ 4	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。
ステップ 5	(Optional) show startup-config Example: switch# show startup-config	スタートアップコンフィギュレーションを表示します。

Related Topics

[ファイルのコピー](#) (147 ページ)

外部フラッシュメモリ デバイスからのスタートアップ構成のコピー

デバイス上のスタートアップ構成を復元するには、外部フラッシュメモリ デバイ스에保存された新しいスタートアップ構成ファイルをダウンロードします。

Before you begin

外部フラッシュメモリ デバイスを、アクティブなスーパーバイザ モジュールに挿入します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **dir** {usb1: | usb2:}[directory/]
2. **copy** {usb1: | usb2:}[directory /]filename **startup-config**
3. (Optional) **show startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) dir {usb1: usb2:}[directory/] Example: switch# dir usb1:	外部フラッシュ メモリ デバイス上のファイルを表示します。
ステップ 2	copy {usb1: usb2:}[directory /]filename startup-config Example: switch# copy usb1:dsn-config.cfg startup-config	外部フラッシュ メモリ デバイスからスタートアップコンフィギュレーションをコピーします。filename の引数では大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	(Optional) show startup-config Example: switch# show startup-config	スタートアップコンフィギュレーションを表示します。

Related Topics

[ファイルのコピー](#) (147 ページ)

内部ファイルシステムへのコンフィギュレーションファイルのコピー

後で使用するために、コンフィギュレーションファイルをバックアップとして内部メモリにコピーできます。

SUMMARY STEPS

1. **copy running-config** [filesystem:][directory/] | [directory/]filename
2. **copy startup-config** [filesystem:][directory/] | [directory/]filename

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	copy running-config [filesystem:][directory/] [directory/]filename Example: switch# copy running-config bootflash:sw1-run-config.bak	実行コンフィギュレーションファイルを内部メモリにコピーします。 filesystem、directory、およびfilename の各引数では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 2	copy startup-config [filesystem:][directory/] [directory/]filename Example:	スタートアップコンフィギュレーションファイルを内部メモリにコピーします。

	Command or Action	Purpose
	switch# copy startup-config bootflash:sw1-start-config.bak	filesystem、directory、およびfilenameの各引数では、大文字と小文字が区別されます。

Related Topics

[ファイルのコピー](#) (138 ページ)

以前の構成へのロールバック

メモリ破損などの障害が発生し、バックアップされたバージョンからコンフィギュレーションを復元することが必要になる場合があります。



Note `copy running-config startup-config` コマンドを実行するたびに、バイナリ ファイルが作成され、ASCII ファイルが更新されます。有効なバイナリ コンフィギュレーション ファイルを使用すると、ブート全体の時間が大幅に短縮されます。バイナリ ファイルはアップロードできませんが、その内容を使用して既存のスタートアップ コンフィギュレーションを上書きできます。この項で説明している `write erase` コマンドがバイナリ ファイルをクリアします。

SUMMARY STEPS

1. `write erase`
2. `reload`
3. `copy configuration-file running-configuration`
4. `copy running-config startup-config`

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	write erase Example: switch# write erase	スイッチの現在のコンフィギュレーションを削除します。
ステップ 2	reload Example: switch# reload	デバイスを再起動します。デバイスを起動して実行できるように、nx-os イメージファイルを提供するように求められます。
ステップ 3	copy configuration-file running-configuration Example: switch# copy bootflash:start-config.bak running-configuration	以前に保存されたコンフィギュレーションファイルを実行コンフィギュレーションにコピーします。 Note <code>configuration-file</code> ファイル名引数では、大文字と小文字が区別されます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	copy running-config startup-config Example: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

存在しないモジュールのコンフィギュレーションの削除

シャーシから I/O モジュールを取り外す場合は、実行コンフィギュレーションからそのモジュールのコンフィギュレーションを削除することもできます。



Note シャーシの空のスロットに対するコンフィギュレーションのみを削除できます。

Before you begin

シャーシから I/O モジュールを取り外します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **show hardware**
2. **purge module slot running-config**
3. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) show hardware Example: <pre>switch# show hardware</pre>	デバイスに取り付けられたハードウェアを表示します。
ステップ 2	purge module slot running-config Example: <pre>switch# purge module 3 running-config</pre>	実行コンフィギュレーションから存在しないモジュールのコンフィギュレーションを削除します。
ステップ 3	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

構成の削除

デバイス上の構成を削除して、工場出荷時のデフォルト値に戻すことができます。「構成」は、「show startup」で表示されるスタートアップ構成を指します。他の内部アプリケーションまたはプロセスの状態はクリアされません。

構成の削除機能は、Nexus 9200-X、Nexus 9300-EX、-FX、-FX2、-FX3、および Nexus 9500 シリーズ スイッチでサポートされています。

デバイス上の永続メモリに保存された次のコンフィギュレーションファイルを削除できます。

- 新興企業
- Boot
- デバッグ (Debug)

write erase コマンドを使用すると、次のものを除くすべてのスタートアップ構成が削除されます。

- ブート変数定義
- 次のものを含む mgmt0 インターフェイス上の IPv4 および IPv6 構成：
 - Address
 - サブネット マスク
 - 管理 VRF のデフォルト ゲートウェイ/ルート

mgmt0 インターフェイスのブート変数定義と IPv4 構成を削除するには、**write erase boot** コマンドを使用します。パッチ rpm、サードパーティの rpm、構成以外の /etc ディレクトリ内のアプリケーション構成など、すべてのアプリケーション永続性ファイルを削除するには、「install reset」を使用します。このコマンドは、7.0(3)I6(1) リリースで追加されました。



Note 管理 VRF に複数の IPv6 デフォルト ルートが存在する場合、「copy r s」を使用する直前に管理 VRF の **show ipv6 static-route** コマンドで最初に表示されたデフォルト ルートは、**write erase** および **reload** 後に復元されます。



Note **write erase** を入力した後 コマンドで、ブレークアウト構成を適用するには、ASCII 構成を 2 回リロードする必要があります。

SUMMARY STEPS

1. **write erase [boot | debug]**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<p>write erase [boot debug]</p> <p>Example:</p> <pre>switch# write erase Warning: This command will erase the startup-configuration. Do you wish to proceed anyway? (y/n) [n] y</pre>	<p>永続メモリのコンフィギュレーションを削除します。デフォルトのアクションにより、スタートコンフィギュレーションが削除されます。</p> <p>The boot オプションを使用すると、mgmt0 インターフェイスのブート変数定義と IPv4 構成が削除されません。</p> <p>The debug オプションを使用すると、デバッグ構成が削除されます。</p> <p>Note mgmt0 インターフェイスで複数の IPv6 アドレスを設定すると、show ipv6 interface <intf> コマンドで「copy r/s」を使用する前に最初に表示される IPv6 アドレスは、書き込み消去およびリロード時に復元されません。</p> <p>Note 実行構成ファイルは、このコマンドによって影響を受けません。</p>

非アクティブなコンフィギュレーションのクリア

非アクティブな QoS と ACL のコンフィギュレーションの両方またはいずれか一方をクリアできます。

手順の概要

1. (任意) **show running-config** タイプ **inactive-if-config**
2. **clear inactive-config policy**
3. (任意) **show inactive-if-config log**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>(任意) show running-config タイプ inactive-if-config</p> <p>例 :</p> <pre># show running-config ipqos inactive-if-config</pre>	<p>非アクティブなアクセス制御リスト (ACL) または Quality of Service (QoS) の構成を表示します。</p> <p><i>type</i> 引数の値は、aclmgr および ipqos です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • aclmgr : aclmgr の非アクティブな構成を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • ipqos : qosmgr の非アクティブな構成を表示します。
ステップ 2	clear inactive-config policy 例 : <pre># clear inactive-config qos clear qos inactive config Inactive if config for QoS manager is saved at/bootflash/qos_inactive_if_config.cfg for vdc default you can see the log file @ show inactive-if-config log</pre>	非アクティブなコンフィギュレーションをクリアします。 policy 引数の値は、 qos および acl です。 次に、値について説明します。 <ul style="list-style-type: none"> • qos : 非アクティブな QoS 構成をクリアします。 • acl : 非アクティブな ACL 構成をクリアします。 • acl qos : 非アクティブな ACL 構成および非アクティブな QoS 構成をクリアします。
ステップ 3	(任意) show inactive-if-config log 例 : <pre># show inactive-if-config log</pre>	非アクティブなコンフィギュレーションをクリアするのに使用されたコマンドを表示します。

構成のアーカイブと構成ログ

このセクションには、構成アーカイブと構成ログに関する情報が含まれています。

構成アーカイブの詳細

構成アーカイブは **configure replace** コマンドにより提供される構成のロールバック機能を強化するために、構成ファイルのアーカイブの保存、整理、管理を行うことを目的としたメカニズムです。構成アーカイブの導入前にも、実行構成のコピーを **copy running-config destination-url** コマンドを使用して保存し、ローカルやリモートに置換ファイルを保管できました。ただし、この方法ではファイルの自動管理を行うことはできませんでした。一方、構成の置換とロールバック機能では、実行中の構成のコピーを構成アーカイブに自動的に保存する機能を備えています。アーカイブされたファイルは構成のチェックポイントとして参照することができ、**configure replace** コマンドを使用して以前の構成状態に戻すために利用できます。

archive config コマンドを使用すると、Cisco IOS 構成を構成アーカイブに保存できます。その場合、標準のディレクトリとファイル名のプレフィクスが使用され、バージョン番号（およびオプションでタイムスタンプ）が自動的に付加されます。バージョン番号は連続したファイルを保存するごとに、1 つずつ大きくなります。この機能により、保存した構成ファイルを一貫して識別できます。アーカイブに保存する実行コンフィギュレーションの数は指定することができます。アーカイブ内のファイル数が上限値に達すると、次に最新のファイルが保存されるときに、最も古いファイルが自動的に消去されます。**show archive** コマンドを使用すると、コ

ンフィギュレーションアーカイブに保存されているすべてのコンフィギュレーションファイルに関する情報が表示されます。

構成ファイルを保存する構成アーカイブは、**configure replace** コマンドで使用するによって、ブートフラッシュ、FTP、TFTP のファイルシステム上に配置できます。



(注) この機能の TFTP および FTP は、VRF 管理を使用します。

設定アーカイブの特性の設定

archive config コマンドを使用する前に、コンフィギュレーションアーカイブを設定しておく必要があります。構成アーカイブの特性を構成するには、次の作業を実行します。

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **archive**
3. switch(config-archive)# **path url**
4. switch(config-archive)# **maximum number**
5. switch(config-archive)# **time-period minutes**
6. switch# **write-memory**
7. switch# **archive config**
8. switch# **show archive log config all**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal 例 : switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# archive 例 : switch(config)# archive	アーカイブ構成モードを開始します。 (注) このコマンドは、Cisco Nexus 9300-EX、-FX、および -R シリーズ スイッチに適用されません。
ステップ 3	switch(config-archive)# path url 例 : switch(config-archive)# path bootflash:myconfig	構成アーカイブに、ファイルのディレクトリとファイル名プレフィックスを指定します。 • ハードウェアプラットフォームによって、ファイルシステムの名前は、例に示しているものとは異なる可能性があります。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注) パスのところでファイルの代わりにディレクトリを指定する場合、ディレクトリ名は path flash:/directory/ のように後ろにスラッシュを付ける必要があります。このスラッシュはファイル名の後ろでは必要ありません。ディレクトリを指定する場合にだけ使います。</p>
ステップ 4	<pre>switch(config-archive)# maximum number</pre> <p>例 :</p> <pre>switch(config-archive)# maximum 14</pre>	<p>(任意) 設定アーカイブに保存する実行設定のアーカイブファイルの最大数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • numberは構成アーカイブに保存できる実行構成のアーカイブファイル数の上限値を示します。指定できる範囲は1～14です。デフォルトは10です。 <p>(注) このコマンドを使用する前に、path コマンドを設定して、構成アーカイブの位置とファイル名プレフィックスを指定しておく必要があります。</p>
ステップ 5	<pre>switch(config-archive)# time-period minutes</pre> <p>例 :</p> <pre>switch(config-archive)# time-period 10</pre>	<p>(任意) コンフィギュレーションアーカイブに現在実行中のコンフィギュレーションのアーカイブファイルを自動保存する間隔を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 設定アーカイブに現在の実行設定のアーカイブファイルをどれほどの頻度で自動保存するかを、minutes 引数により分単位で指定します。 <p>(注) このコマンドを使用する前に、path コマンドを設定して、コンフィギュレーションアーカイブの位置とファイル名プレフィックスを指定しておく必要があります。</p>
ステップ 6	<pre>switch# write-memory</pre>	<p>コマンドを有効にします。この機能はデフォルトではディセーブルになっています。このコマンドを入力すると、copy r s コマンドの実行時にアーカイブが生成されます。</p>
ステップ 7	<pre>switch# archive config</pre> <p>例 :</p> <pre>switch# archive config</pre>	<p>現在の実行設定ファイルを設定アーカイブに保存します。</p> <p>(注) path コマンドを構成してから archive config コマンドを使用する必要があります。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	<p>switch# show archive log config all</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show archive log config all INDEX LINE USER LOGGED COMMAND 1 console0 user01 logging console 1 2 console0 user01 logging monitor 2 3 console0 user02 system default switchport shutdown 4 console0 user02 interface mgmt0 5 console0 user02 no shutdown</pre>	すべてのユーザーの構成ログ エントリを表示します。

構成ログに関する情報

構成変更ログは、アカウントログのデータを使用して、実行構成に加えられた変更を追跡します。この構成ログは、CLIのみを介して開始される変更を追跡します。アクションルーチンの呼び出しが発生する完全なコマンドが記録されます。次の種類の入力はログに記録されません。

- 結果的に構文エラー メッセージが表示されるコマンド
- デバイス ヘルプ システムを呼び出す一部のコマンド

この構成ログは、CLIのみを介して開始される変更を追跡します。実行される各設定コマンドでは次の情報が記録されます。

- 設定変更のシーケンス番号
- コマンドが実行された行
- コマンドを実行したユーザーの名前
- 実行されたコマンド

show archive log config all コマンドを使用して、構成ログからの情報を表示できます。

実行される各設定コマンドでは次の情報が記録されます。

- 実行されたコマンド
- コマンドを実行したユーザーの名前
- 設定変更のシーケンス番号

show archive log config コマンドを使用して、構成ログからの情報を表示できます。

構成ログ エントリの表示

構成ログ エントリを表示するために、構成変更ログは **show archive log config all** コマンドを提供します。

手順の概要

1. switch# **show archive log config all**
2. switch# **show archive log config user *username***
3. switch# **show archive log config user *username* first-index *start-number* [last-index *end-number*]**

手順の詳細

ステップ 1 switch# **show archive log config all**

すべてのユーザーの構成ログ エントリを表示します。

例：

```
switch# show archive log config all

INDEX  LINE                USER                LOGGED COMMAND
-----  ---                -
1      console0           user01              | logging console 1
2      console0           user01              | logging monitor 2
3      console0           user02              | system default switchport shutdown
4      console0           user02              | interface mgmt0
5      console0           user02              | no shutdown
```

ステップ 2 switch# **show archive log config user *username***

指定されたユーザー名の構成ログ エントリを表示します。

例：

次の例では、指定されたユーザー名の構成ログ エントリを表示します。

```
switch# show archive log config user user02

INDEX  LINE                USER                LOGGED COMMAND
-----  ---                -
3      console0           user02              | system default switchport shutdown
4      console0           user02              | interface mgmt0
5      console0           user02              | no shutdown
```

ステップ 3 switch# **show archive log config user *username* first-index *start-number* [last-index *end-number*]**

構成ログ エントリをインデックス番号で表示します。オプションの **last-index** を指定する場合、指定したユーザーの開始番号から終了番号までの範囲のインデックス番号を持つすべてのログエントリが表示されます。

例：

次の例では、ユーザー名 **user02** のユーザーの構成ログ エントリ番号 4 および 5 を表示します。開始インデックスと終了インデックスの範囲は 1 ~ 2000000000 です。

```
switch# show archive log config user user02 first-index 4 last-index 5
Last Log cleared/wrapped time is : Wed Oct 19 00:53:08 2016
```

INDEX	LINE	USER	LOGGED COMMAND
4	console0	user02	interface mgmt0
5	console0	user02	no shutdown

デバイス コンフィギュレーションの確認

構成を確認するためには、次のいずれかのコマンドを使用します。

コマンド	目的
show running-config	実行設定を表示します。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。
show time-stamp running-config last-changed	実行構成が最後に変更されたときのタイムスタンプを表示します。

コンフィギュレーションファイルを使用した作業例

ここでは、コンフィギュレーションファイルを使用した作業例を示します。

コンフィギュレーションファイルのコピー

次に、NVRAM の既存のコンフィギュレーションの内容を上書きする例を示します。

```
switch# copy nvram: snapshot-config nvram: startup-config
Warning: this command is going to overwrite your current startup-config.
Do you wish to continue? {y/n} [y] y
```



Note このコマンドは、Cisco Nexus 9300-EX シリーズ スイッチには適用されません。

次に、bootflash: ファイルシステムに実行コンフィギュレーションをコピーする例を示します。

```
switch# copy system: running-config bootflash: my-config
```

コンフィギュレーションファイルのバックアップ

この例では、bootflash: ファイルシステムにスタートアップ コンフィギュレーションをバックアップする方法を示します (ASCII ファイル)。

```
switch# copy startup-config bootflash:my-config
```

この例では、TFTP サーバにスタートアップ コンフィギュレーションをバックアップする方法を示します (ASCII ファイル)。

```
switch# copy startup-config tftp://172.16.10.100/my-config
```

この例では、bootflash: ファイルシステムに実行コンフィギュレーションをバックアップする方法を示します (ASCII ファイル)。

```
switch# copy running-config bootflash:my-config
```

以前の構成へのロールバック

現在のコンフィギュレーションを以前保存したコンフィギュレーションのスナップショットコピーにロールバックするには、次の手順を実行する必要があります。

1. **write erase** コマンドで、現在の実行イメージをクリアします コマンドを使用します。
2. **reload** によりデバイスを再起動します を実行する前に、ユーザ名がコンフィギュレーションファイルに指定されていることを確認してください。
3. **copy configuration-file running-configuration** コマンドで、以前保存した構成ファイルを実行構成にコピーします。
4. **copy running-config startup-config** コマンドを使用して、実行構成をスタートアップ構成にコピーします。



第 11 章

Nexus Switch Intersight デバイス コネクタ

この章は、次の内容で構成されています。

- [NexusSwitch Intersight デバイス コネクタの概要](#) (171 ページ)
- [NXDC の構成](#) (172 ページ)
- [NXDC の検証](#) (174 ページ)

NexusSwitch Intersight デバイス コネクタの概要

デバイスは、各システムの Cisco NX-OS image に組み込まれている NexusSwitch Intersight Device Connector (NXDC) を介して Intersight ポータルに接続されます。

Cisco NX-OS Release 10.2(3)F 以降、NX-OS 機能のデバイス コネクタは、接続されているデバイスに対して、セキュリティで保護されたインターネット接続を使用して情報を送信し、Cisco Intersight ポータルから制御命令を受信できる安全な方法を提供します。

Cisco Nexus スイッチは適切に [svc.intersight.com](#) を解決し、ポート 443 でアウトバウンドで開始される HTTPS 接続を許可することが必要です。 [svc.ucs-connect.com](#) を解決するには、Cisco Nexus デバイスに DNS を設定する必要があります。 [svc.intersight.com](#) への HTTPS 接続にプロキシが必要な場合は、プロキシは NXDC ユーザー インターフェイスで構成できます。プロキシ設定については、[NXDC の構成](#) (172 ページ) を参照してください。

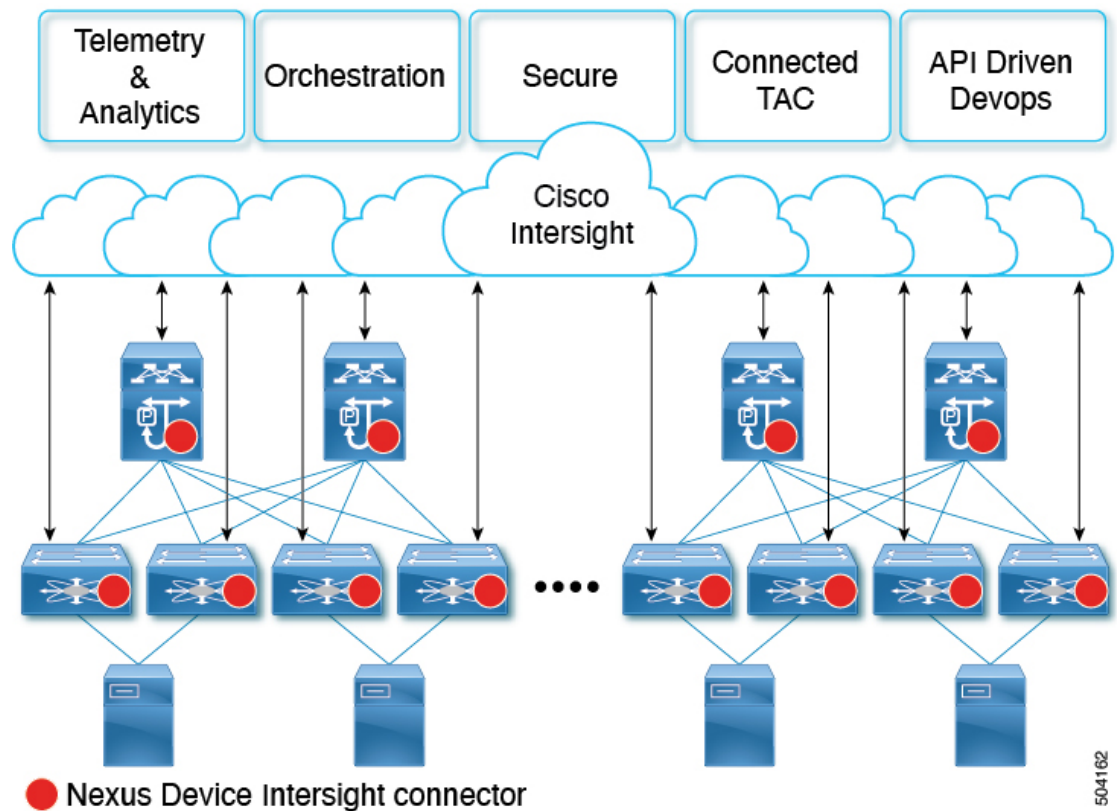
NXDC は、すべての Cisco Nexus シリーズ スイッチでデフォルトで有効になっており、デフォルトで起動時に開始され、クラウドサービスへの接続を試みます。安全な接続が確立され、デバイス コネクタが Intersight サービスに登録されると、デバイス コネクタは詳細なインベントリ、正常性ステータスを収集し、採用テレメトリ データを Intersight データベースに送信します。インベントリは 1 日に 1 回更新されます。

NXDC は Intersight に接続すると、Intersight サービスによる更新を介して、最新のバージョンに自動的に更新される AutoUpdate 機能をサポートします。

NXDC は、接続された TAC 機能をサポートして、デバイスからテクニカルサポートデータを収集します。

NXDC 機能の統合は、次の機能を持つ非管理対象スイッチを解決するために行われました。

- 非管理対象スイッチから基本データを収集するための迅速なソリューションを提供します。
- すべてのデバイスのプライベートで整理されたデータを 1 つの場所に保存します。
- クラウドでデータを安全に管理します。
- 将来の拡張やアップグレードに柔軟に対応できます。



NXDC の構成

NXDC を構成するには、以下の手順に従います。



(注) デフォルトでは、NXDC 機能は有効です。

手順の概要

1. **no feature intersight**
2. **install deactivate <intersight rpm>**
3. **intersight proxy <proxy-name> port <proxy-port>**

4. **intersight use-vrf** *vrf-name*
5. **intersight connection** *<name>*
6. **intersight trustpoint** *<trustpoint-label>* [*host-name*]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	no feature intersight 例 : <pre>switch(config)# no feature intersight</pre>	Intersight プロセスを無効にし、すべての NXDC 構成とログストアを削除します。
ステップ 2	install deactivate <i><intersight rpm></i> 例 : <pre>switch(config)# show install active i intersight intersight_64-1.0.0.0-10.2.3.lib32_64_n9000 switch(config)# install deactivate intersight_64-1.0.0.0-10.2.3.lib32_64_n9000</pre>	起動時に自動的に実行されないように Intersight を無効にします。
ステップ 3	intersight proxy <i><proxy-name></i> port <i><proxy-port></i> 例 : <pre>switch(config)# intersight proxy proxy.esl.cisco.com port 8080</pre>	Intersight 接続用のプロキシサーバーを構成します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>proxy-name</i> : プロキシサーバーの IPv4 または IPv6 アドレスまたは DNS 名。 • <i>Proxy Port</i> : プロキシのポート番号を入力します。範囲は 1 ~ 65535 です。デフォルト値は 8080 です。 (注) Cisco Nexus スイッチのスマートライセンス設定でプロキシが有効になっている場合、NXDC はこの設定を継承し、Cisco Intersight Cloud との接続を試みます。
ステップ 4	intersight use-vrf <i>vrf-name</i> 例 : <pre>switch(config)# intersight use-vrf blue</pre>	接続が指定された vrf 経由の場合、NXDC の vrf を変更します。 (注) デフォルトでは、Intersight は管理 vrf/namespace で開始されます。
ステップ 5	intersight connection <i><name></i> 例 : <pre>switch(config)# intersight connection qaconnect.starshipcloud.com</pre>	Intersight 接続の DNS 名を設定します。Intersight から NDSaaS への変更に使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>name</i> : 名前の値は文字列です。最大サイズは 128 です。
ステップ 6	intersight trustpoint <i><trustpoint-label></i> [<i>host-name</i>] 例 :	Intersight 接続の証明書を構成します。

コマンドまたはアクション	目的
switch(config)# intersight trustpoint test test	<i>trustpoint-label</i> : Crypto ca trustpoint ラベル。詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Security Configuration Guide』を参照してください。

NXDC の検証

NXDC 構成を確認するには、次の Bash コマンドを使用します。



(注) 機能 Bash を有効にする必要があります。

コマンド	目的
run bash exec ip netns exec <vrf-name> curl http://localhost:8889/Systems	デバイス コネクタのシステム情報を表示します。
run bash exec ip netns exec <vrf-name> curl http://localhost:8889/DeviceConfigurations	デバイスの構成を表示します。
run bash ip netns exec <vrf-name> curl http://localhost:8889/DeviceConnections	デバイス接続を表示します。
run bash ip netns exec <vrf-name> curl http://localhost:8889/DeviceIdentifiers	デバイス ID を表示します。 (注) 次の show コマンドを使用して、デバイス ID を取得できます。 • show inventory chassis
run bash ip netns exec <vrf-name> curl http://localhost:8889/SecurityTokens	セキュリティ トークンを表示します。
run bash ip netns exec <vrf-name> curl http://localhost:8889/HttpProxies	HTTP プロキシ情報を表示します。

ペイロードタイプが bash に設定されている場合は、NX-API を使用して show コマンドを実行できます。

例：

```
payload={
  "ins_api": {
    "version": "1.0",
    "type": "bash",
    "chunk": "0",
    "sid": "sid",
    "input": "ip netns exec management curl http://localhost:8889/HttpProxies",
    "output_format": "json"
  }
}
```



```
}  
}
```

結果:

```
{  
  "ins_api": {  
    "version": "1.0",  
    "sid": "eoc",  
    "type": "bash",  
    "outputs": {  
      "output": {  
        "body": "[\n {\n   \"ProxyHost\": \"\",\n   \"ProxyPort\": 0,\n   \"Preference\": 0,\n   \"ProxyType\": \"Disabled\"\n }]\n",  
        "code": "200",  
        "msg": "Success"  
      }  
    }  
  }  
}
```

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。

リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。